Canon

EOS 20D DIGITAL

Canon EOS 20D DIGITAL 使用説明書 J

キヤノン製品のお買い上げありがとうございます。

EOS 20D は、有効画素約820万・高精細大型CMOSセンサーを搭載した高性能デジタルAF一眼レフカメラです。本機は、高精度9点AF搭載、全EFレンズ群対応（EF-Sレンズを含む)、いつでもすぐに撮影できる画期的な機動性、簡単な自動撮影から高度な応用撮影にまで最適対応する豊富な撮影機能など、さまざまな特長を備えています。

ご使用になる前に、カメラを手にとりながら、この使用説明書をお読みになって理解を深め、操作に慣れた上で正しくお使いください。

撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、別紙の『安全上のご注意』、および『取り扱い上のご注意』（6、7ページ）をお読みください。

試し撮りと撮影内容の補償について

必ず事前に試し撮りをして、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ（本機）やCFカードなどの不具合により、撮影画像の記録やパソコンへの読み込みがされなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について

あなたがカメラ（本機）で記録した権利者のいる被写体の画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

- CanonおよびEOSは、キヤノン株式会社の商標です。
- Adobe、およびPhotoshopは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- CompactFlash（コンパクトフラッシュ）は、SanDisk Corporationの商標です。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国および他の国における商標または登録商標です。
- Macintoshは、米国および他の国で登録された、米国アップルコンピュータ社の商標です。
- DCF*は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。DCFロゴマークは、（社）電子情報技術産業協会の「Design rule for Camera File System」の規格を表す団体商標です。
- その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

* DCFは、主としてデジタルカメラの画像ファイルを関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

* このデジタルカメラは、DCF 2.0とExif 2.21（愛称「Exif Print」）に対応しています。Exif Printは、デジタルカメラとプリンターの連携を強化した規格です。Exif Print対応のプリンターと連携することで、撮影時のカメラ情報を活かし、それを最適化して、よりきれいなプリント出力結果を得ることができます

付属品の確認

ご使用になる前に、以下のものがすべてそろっているか確認してください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。

□ **EOS 20D**／カメラ本体（アイカップ、ボディキャップ付き、日付/時計機能用リチウム電池内蔵）

□ **EF-S18-55mm F3.5-5.6 USM**／レンズ（レンズキャップ、ダストキャップ付き）　＊レンズ付きキットをお買い求めの場合

□ **バッテリーパック BP-511A**（保護カバー付き）

□ **バッテリーチャージャー CG-580**

□ **インターフェースケーブル IFC-400PCU**

□ **ビデオケーブル VC-100**

□ **ワイドストラップ EW-100DGR**（アイピースカバー付き）

イオス　デジタル　ソリューション　ディスク
□ **EOS DIGITAL Solution Disk**（CD-ROM）

デジタル　フォト　プロフェッショナル　ディスク
□ **Digital Photo Professional Disk**（CD-ROM）

アドビ　フォトショップ　エレメンツ　ディスク
□ **Adobe Photoshop Elements Disk**（CD-ROM）

□ **ポケットガイド**
すぐに撮影したい方は、このポケットガイドをご覧ください。

□ **EOS 20D使用説明書**（本書）

□ **ソフトウェアの正しいインストールのしかた**
ソフトウェアのインストール方法と、ソフトウェアの内容を紹介しています。

□ **EOS 20Dソフトウェア使用説明書**
撮影した画像のパソコンへの取り込み、RAW 画像の現像処理・画像処理の方法について説明しています。

□ **バッテリーパック BP-511A使用説明書**

□ **レンズ使用説明書**　＊レンズ付きキットをお買い求めの場合

□ **お客様ご相談窓口一覧／安全上のご注意**

□ **カメラ保証書**

□ **レンズ保証書**　＊レンズ付きキットをお買い求めの場合

※ 付属品は、なくさないようご注意ください。

※ 撮影画像を記録する**CFカードは付属していません**ので、別途ご購入ください。なお、CFカードはキヤノン製CFカードのご使用をおすすめします。

目　次

はじめに

1　撮影前の準備と基本操作　15

2　カメラまかせの自動撮影　37

3　画像に関する設定　43

4　AF/ 測光 / ドライブの設定　61

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに最寄りの修理サービスご相談窓口にご相談ください。また、水滴がついたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふきとってください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因となることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーンなどにゴミがついているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りの修理サービスご相談窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因となることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは結露の発生をふせぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因となりますので、カメラをお使いにならないでください。レンズ、CFカード、バッテリーをカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラをお使いください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラからバッテリーを取り出し、風通しがよく、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りの修理サービスご相談窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。

表示パネルと液晶モニターについて

- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており 99.99% 以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

CFカードについて

- CFカードは精密にできています。落としたり振動を与えたりしないでください。CFカードに記録されている画像が壊れる原因となります。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや静電気の発生しやすい所で保管、使用しないでください。CFカードに記録されている画像データが消えてしまうことがあります。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。CF カードが変形して使用できなくなります。
- CFカードに液体をこぼさないでください。
- 大切な画像データを守るため、CF カードは必ずケースなどに入れて保管してください。
- キヤノン製以外のCFカードを使用すると、画像の記録・再生ができないことがあります。このようなときは、キヤノン製CFカードのご使用をおすすめします。
- 曲げたり、強い力や衝撃を与えたりしないでください。
- 温度の高い所、ほこりや湿気の多い所に保管しないでください。

レンズの接点について

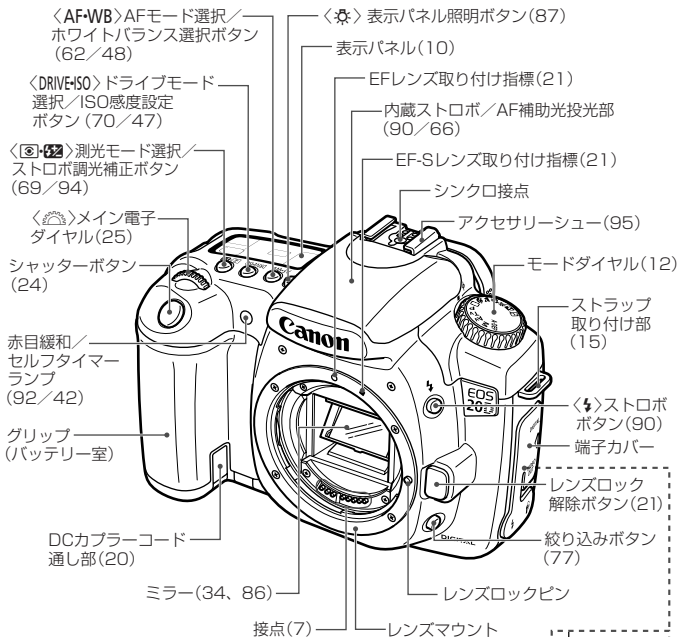
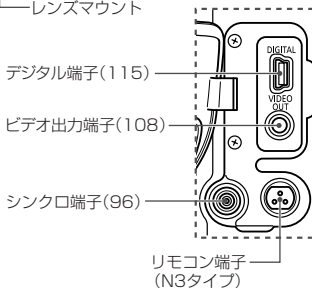
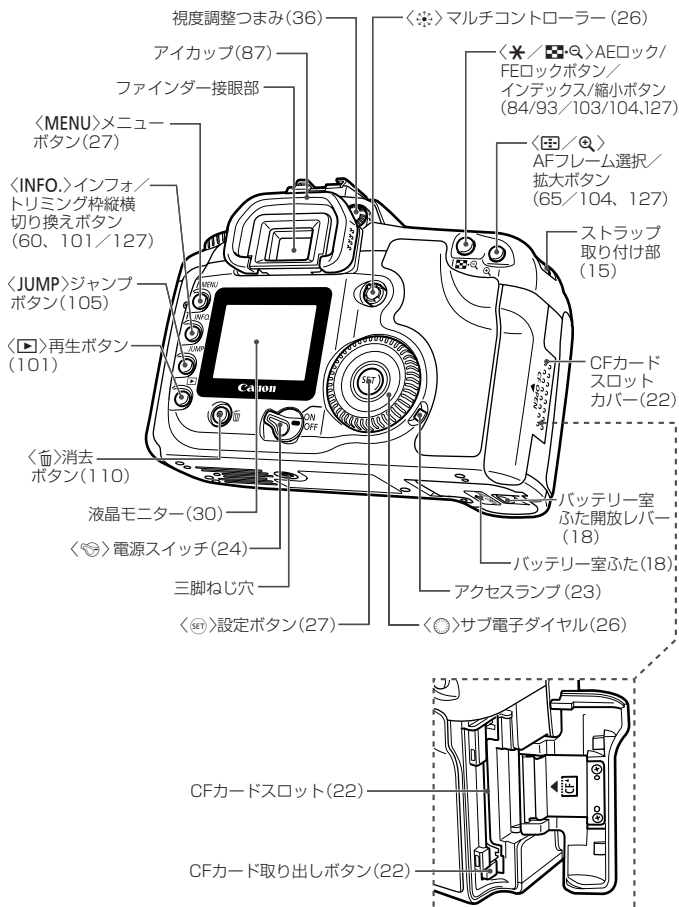
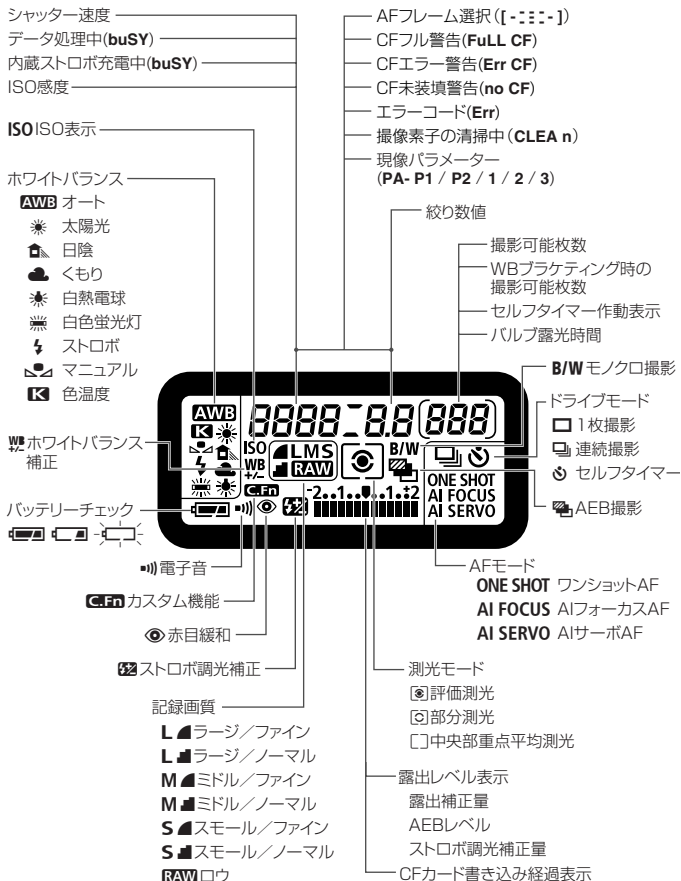
レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。

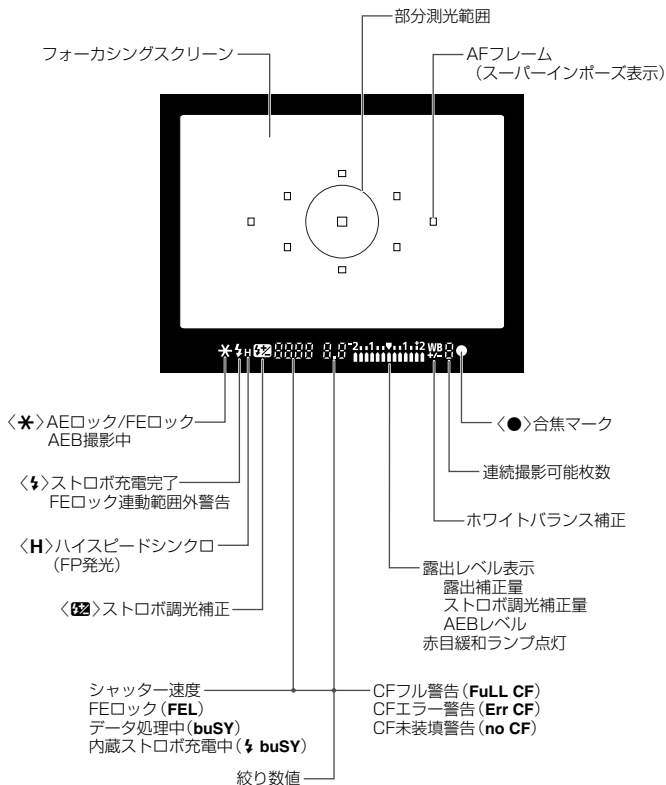
妨害電波自主規制について

このカメラ（本機）は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準にもとづくクラスB情報技術装置です。このカメラ（本機）は、家庭環境で使用することを目的としていますが、このカメラ（本機）をラジオやテレビジョン受信機に近接して使用すると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

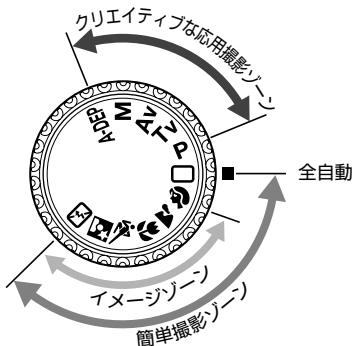
各部の名称

（＊＊）の＊＊部は参照ページを示しています。

視度調整つまみ(36)
〈 〉マルチコントローラー (26)
アイカップ(87)
〈 ／ 〉AEロック/
FEロックボタン／
インデックス/縮小ボタン
(84/93／103/104､127)
ファインダー接眼部
〈MENU〉メニュー
ボタン(27)
〈 ／ 〉
AFフレーム選択／
拡大ボタン
(65／104、127)
〈INFO.〉インフォ／
トリミング枠縦横
切り換えボタン
(60、101／127)
ストラップ
取り付け部
(15)
〈JUMP〉ジャンプ
ボタン(105)
〈 〉再生ボタン
(101)
CFカード
スロット
カバー(22)
〈 〉消去
ボタン(110)
バッテリー室
ふた開放レバー
(18)
液晶モニター(30)
〈 〉電源スイッチ(24)
バッテリー室ふた(18)
三脚ねじ穴
アクセスランプ (23)
〈 〉設定ボタン(27)
〈 〉サブ電子ダイヤル(26)
CFカードスロット(22)
CFカード取り出しボタン(22)

表示パネル

表示は、状況に応じた部分のみ表示されます。

ファインダー内表示

表示は、状況に応じた部分のみ表示されます。

モードダイヤル

モードダイヤルは2つの機能ゾーンに分けられています。

① 簡単撮影ゾーン

基本操作はシャッターボタンを押すだけです。

：**全自動**（38）
カメラまかせの全自動撮影ができます。

イメージゾーン

被写体別にカメラまかせの全自動撮影ができます。

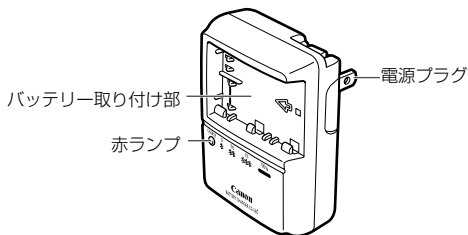
- ：ポートレート（40）
- ：風景（40）
- ：クローズアップ（40）
- ：スポーツ（41）
- ：夜景ポートレート（41）
- ：ストロボ発光禁止（41）

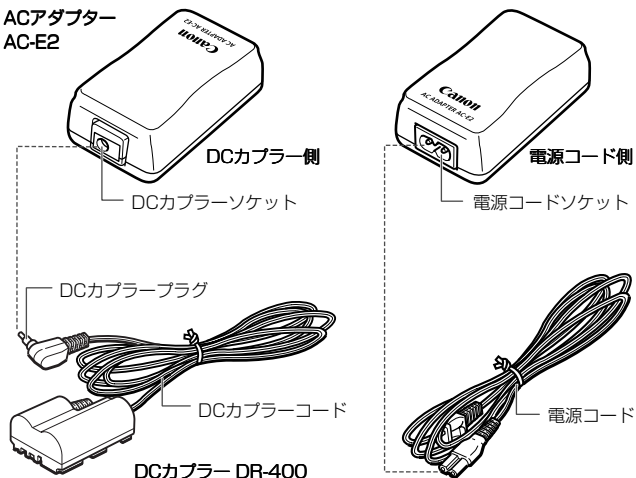
② クリエイティブな応用撮影ゾーン

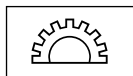
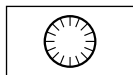
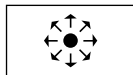
思いどおりのさまざまな撮影ができます。

- **P**　：プログラムAE（72）
- **Tv**　：シャッター優先AE（74）
- **Av**　：絞り優先AE（76）
- **M**　：マニュアル露出（78）
- **A-DEP**：自動深度優先AE（80）

バッテリーチャージャー CG-580

バッテリーパックの充電器です。（16）

ACアダプターキット ACK-E2（別売）

家庭用電源でカメラを動かすときに使います。（20）

本使用説明書上のおことわり

- 本文中の〈〉は、電源スイッチを示しています。
- 〈〉スイッチが〈ON〉または〈〉の位置になっていることを前提に、操作方法を説明しています。

- 本文中の〈〉は、メイン電子ダイヤルを示しています。

- 本文中の〈〉は、サブ電子ダイヤルを示しています。
- 〈〉操作は、〈〉スイッチが〈〉の位置になっていることを前提に操作方法を説明しています。操作する前に〈〉を〈〉にしてください。

- 本文中の〈〉は、マルチコントローラーを示しています。

- 本文中の〈SET〉は、設定ボタンを示しています。メニュー機能、カスタム機能の設定などに使用します。

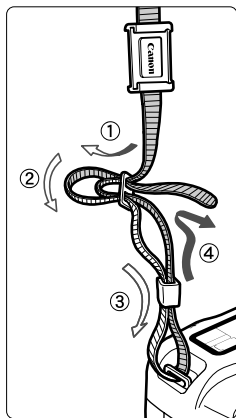
- 本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンやダイヤル、マークなど、カメラに表示されている絵文字を使用しています。
- （＊＊）の＊＊部は参照ページを示しています。
- ページタイトル右の★マークは、応用撮影ゾーン（**P**、**Tv**、**Av**、**M**、**A-DEP**）限定の機能であることを示しています。
- 本書では、EF-S17-85mm F4-5.6 IS USMレンズを取り付けた状態で説明しています。
- メニュー機能およびカスタム機能は、初期状態を前提に説明しています。
- **MENU**は、メニュー機能で設定変更できることを示しています。
- （4）／（6）／（16）は、ボタンから指を離しても、その状態がタイマーの働きにより、それぞれ4秒間／6秒間／16秒間保持されることを示しています。
- 本文中の以下のマークがついた欄は、それぞれ次のような内容になっています。

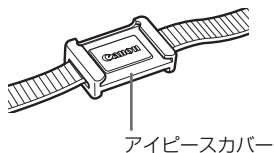
：撮影に不都合が生じるおそれのある注意事項が書かれています。

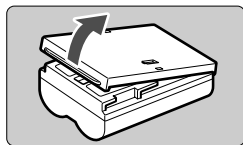
：基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書かれています。

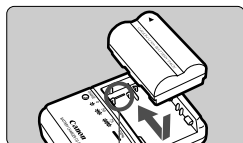
1

撮影前の準備と基本操作

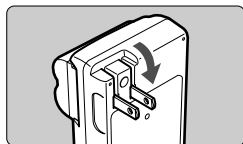
この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、操作の基本について説明します。

ストラップ（吊りひも）の取り付け方
ストラップの先をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている止め具の内側を通します。止め具の部分 のたるみを取り、引っぱっても止め具の部分がゆるまないことを確認してください。

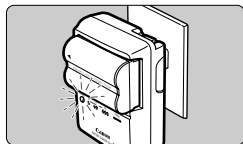
● ストラップにはアイピースカバーが付いています。（87）

バッテリーを充電する

バッテリーの詳しい取り扱い方法については、バッテリーパックBP-511Aの使用説明書を参照してください。

1 保護カバーを外す

● バッテリーをカメラから取り出したときは、ショート防止のため必ずカバーを取り付けてください。

〈―〉マーク

2 バッテリーを取り付ける

● バッテリーチャージャーの〈―〉マークにバッテリーの先端を合わせ、押し付けながら、スライドさせて取り付けます。
● 取り外しは逆の手順で行います。

3 電源プラグを起こす

● バッテリーチャージャーのプラグを矢印の方向に起こします。

4 充電する

● プラグをコンセントに差し込みます。
➡ 自動的に充電が始まり、赤ランプが点滅します。
➡ **使い切ったバッテリーの充電に要する時間は、次のとおりです。**
BP-511A、BP-514：約100分
BP-511、BP-512　：約90分

充電状態	赤ランプ
0～50%	1回／秒：点滅
50～75%	2回／秒：点滅
75～90%	3回／秒：点滅
90%以上	点灯

● バッテリーチャージャーに印刷されている数字と点は、左の表を図式化したものです。

- バッテリーパックBP-511A、BP-514、BP-511、BP-512以外は充電しないでください。
- バッテリーを長期間カメラに入れたままにしておくと、カメラを使用しなくても微少の電流が流れて過放電になり、バッテリー寿命短縮の原因となります。カメラを使用しないときは、バッテリーをカメラから取り出し、ショート防止用の保護カバーを取り付けて保管してください。カメラを使用するときは、必ずバッテリーを充電してから使用してください。

- **赤ランプが点灯してから、続けて約1時間充電を続けると、フル充電にすることができます。**
- バッテリーパックの保護カバーには、任意に取り付ける向きを変えることで、充電済みかそうでないかを自分で判別できるよう、窓がついています。

- 充電が終わったら、バッテリーを取り外し、プラグをコンセントから抜いてください。
- 充電時間は、周囲の温度やバッテリーの充電状態によって異なります。
- バッテリーは0℃～40℃の範囲で使用できますが、性能を十分に発揮させるためには 10℃～30℃の範囲で使用することをおすすめします。スキー場などの低温下ではバッテリーの性能が一時的に低下し、使用時間が短くなることがあります。
- 規定の充電をしたにもかかわらず、著しく使用できる時間が低下したときは、寿命と考えられます。新しいバッテリーをお買い求めください。

- この製品には、リチウムイオン電池を使用しています。
- この電池はリサイクル可能な貴重な資源です。
- この電池の回収、リサイクルについては、下記のキヤノンホームページで確認できます。

  キヤノンサポートページ：canon.jp/support

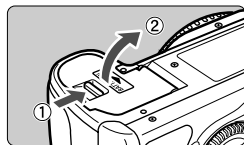
- 交換後不要になった電池は、ショートによる発煙、発火の恐れがありますので、端子を絶縁するためにテープを貼るか、個別にポリ袋に入れてリサイクル協力店にある充電式電池回収BOXに入れてください。
- リサイクル協力店のお問い合わせは、以下へお願いします。
  - ·製品、リチウムイオン電池をご購入いただいた販売店
  - ·（社）電池工業会 小形二次電池再資源化推進センター及び充電式電池リサイクル協力店くらぶ事務局*

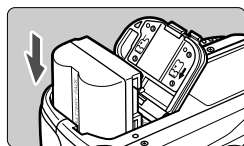
    *（社）電池工業会 電話番号 03-3434-0261

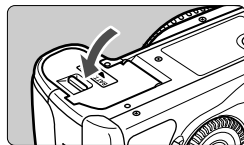
リサイクル時のご注意：電池を分解しないでください。

バッテリーを入れる／取り出す

入れ方

充電したバッテリーパックBP-511Aをカメラに入れます。

1 ふたを開ける

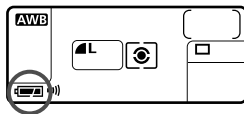
- レバーを矢印の方向にスライドさせて、ふたを開けます。

2 バッテリーを入れる

- バッテリーの接点を下にして入れてください。
- ロック位置までしっかりと入れてください。

3 ふたを閉める

- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押します。

バッテリーパックBP-514、BP-511、BP-512も使用できます。

バッテリーチェックについて

バッテリーの残量は、〈◎〉スイッチを〈ON〉または〈⁀〉の位置（24）にしたときに、3段階で表示されます。

：バッテリーの容量は十分です。

：残量が少なくなっています。

：バッテリー を充電してください。

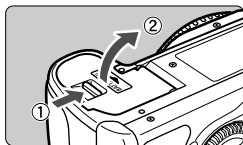
撮影可能枚数の目安

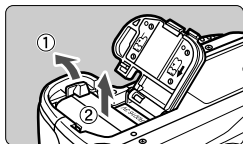
[枚]

温度	撮影条件	
	ストロボ撮影なし	50%ストロボ撮影
常温（+20℃）	約1000	約700
低温（0℃）	約750	約550

● 撮影可能枚数は、フル充電のBP-511A使用、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。

● 実際の撮影条件との違いにより、撮影可能枚数が表記数値よりも少なくなることがあります。
● 液晶モニターを頻繁に使用すると、撮影可能枚数は少なくなります。
● シャッターボタン半押し状態を長く続けたり、AFのみ行って撮影しないという操作を頻繁に行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
● BP-514使用時の撮影可能枚数は、表記枚数と同じになります。
● BP-511、BP-512使用時の撮影可能枚数は、常温で表記枚数の約75%になります。低温では表記数値とほぼ同じになります。

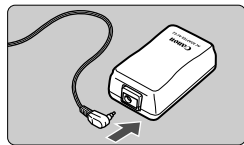
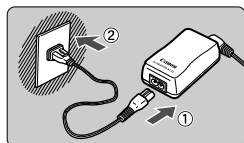
取り出し方

1 ふたを開ける

● レバーを矢印の方向にスライドさせて、ふたを開けます。

2 バッテリーを取り出す

● バッテリーロックレバーを矢印方向にスライドさせて、ロックを外し、バッテリーを取り出します。

家庭用電源を使用する

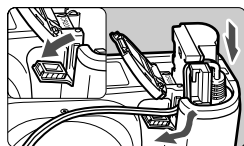
ACアダプターキットACK-E2（別売）を使うと、家庭用電源を使用してバッテリーの残量を気にせずにカメラを使うことができます。

1 DCカプラーを接続する

● DC カプラーのプラグを AC アダプターのソケットに接続します。

2 電源コードを接続する

● 電源コードをACアダプターに接続します。
● プラグをコンセントに差し込みます。
● 使い終わったら、プラグをコンセントから抜いてください。

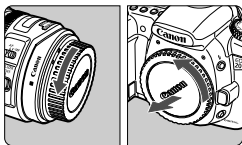
3 コードを溝にはめ込む

● コードを傷つけないように、ていねいにはめ込みます。

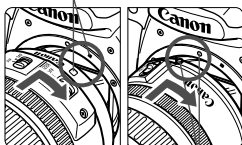
4 DCカプラーを入れる

● ふたを開け、DC カプラーコード通し部のカバーを開きます。
● DCカプラーをロック位置まで入れ、コードを通し部に入れます。
● ふたを閉じます。

カメラの〈 〉スイッチを〈ON〉または〈 〉の位置にしたままで、電源コードの抜き差しを行わないでください。

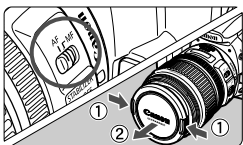
レンズを取り付ける／取り外す

取り付け方

1 キャップを外す

- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。

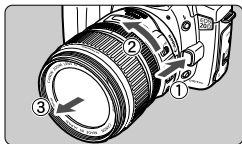
EF-Sレンズ取り付け指標

EFレンズ取り付け指標

2 レンズを取り付ける

- EF-Sレンズとカメラの、白いEF-Sレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。
- EF-Sレンズ以外を取り付けるときは、赤い取り付け指標に合わせます。

3 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

- 〈MF〉になっているとオートフォーカスできません。

4 レンズキャップを外す

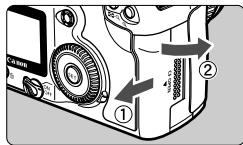
取り外し方

レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

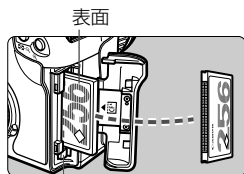
- 回転が止まるまで回してから、取り外します。

> レンズの取り付け／取り外しを行う際に、ゴミやホコリがマウント部からカメラ内部に入らないよう、十分に注意してください。

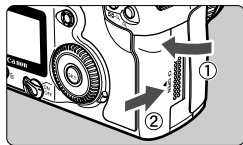
CF カードを入れる／取り出す

撮影した画像は、CFカード（別売）に記録されます。
CFカードには、厚さの異なるタイプ I、タイプ II がありますが、このカメラでは、どちらのタイプでも使用できます。また、マイクロドライブや2GB以上の大容量のCFカードも使用できます。

入れ方

1 カバーを開ける

- カバーを矢印の方向にスライドさせてから、開きます。

2 CFカードを入れる

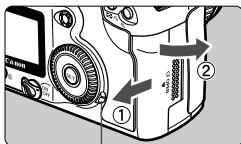
- キヤノン製 CF カードの使用をおすすめします。
- **CFカードを入れる向きを間違えると、カメラが壊れます。**
  図のようにCFカードの表を手前にして、小さい穴が並んでいる方を奥にして差し込みます。

➡ CF カード取り出しボタンが飛び出します。

3 カバーを閉める

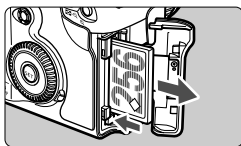
- カバーを閉じてから、矢印の方向に「カチッ」と音がするまでしっかりとスライドさせます。

➡〈電源〉スイッチを〈ON〉または〈／〉の位置にすると、表示パネルに撮影可能枚数が表示されます。

撮影可能枚数は、使用するCFカードの空き容量や、設定したISO感度などにより変わります。

取り出し方

アクセスランプ

1 カバーを開ける

- 〈〉スイッチを〈OFF〉にします。
- 表示パネルに「**buSY**」が表示されていないことを確認します。
- アクセスランプが消えていることを確認して、カバーを開きます。

2 CFカードを取り出す

- CF カード取り出しボタンを押し込みます。
- ➡ CFカードが出てきます。
- カバーを閉じます。

● アクセスランプが点滅しているときは、CFカードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。絶対に次のことを行わないでください。画像データが壊れます。また場合によってはCFカードが壊れたり、カメラ本体が損傷する原因となります。
・カメラ本体に振動や衝撃を与える
・CFカードスロットカバーを開ける
・バッテリーを取り出す

● 表示パネルに「**Err CF**（エラーシーエフ）」が表示されたときは、112ページを参照してください。
● 低容量のCFカードでは、画像サイズが大きくなると、CFカードに記録できないことがあります。
● マイクロドライブは、CFカードに比べると振動や衝撃に弱いため、マイクロドライブをお使いになるとき、特に記録や再生中は、カメラに振動や衝撃を与えないよう、十分に注意してください。

メニュー機能の［**カードなしレリーズ**］を［**しない**］に設定すると、CFカードを入れ忘れたまま撮影することを防止できます。（88）

撮影の基本操作

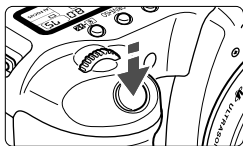
電源スイッチ

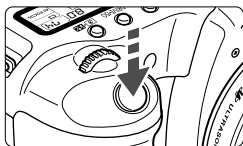
このカメラは〈　〉スイッチを入れて初めて作動します。

〈OFF〉：カメラは作動しません。
〈ON〉：カメラが作動します。
〈　〉：カメラと〈　〉が作動します。（26）

- バッテリーの消耗を防ぐため、約1分間何も操作しないと自動的に電源が切れます。シャッターボタンを押すと再度電源が入ります。
- 電源が切れるまでの時間を、メニュー機能の［**オートパワーオフ**］で変更することができます。（31）
- CF カードへの画像記録中に〈　〉スイッチを〈OFF〉にすると、あと何枚で画像記録が終わるかを表示パネルの〈　〉の数で表示します。画像記録が終了すると、表示が消えて電源が切れます。

シャッターボタン

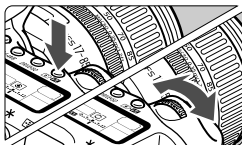
シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで押すことを「全押し」といいます。

半押し

AF（オートフォーカス）によるピント合わせと、自動露出機構によるシャッター速度と絞り数値の設定が行われます。
露出値（シャッター速度と絞り数値）が、表示パネルとファインダー内に表示されます。（4）

全押し

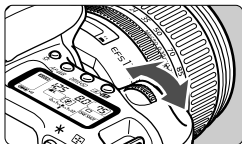
シャッターが切れて撮影されます。

- シャッターボタン半押し後のタイマー（⏱4）が切れた状態から撮影するときは、シャッターボタン半押し後、一呼吸置いてから全押ししてください。シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
- カメラがどんな状態（画像再生中、メニュー選択中、画像記録中など）にあっても、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影準備状態に戻ります（ダイレクトプリント出力中を除く）。
- シャッターが切れる瞬間にカメラが動くことを「手ブレ」といい、全体がぼけたような写真になります。鮮明な写真を撮るために次の点に注意してください。また、『カメラの構え方』（36）もあわせてお読みください。
  ・カメラが動かないようにしっかり構えます。
  ・シャッターボタンに指の腹をかけ、カメラ全体を握るような感じで、静かに押します。

〈 〉による基本操作

〈 〉は、おもに撮影に関する選択・設定に使用します。

(1) ボタンを押したあと、〈 〉を回す

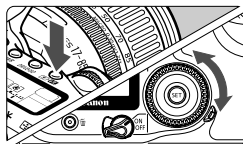
ボタンを押すと、その機能選択状態がタイマー（⏱6）で保持されます。その間に〈 〉を回します。タイマーが終了するかシャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- AF モード、ドライブモード、測光モード、AFフレームの選択・設定に使用します。

(2) 〈 〉のみを回す

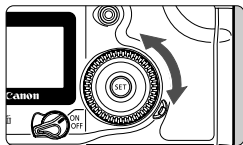
表示パネルやファインダー内表示を見ながら〈 〉を回します。

- シャッター速度や絞り数値などの設定に使用します。

〈◎〉による基本操作

〈◎〉は、撮影に関する選択・設定と、液晶モニター表示内容の選択に使用します。撮影準備操作で〈◎〉を操作するときは、〈◎〉スイッチを〈╱￣〉の位置にしてください。

(1) ボタンを押したあと、〈◎〉を回す

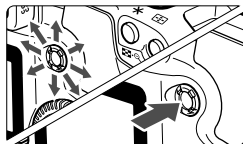
ボタンを押すと、その機能選択状態がタイマー（⏱6）で保持されます。その間に〈◎〉を回します。タイマーが終了するかシャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- ホワイトバランス、ISO感度、ストロボ調光補正、AFフレームの選択・設定に使用します。
- 液晶モニター使用時は、メニュー機能の選択、再生時の記録画像の選択などに使用します。

(2) 〈◎〉のみを回す

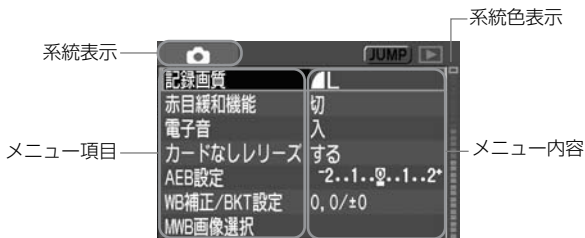
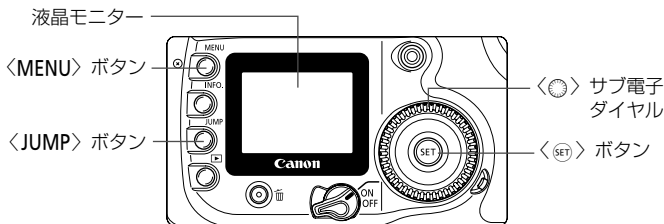
表示パネルやファインダー内表示を見ながら〈◎〉を回します。

- 露出補正や〈**M**〉モード時の絞り数値の設定などに使用します。

(1) の操作は、〈◎〉スイッチが〈ON〉の位置でも行うことができます。

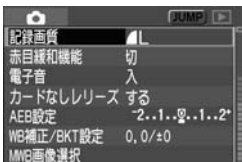
〈✥〉による操作

〈✥〉は8方向キーと、中央押しボタンの構造になっています。AFフレーム選択、ホワイトバランス補正、拡大ズーム表示中の画面移動、ダイレクトプリント時のトリミング枠の移動に使用します。

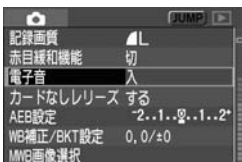
メニュー機能の操作と設定

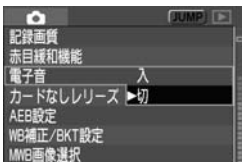
このカメラでは、記録画質や現像パラメーター、日付/時刻、カスタム機能など、さまざまな設定をメニュー機能で行います。基本操作は、液晶モニターを見ながら、カメラ背面の〈MENU〉ボタン、〈◎〉、〈SET〉を使って行います。

メニュー画面は、項目の内容によって3系統に色分けされています。

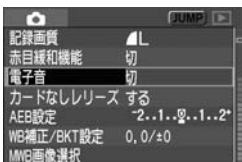
アイコン	色	系統	説明
📷	赤	撮影系	撮影に関する項目
▶	青	再生系	撮影した画像の再生操作に関する項目
🔧	黄	セットアップ系	カメラの基本機能に関する項目

- 〈JUMP〉ボタンを押すと、各系統の先頭項目に移動します。
- メニュー画面を表示している状態でも、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影準備状態に戻ります。

メニュー機能の設定操作

1 メニューを表示する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。もう一度押すと表示が消えます。

2 メニュー項目を選ぶ

- 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。
- 〈JUMP〉ボタンを押すと、各系統の先頭項目に移動します。

3 メニュー内容を選ぶ

- 〈◎〉を回して内容を選びます。

4 内容を設定する

- 〈SET〉を押すと設定されます。

5 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示が消え、設定が終了します。

- 簡単撮影ゾーンでは、表示されないメニュー項目があります。（29）
- メニュー機能の選択操作や、再生関連操作を〈◎〉で行うこともできます。
- この項以降のメニュー機能の説明は、〈MENU〉ボタンを押して、メニュー画面が表示されていることを前提に説明しています。
- 撮影後のCFカード書き込み中（アクセスランプ点滅中）に、メニュー操作を行うこともできます。

メニュー機能一覧

〈撮影〉撮影系（赤）　参照頁

記録画質	L／L／M／M／S／S／RAW／RAW+L／+L／+M／+M／+S／+S	44
赤目緩和機能	切／入	92
電子音	入／切	88
カードなしレリーズ	する／しない	88
AEB設定	1/3段ステップ、±2段	82
WB補正/BKT設定	B/A/M/G寄り各色9段／B/A、M/G方向1段ステップ±3段	51,52
MWB画像選択	ホワイトバランスの手動設定	49
色温度	2800～10000Kの範囲で設定（100K単位）	50
色空間	sRGB／Adobe RGB	54
現像パラメーター	パラメーター 1、2／セット1、2、3／モノクロ	55,56

〈再生〉再生系（青）

画像プロテクト	画像の保護	109
画像回転	画像の縦横回転	107
プリント指定	プリントする画像を指定（DPOF）	129
オートプレイ	画像の自動再生	106
撮影画像の確認時間	2秒／4秒／8秒／ホールド／切	98

〈セットアップ〉セットアップ系（黄）

オートパワーオフ	切／1分／2分／4分／8分／15分／30分	31
縦横自動回転表示	入／切	99
液晶の明るさ	5段階調整	100
日付/時刻	日付/時刻の設定	32
ファイル番号	通し番号／オートリセット	59
言語	12言語（英語／ドイツ語／フランス語／オランダ語／デンマーク語／フィンランド語／イタリア語／ノルウェー語／スウェーデン語／スペイン語／簡体中国語／日本語）	31
ビデオ出力方式	NTSC／PAL	108
通信設定	標準／PTP	114
CFカード初期化	記録内容を初期化して消去	112
カスタム機能(C.Fn)	カメラの機能を細かく設定する	138
設定解除	カメラ設定初期化（カメラ設定を初期状態にする） カスタム機能一括解除（カスタム機能をすべて解除する）	30 138
撮像素子の清掃	撮像素子の清掃時に選択	34
ファームウェア Ver.	ファームウェア変更時に選択	—

- ［網掛け］この項目は、簡単撮影ゾーンでは表示されません。
- 簡単撮影ゾーンでは、記録画質：RAW、RAW＋JPEGは表示されません。

液晶モニターについて

- 液晶モニター使用時は、〈〉スイッチが〈ON〉の位置でも〈〉を使用することができます。
- 液晶モニターをファインダーの代わりとして見ながら撮影することはできません。
- 液晶モニターの明るさを5段階に調整することができます。（100）

カメラの各機能設定を初期状態にするときは★

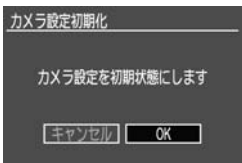
1 [設定解除] を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈〉を回して[設定解除]を選び、〈SET〉を押します。

2 [カメラ設定初期化] を選ぶ

- 〈〉を回して［カメラ設定 初期化］を選び、〈SET〉を押します。

3 [OK] を選ぶ

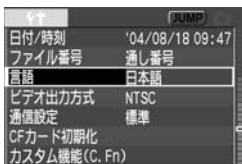
- 〈〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押すと初期状態になります。
- ➡ カメラの状態は次の表のようになります。

撮影機能関係

AFモード	ワンショットAF
AFフレームの選択	自動選択
測光モード	評価測光
ドライブモード	1枚撮影
露出補正	0（ゼロ）
AEB	解除
ストロボ調光補正	0（ゼロ）
カスタム機能	設定状態のまま

記録画像関係

記録画質	L
ISO感度	100
色空間	sRGB
ホワイトバランス	AWB
色温度	5200K
WB補正	解除
WB-BKT	解除
現像パラメーター	パラメーター 2

MENU 表示言語を設定する

液晶モニターに表示する言語を12言語の中から選ぶことができます。

1 ［言語］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［ǂǂ 言語］を選び、〈SET〉を押します。

➡ 言語設定画面になります。

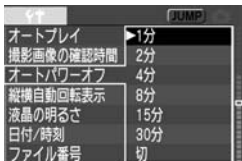
2 言語を設定する

- 〈◎〉を回して希望する言語を選び、〈SET〉を押します。

➡ 表示言語が切り換わります。

English	英語	Italiano	イタリア語
Deutsch	ドイツ語	Norsk	ノルウェー語
Français	フランス語	Svenska	スウェーデン語
Nederlands	オランダ語	Español	スペイン語
Dansk	デンマーク語	汉语	簡体中国語
Suomi	フィンランド語	日本語	日本語

MENU 電源が切れる時間を設定する／オートパワーオフ

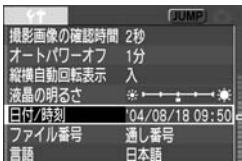
電源が自動的に切れるまでの時間を設定することができます。電源が自動的に切れないようにするときは、［切］に設定します。電源が切れたときは、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態になります。

1 ［オートパワーオフ］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［ǂǂ オートパワーオフ］を選び、〈SET〉を押します。

2 時間を設定する

- 〈◎〉を回して希望する時間を選び、〈SET〉を押します。

MENU 日付／時刻を設定する

日付や時刻を設定・修正するときは、次の手順で設定します。

1 ［日付/時刻］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**日付/時刻**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 日付/時刻設定画面になります。

2 日付と時刻を設定する

- 〈◎〉を回して数字を合わせ、〈SET〉で設定します。
- 設定すると、次の項目に移動します。

3 日付の表示順序を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**年/月/日**］［**月/日/年**］［**日/月/年**］の中から、希望する順序を選びます。

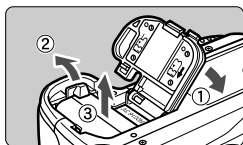
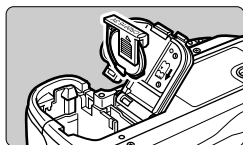
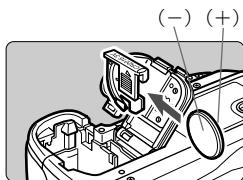
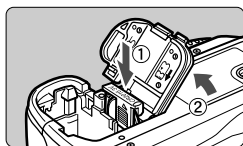
4 〈SET〉を押す

- ➡ 日付／時刻が設定され、メニューに戻ります。

撮影した画像には撮影した日付/時刻が一緒に記録されます。日付/時刻が設定されていないと、撮影した日付/時刻が正しく記録されませんので、正しく設定してください。

日付／時計機能用電池を交換する

日付/時計機能用電池（バックアップ電池）の電池寿命は約5年です。バッテリーを交換したときに、日付/時刻がリセットされるようになったら、次の手順で新しいCR2016リチウム電池に交換してください。
日付/時刻が初期化されますので、必ず再設定してください。

1 〈電源〉スイッチを〈OFF〉にする

2 ふたを開けてバッテリーを取り外す

3 電池ホルダーを取り出す

4 電池を入れ換えてホルダーを入れる
- ＋－を正しく合わせて入れます。

5 ふたを閉める

 日付/時計機能用電池は、必ずCR2016リチウム電池を使用してください。

MENU 撮像素子を清掃する★

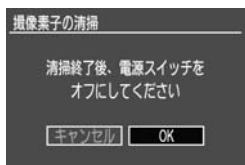
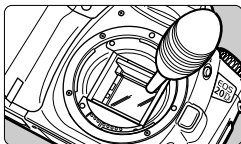
撮像素子とは、フィルムカメラでいえばフィルムにあたる部分です。撮像素子の表面にゴミやほこりなどが付くと、撮影した画像の同じ部分に黒い点などが写り込むことがあります。このようなときは、次の手順で撮像素子の表面についたゴミなどを清掃してください。ただし、撮像素子は非常にデリケートな部品ですので、清掃が必要なときはできるだけ別紙の修理サービスご相談窓口にお申し付けください。
清掃を行うときは、ACアダプターキット ACK-E2（別売／152）による家庭用電源の使用をおすすめします。バッテリーを使用するときは、必ず残量が十分にあるバッテリーを使用してください。また、清掃を始める前にレンズを取り外してください。

1 DCカプラー（20）**かバッテリーを入れて、〈◎〉スイッチを〈ON〉にする**

2 [撮像素子の清掃] を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**撮像素子の清掃**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ バッテリー使用時は、十分な残量があるときに手順3の画面になります。
- バッテリー残量が不足しているときは、警告画面が表示され次の操作には進めません。バッテリーを充電するか、DCカプラーを使用して、もう一度手順1からやり直してください。

3 [OK] を選ぶ

- 〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ ミラーが上がり、シャッターが開きます。
- ➡ 表示パネルに「**CLEA n**」が点滅します。

4 撮像素子を清掃する

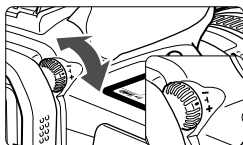
- ブロアー（市販品）で慎重に撮像素子表面のほこりを吹き飛ばします。

5 清掃を終了する

- 〈🔧〉スイッチを〈OFF〉にします。
- ➡ カメラの電源が切れ、シャッターが閉じて、ミラーが下がります。
- 〈🔧〉スイッチを〈ON〉にすると、通常の撮影準備状態になります。

- **清掃中は絶対に次のことを行わないでください。電源が切れてシャッターが閉じ、シャッター幕や撮像素子が損傷するおそれがあります。**
  - **・〈🔧〉スイッチ〈OFF〉**
  - **・CFカードスロットカバーを開ける**
  - **・バッテリー室ふたを開ける**
- ブロアーは、レンズマウント面より内側に入れないでください。バッテリー切れや停電などにより電源が切れると、シャッターが閉じて、シャッター幕や撮像素子が損傷する原因となります。
- ブロアーは、ブラシの付いていないものを使用してください。ブラシが撮像素子に触れると、表面に傷が付くことがあります。
- 高圧のエアーやガスを吹き付けて清掃しないでください。圧力により撮像素子が破損したり、吹き付けたガスが凍結することで、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- バッテリー残量が少なくなると、電子音が鳴り、表示パネルの〈▭〉が点滅します。〈🔧〉スイッチを〈OFF〉にして、残量が十分にあるバッテリーに交換し、初めからやり直してください。
- カメラにバッテリーグリップBG-E2（別売）を装着して、電源に単3形電池使用しているときは、撮像素子の清掃はできません。ACアダプターキットACK-E2（別売）を使用するか、残量が十分にあるバッテリーを使用してください。

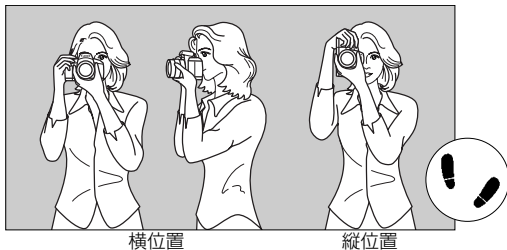
鮮明なファインダーに調整する

ファインダー内が鮮明に見えるように調整します。視度調整することで、メガネを使用している方でも、メガネをかけずにファインダー内をはっきり見ることができます。調整は－3～＋1dptの範囲で行うことができます。

視度調整つまみを回す

- ファインダー内の AFフレームがもっとも鮮明に見えるように、つまみを右または左に回します。
- 図の位置が標準（－1dpt）の位置です。

視度調整してもファインダーが鮮明に見えない方は、別売の視度補正レンズE（10種）の使用をおすすめします。

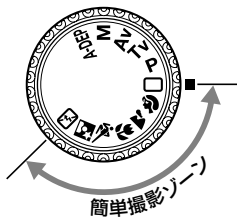
カメラの構え方

鮮明な画像を撮るために、カメラが動かないようしっかりと構えて撮影します。

横位置　縦位置

- カメラのグリップを右手で包むようにしっかりと握り、ひじを軽く体に付けます。
- 左手でレンズ部を下から支えるように持ちます。
- カメラを額に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。
- 両足はそろえずに、片足を軽く踏み出して、体を安定させます。

2

カメラまかせの自動撮影

この章ではモードダイヤルの簡単撮影ゾーンを使って簡単に撮影する方法を説明しています。〈□〉〈 〉〈 〉〈 〉〈 〉〈 〉〈 〉それぞれに適した撮影ができるよう、AFモードやドライブモードなどの機能が自動設定されます。このゾーンでは、シャッターボタンを押せば誰でもカメラまかせで撮影できます。また、誤操作による失敗を防ぐため、〈AF•WB〉〈ISO〉〈 〉〈 〉〈✱〉ボタン、〈 〉などの撮影に関する操作はできないようにしてありますので、安心して撮影してください。

モードダイヤルを〈□〉〈 〉〈 〉〈 〉〈 〉〈 〉〈 〉のいずれかにする

- 撮影の手順は『□　全自動で撮る』（38）と同じです。
- 簡単撮影ゾーンで自動設定される機能の内容は、『撮影機能の組み合わせ一覧』（146）を参照してください。

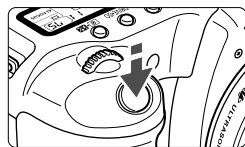
□全自動で撮る

シャッターボタン以外の操作をする必要がなく、どんな被写体でも安心して気軽に撮ることができます。9つのAFフレームで被写体をとらえますので、誰でも簡単にきれいな画像を撮影できます。

1 モードダイヤルを〈□〉にする

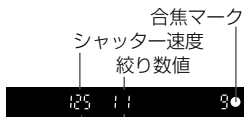
➡ AFモードは〈**AI FOCUS**〉、ドライブモードは〈□〉、測光モードは〈◉〉に自動設定されます。

2 被写体にAFフレームを合わせる

● 9つのAFフレームでとらえた被写体のうち、原則としてもっとも近距離にある被写体に、自動的にピントを合わせます。

3 ピントを合わせる

● シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。

➡ ピントが合うと、ピントを合わせたAFフレームが一瞬赤く光ります。同時に「ピピッ」と電子音が鳴り、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が点灯します。

➡ 必要に応じて内蔵ストロボが自動的に上がります。

4 表示を確認する

➡ シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と表示パネルに表示されます。（⏱4）

5 撮影する

- 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 液晶モニターに撮影した画像が約2秒間表示されます。
- CF カードに記録されている画像を再生するときは、〈▶〉ボタンを押します。(101)

- 〈**AF**〉でピント合わせするときは、レンズ先端のフォーカスリングに手を触れないようにしてください。
- レンズのズーム操作は、ピント合わせの前に行ってください。ピントを合わせたあとでズームリングを動かすと、ピントがズレることがあります。
- CFカードの残量がなくなると、表示パネルとファインダー内に CF フル警告「**FuLL CF**」が表示され、撮影できなくなります。残量のあるCFカードに入れ換えてください。
- 誤ってストロボの自動ポップアップを阻害したときは、表示パネルに「**Err 05**」が点滅して警告します。そのときは、〈㊂〉スイッチを〈OFF〉にして、再度〈ON〉にしてください。
- 他社製のレンズを使用すると、カメラまたはレンズが正常に作動しないことがあります。

- AFでピントが合うと同時に、ピントと露出がロックされます。
- 合焦マーク〈●〉が点滅するときは、撮影できません。(68)
- 複数のAFフレームが同時に赤く光ることがあります。そのときは、赤く光ったすべての位置にピントが合っています。
- 簡単撮影ゾーン(〈風景〉〈スポーツ〉〈ストロボ発光禁止〉を除く)では、暗いときや日中逆光時に内蔵ストロボが自動的に上がって発光します。収納するときは手で押し下げます。
- ピントが合ったときの電子音を、鳴らないようにすることができます。(88)
- 撮影直後に液晶モニターに表示される画像の表示時間を、メニュー機能の[▶ **撮影画像の確認時間**]で変更することができます。(98)
- 任意の AF フレームでピント合わせをしたいときは、モードダイヤルを〈**P**〉にしたあと、『AFフレームの選択』(65)でAFフレームを任意選択します。

イメージにあわせて撮る

撮影目的に応じたモードを選ぶだけで、効果的な写真を簡単に撮影できます。

ポートレート

背景をぼかして人物を浮き立たせた写真を撮るようなときに使用します。

- シャッターボタンを押し続けると連続撮影になります。
- 望遠レンズを使用して、人物の上半身がファインダーいっぱいになるくらいにすると、背景を効果的にぼかすことができます。また被写体をできるだけ背景から離すとより効果的です。

➡ AFモードは〈**ONE SHOT**〉、ドライブモードは〈▭〉、測光モードは〈◉〉に自動設定されます。

風景

広がりのある風景や夜景などを撮るようなときに使用します。

- 広角レンズを使用すると、近くから遠くまでの奥行きに加えて、横の広がりも表現できます。

➡ AFモードは〈**ONE SHOT**〉、ドライブモードは〈□〉、測光モードは〈◉〉に自動設定されます。

クローズアップ

草花や昆虫などを大きく撮るようなときに使用します。

- できるだけ使用レンズの最短撮影距離まで被写体に近づいて撮影すると効果的です。
- ズームレンズの場合は、望遠側にすると被写体をさらに大きく撮影できます。
- 本格的なクローズアップ撮影には、別売のEOS専用マクロレンズとマクロストロボの使用をおすすめします。

➡ AFモードは〈**ONE SHOT**〉、ドライブモードは〈□〉、測光モードは〈◉〉に自動設定されます。

スポーツ

動きの速い被写体の瞬間をとらえた写真を撮るようなときに使用します。

- 初めに中央のAFフレームで被写体をとらえます。そのあと、9つのAFフレームのいずれかで被写体をとらえていればピントを合わせ続けます。
- シャッターボタンを押し続けると被写体にピントを合わせ続け、連続撮影になります。
- 望遠レンズの使用をおすすめします。
- ピントが合うと合焦音が小さく鳴ります。

➡ AFモードは〈**AI SERVO**〉、ドライブモードは〈□〉、測光モードは〈◎〉に自動設定されます。

夜景ポートレート

夕暮れや夜景を背景にした人物を撮影するときに使用します。人物にはストロボ光があたり、背景は遅いシャッター速度でそれぞれをきれいに撮影できます。

- 人物が入らない夜景のみを撮影するときは〈▲〉で撮影してください。
- ストロボが発光してもすぐに動かないように、写真を撮られる人に声をかけてください。

➡ AFモードは〈**ONE SHOT**〉、ドライブモードは〈□〉、測光モードは〈◎〉に自動設定されます。

ストロボ発光禁止

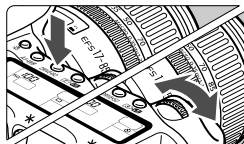
美術館など、ストロボ撮影が禁止されている場所や、自然光を生かした雰囲気のある写真を撮影するときに使用します。

- 内蔵ストロボ、EOS専用外部ストロボ使用時ともに発光しません。

➡ AFモードは〈**AI FOCUS**〉、ドライブモードは〈□〉、測光モードは〈◎〉に自動設定されます。

〈◪〉では、手ブレを防ぐために三脚を使用してください。また、〈▲〉〈⚡〉でシャッター速度が点滅したときは、手ブレに注意してください。

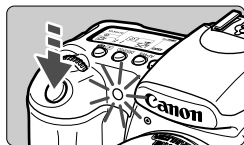
⏲セルフタイマー撮影

セルフタイマーは記念撮影などに使用します。簡単撮影ゾーンでも応用撮影ゾーンでも使用できます。

1 〈DRIVE•ISO〉ボタンを押す（⏱6）

2 〈⏲〉を選ぶ

● 表示パネルを見ながら〈⌢〉を回して、〈⏲〉を選びます。

3 ピントを合わせる

● シャッターボタンを半押しして、合焦マーク〈●〉の点灯と露出表示を確認します。

4 撮影する

● ファインダーをのぞきながらシャッターボタンを全押しします。

➡ 電子音が鳴り、セルフタイマーランプが点滅を始め、約10秒後に撮影されます。
始めの8秒間：ゆっくりピッ、ピッ音
　　／セルフタイマーランプ遅い点滅
最後の2秒間：早くピピピピ音
　　／セルフタイマーランプ点灯

➡ セルフタイマー作動中は、表示パネルに撮影されるまでの秒数が減算で表示されます。

レンズの前に立ってシャッターボタンを押すと、ねらった被写体にピントが合わなくなります。

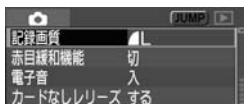
● セルフタイマー撮影するときは、三脚を使用してください。
● セルフタイマー撮影を途中で中止するときは、〈DRIVE•ISO〉ボタンを押します。
● 自分一人だけをセルフタイマーで撮るときは、自分が入る位置とほぼ等しい距離にあるものにフォーカスロック（67）して撮影します。
● 電子音を鳴らないようにすることができます。（88）

画像に関する設定

この章では、記録画質、ISO感度、ホワイトバランス、色空間、現像パラメーターといった、撮影に関わるデジタルカメラ特有の機能設定について説明します。

- 簡単撮影ゾーンでは、この章の中の、記録画質（RAW、RAW+JPEGを除く）の設定、ファイル番号設定方式の選択、カメラの設定内容の確認のみが行えます。
- ページタイトル右の ★ マークは、応用撮影ゾーン（**P**、**Tv**、**Av**、**M**、**A-DEP**）限定の機能であることを示しています。

MENU 記録画質を設定する

◢L／▟L／◢M／▟M／◢S／▟Sは、汎用性の高いJPEG形式で画像を記録します。RAWは撮影後、付属のソフトウェアで現像処理を行う必要があります。RAW+◢L／+▟L／+◢M／+▟M／+◢S／+▟S（RAW+ JPEG）は、RAW形式とJPEG形式の画像を同時記録します。なお、**簡単撮影ゾーンでは、RAW、RAW+JPEGは選択できません。**

1 ［記録画質］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［📷 **記録画質**］を選び、〈ⓢ〉を押します。
- ➡ 記録画質設定画面になります。

2 記録画質を設定する

- 〈◎〉を回して希望する記録画質を選び、〈ⓢ〉を押します。

記録画質を選ぶときの目安

記録画質	記録形式（拡張子）	記録画素数	プリントサイズ
◢L（ラージファイン）	JPEG（.JPG）	3504×2336（約820万）	A3以上
▟L（ラージノーマル）			
◢M（ミドルファイン）		2544×1696（約430万）	A5～A4
▟M（ミドルノーマル）			
◢S（スモールファイン）		1728×1152（約200万）	A5以下
▟S（スモールノーマル）			
RAW（ロウ）	RAW（.CR2）	3504×2336（約820万）	A3以上

- ◢（ファイン）、▟（ノーマル）は、画像の圧縮率のことです。画質優先のときは低圧縮率の〈◢〉を、撮影枚数優先のときは高圧縮率の〈▟〉を選びます。
- RAW＋JPEGの同時記録では、RAW形式とJPEG形式に分けた2種類のデータを、同じファイル番号で保存します。JPEG形式の画像は、ダイレクトプリントやプリント指定を行うことができます。

RAWについて

RAWはパソコンでの現像処理を前提としているため、専門的な知識が必要ですが、付属ソフトウェアの現像機能によって、使用目的に最適な画像を創ることができます。〈RAW〉画像の現像処理は、撮影時に設定されていたホワイトバランス、色空間、現像パラメーターの内容で行われます。
現像処理とは、RAWデータに対して、ホワイトバランスやコントラストなどの画像調整を行って、画像を創り出すことをいいます。
なお、RAW形式のデータは、ダイレクトプリントやプリント指定（DPOF）ができません。

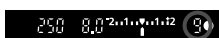
記録画質に対する1枚のサイズと撮影可能枚数の目安

記録画質	1枚のサイズ（約MB）	撮影可能枚数
◢L	3.6	66
▟L	1.8	133
◢M	2.2	112
▟M	1.1	221
◢S	1.2	195
▟S	0.6	380
RAW+◢L		18
RAW+▟L		22
RAW+◢M	—	21
RAW+▟M		23
RAW+◢S		23
RAW+▟S		25
RAW	8.7	27

- 撮影可能枚数は256MBのCFカード使用時の枚数です。
- 1枚のサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数（46）は、当社試験基準（ISO100、現像パラメーター：［**パラメーター 1**］設定時）によります。なお、1枚のサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、被写体、撮影モード、ISO感度、現像パラメーターなどにより異なります。
- モノクロ撮影時（57）は、1枚のサイズが小さくなり、撮影可能枚数が多くなります。
- 撮影可能枚数は、表示パネルで確認することができます。
- 記録画質は、簡単撮影ゾーン、応用撮影ゾーンで別々に設定することができます。

連続撮影可能枚数について

記録画質により、連続して撮影できる枚数（連続撮影可能枚数）が異なります。各記録画質での連続撮影可能枚数の目安は次のとおりです。なお、高速書き込みタイプのCFカード使用時は、撮影条件により、表記枚数以上の連続撮影ができることがあります（記録画質がJPEG形式のとき）。

記録画質	◢L	▟L	◢M	▟M	◢S	▟S	RAW	RAW+JPEG
連続撮影可能枚数	20	32	28	61	64	123	6	6

250 8.0 ⁻2··1··▼··1·‡2 (9)
連続撮影可能枚数

● そのときの撮影条件で、あと何枚連続撮影できるかを、ファインダー内右下で確認することができます。
● 「**9**」と表示されているときは、9枚以上または9枚の連続撮影ができます（「**6**」と表示されているときは、6枚）。
● 撮影を行って、枚数が9枚より少なくなると、数字が「**8**」「**7**」...と小さくなります。撮影を中断すると、数字が大きくなっていきます。

記録画質が◢L/▟L/◢M/▟M/◢S/▟S（JPEG形式）**のとき**
- 次の撮影条件では、連続撮影可能枚数が大幅に少なく（6枚以下に）なることがあります。
  - ・〈🐾〉で連続撮影中に、内蔵ストロボの発光あり／なしが自動的に切り換わったとき
  - ・連続撮影中に、外部ストロボの充電が切れたとき
- 連続撮影可能枚数が大幅に少なく（6枚以下に）なることがありますので、以下の操作を行わないでください。
  - ・短い間隔で何度も続けてシャッターボタンを全押しすること
  - ・撮影した直後に、撮影モードを切り換えて、すぐに撮影すること
  - ・連続撮影中に、内蔵ストロボの上げ下げをすること、外部ストロボの電源を入／切すること
- 撮影したすべての画像の現像処理が終了すると（CFカードに書き込まれると）、上の表に示した枚数の連続撮影ができるようになります。

- WBブラケティング撮影時（52）は、連続撮影可能枚数が6枚になります。
- 連続撮影可能枚数は、ドライブモードが〈□〉（1枚撮影）、〈ᴗ〉でも表示されます。なお、CFカードを入れていないときにも枚数が表示されますので、CFカードが入っていることを確認してから撮影してください。

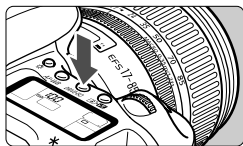
ISO ISO感度の設定★

ISO感度とは、撮影時の光に対する敏感度を数値化したものです。数値が大きくなるほど感度が高く、暗い場所での撮影や動きのある被写体の撮影に向いていますが、撮影画像にノイズが入るなど、画像が粗くなることがあります。逆に感度が低い場合は、暗い場所での撮影や動きのある被写体の撮影には向いていませんが、きめ細かな画像が撮影できます。
このカメラでは、ISO感度を100～1600まで、1段ステップで設定することができます。

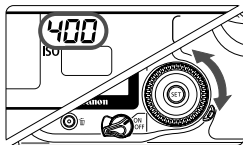
簡単撮影ゾーンでのISO感度

撮影状況に応じて、ISO100～400の間で、ISO感度が自動設定されます。

応用撮影ゾーンでのISO感度

ISO感度を「**100**」「**200**」「**400**」「**800**」「**1600**」の中から選択することができます。カスタム機能C.Fn-08［**ISO感度拡張**］を［**1：する**］に設定すると（141）、「**H**」（ISO3200相当）も選択できるようになります。

1 **〈DRIVE•ISO〉ボタンを押す**（⏱6）

➡ 表示パネルに現在設定されている感度が表示されます。

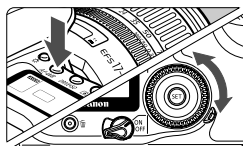
● 簡単撮影ゾーンのときは、表示パネルに「**Auto**」と表示されます。

2 **ISO感度を設定する**

● 表示パネルを見ながら〈◎〉を回します。

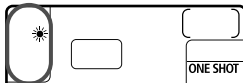
● ISO感度を高くしたり、高温下で使用すると、画像に含まれるノイズ成分がやや多くなります。

● 高温・高ISO感度・長時間露光の条件で撮影を行うと、撮影画像に色ムラが発生することがあります。

WB ホワイトバランスを設定する★

通常は、〈AWB〉で最適なホワイトバランスが自動設定されます。〈AWB〉で自然な色あいにならないときは、光源別にホワイトバランスを選択したり、手動設定で調整します。簡単撮影ゾーンでは〈AWB〉に自動設定されます。

1 〈AF•WB〉ボタンを押す（⏱6）

2 ホワイトバランスを選ぶ

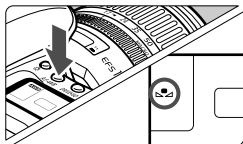
● 表示パネルを見ながら〈◎〉を回します。

表示	モード	色温度（約・K）
AWB	オート	3000〜7000
☀	太陽光	5200
⌂	日陰	7000
☁	くもり、薄暮、夕やけ空	6000
✹	白熱電球	3200
≡	白色蛍光灯	4000
ϟ	ストロボ使用	6000
⊿	マニュアル*	2000〜10000
K	色温度	2800〜10000

* 手動で撮影環境に最適な設定をするときに設定します。(49)

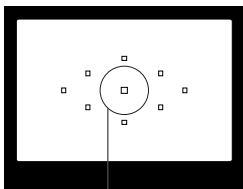
ホワイトバランスについて

光源中に含まれるRGB3原色（赤・緑・青）の構成比は、色温度によって変化します。色温度が高い場合は、青の要素が強くなり、色温度が低い場合は、赤の要素が強くなります。人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。デジタルカメラの場合は、ソフトウェア的に色温度を調整して、被写体に含まれる色の基準となる白を決め、白を基準に色を補正して自然な色あいで撮影できます。このカメラの〈AWB〉は、撮像素子を使用して行います。

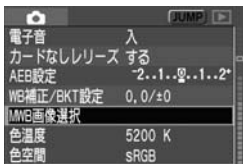
MENU マニュアルホワイトバランス★

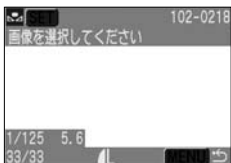
マニュアルホワイトバランス（MWB）は、ホワイトバランスの基準となる白い被写体を撮影し、その画像を選ぶことでホワイトバランスデータを取り込み、ホワイトバランスを設定します。

1 〈AF•WB〉ボタンを押す（⏱6）

2 マニュアルWBを選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈◎〉を回して、〈⛅〉を選びます。

部分測光範囲

3 白い被写体を撮影する

- 部分測光範囲の領域全体に、白い無地の被写体がくるようにします。
- レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして、手動でピントを合わせます。（68）
- どのホワイトバランス設定（48）でも構いません。
- 白い被写体が標準露出になるように撮影します。

4 ［MWB画像選択］を選ぶ

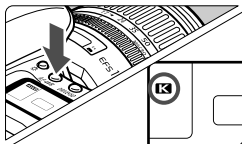
- 〈◎〉を回して［📷 MWB画像選択］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ マニュアルホワイトバランス設定画面になります。

5 画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して手順3で撮影した画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ ホワイトバランスデータが取り込まれ、メニューに戻ります。

- 手順3で撮影した画像の露出が、アンダーまたはオーバーだと、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。
- 現像パラメーターを［**モノクロ**］に設定して撮影した画像（57）は、手順5で選択できません。

白い被写体の代わりに 18%標準反射板（市販品）を撮影すると、より正確なホワイトバランスにすることができます。

MENU 色温度を直接設定する★

ホワイトバランスの色温度を数値で設定することができます。

1 〈AF•WB〉ボタンを押す（⏱6）

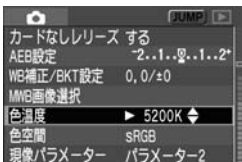
2 色温度を選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈◎〉を回して、〈K〉を選びます。

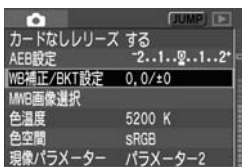
3 ［色温度］を選ぶ

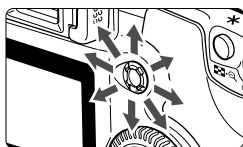
- 〈◎〉を回して［📷 **色温度**］を選び、〈SET〉を押します。

4 色温度を設定する

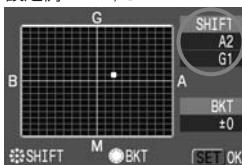
- 〈◎〉を回して希望する色温度を設定し、〈SET〉を押します。
- 設定できる色温度範囲は、2800～10000K（100Kステップ）です。

- 人工光源の色温度を設定するときは、必要に応じてホワイトバランス補正（マゼンタ、またはグリーン寄りの補正）を行ってください。
- カラーメーターで測定した色温度数値を〈K〉に設定する場合は、事前にテスト撮影を行い、カメラとカラーメーター間の誤差を補正した数値を設定してください。

MENU ホワイトバランスを補正する★

設定しているホワイトバランスモードの色温度を補正することができます。この機能を使うと、市販品の色温度変換用フィルターや、色補正用フィルターと同じような効果を得ることができます。補正幅は各色9段です。特に色温度変換フィルターや、色補正用フィルターの役割と効果を理解されている方におすすめします。

1 ［WB補正/BKT設定］を選ぶ

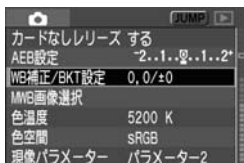
- 〈◎〉を回して［**WB補正/BKT設定**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ WB 補正 /WB ブラケティング設定画面になります。

設定例：A2, G1

2 ホワイトバランスを補正する

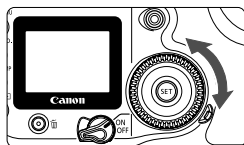
- 〈✣〉を上下左右、斜め方向に操作して、画面上の「■」を希望する位置に移動します。
- Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- 画面右上の「**SHIFT**」に補正方向と、補正量が表示されます。
- ホワイトバランス補正を解除するときは、〈✣〉を操作して、「■」の位置を座標の中心（「**SHIFT**」を「**0, 0**」の表示）にします。
- 〈SET〉を押すと、設定が終了しメニューに戻ります。

- ホワイトバランス補正中は、ファインダー内と表示パネルに〈WB+/-〉が表示されます。
- ブルー／アンバーの1段は、色温度変換フィルターの約5ミレッドに相当します。（ミレッド：色温度変換フィルターの濃度を表わすときに使用される単位）
- WBブラケティングやAEBと組み合わせて撮影することができます。
- 手順2で〈◎〉を回すと、WBブラケティングの設定になります。（52）

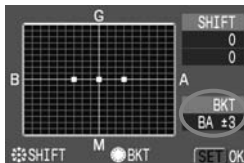
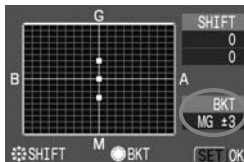
MENU ホワイトバランスを自動的に変えて撮る★

1回の撮影で色あいの異なる3枚の画像を記録することができます。設定しているホワイトバランスモードの色温度を基準に、B（ブルー）とA（アンバー）寄りの色あい、またはM（マゼンタ）とG（グリーン）寄りの色あいに補正した画像を記録します。これをホワイトバランスブラケティング撮影といいます。補正幅は1段ステップ±3段です。

1 記録画質をRAW、RAW+JPEG以外にする（44）

2 ［WB補正/BKT設定］を選ぶ

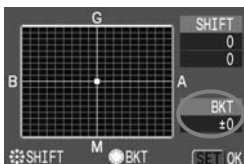
- 〈◎〉を回して［WB補正/BKT設定］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ WB 補正 /WB ブラケティング設定画面になります。

3 ブラケティング設定する

- 〈◎〉を回して、ブラケティング方向とブラケティングレベルを設定します。
- 〈◎〉を回すと、画面上の「■」が「■ ■ ■」（3点）に変わります。〈◎〉を右に回すと、B/A方向、左に回すとM/G方向のブラケティングになります。
- 設定できるブラケティングレベルは、B/A方向、M/G方向ともに1段ステップ、±3段です。（B/A方向とM/G方向を同時に設定することはできません。）
- ➡ 画面右の「**BKT**」にブラケティング方向と、ブラケティングレベルが表示されます。
- 〈SET〉を押すと、設定が終了しメニューに戻ります。

B/A方向±3段のとき

M/G方向±3段のとき

4 撮影する

➡ B/A 方向のブラケティングが設定されているときは、基準WB、B（ブルー）寄り、A（アンバー）寄りの順に、M/G 方向のブラケティングが設定されているときは、基準WB、M（マゼンダ）寄り、G（グリーン）寄りの順に3枚の画像がCFカードに記録されます。

● 設定しているドライブモード（70）に従って撮影されます。

ホワイトバランスブラケティングの解除

● 手順3の操作で、「**BKT**」を「**±0**」（「■ ■ ■」を「■」（1点））にします。

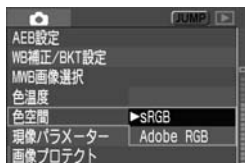
● 記録画質が、RAW、RAW+JPEGに設定されているときは、WBブラケティング撮影できません。
● WBブラケティング撮影時は、連続撮影可能枚数が6枚になります。

● WBブラケティングを設定すると、表示パネルのホワイトバランスマークが点滅し、撮影可能枚数が約1/3になります。
● 1回の撮影で3枚の画像を記録するため、通常の撮影よりもCFカードへの画像記録時間が長くなります。
● ホワイトバランス補正やAEBと組み合わせて撮影することができます。AEBとの組み合わせでは、合計9枚の画像が記録されます。
● 「**BKT**」は、Bracketingの略です。

MENU 色空間を設定する★

色空間とは、再現できる色の範囲（色域特性）のことです。このカメラでは、撮影する画像の色空間をsRGB（エスアールジービー）、Adobe RGB（アドビアールジービー）から選択することができます。なお、一般的な撮影には、sRGBをおすすめします。簡単撮影ゾーンではsRGBに自動設定されます。

1 ［色空間］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［📷 色空間］を選び、〈SET〉を押します。

2 色空間を設定する

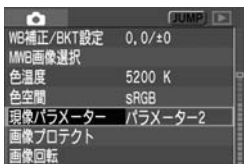
- 〈◎〉を回して［sRGB］または［Adobe RGB］を選び、〈SET〉を押します。

Adobe RGBについて

おもに商用印刷などの業務用途で使用します。画像処理とAdobe RGB、DCF 2.0（Exif 2.21）についての知識がない方にはおすすめできません。sRGBのパソコン環境や、DCF 2.0（Exif 2.21）に対応していないプリンターでは、とても控えめな感じに仕上がるため、撮影後、パソコンのソフトウェアなどで画像処理を行う必要があります。

- 色空間をAdobe RGBに設定して撮影した画像は、ファイル名が「_MG_」（先頭文字がアンダーバー）になります。
- ICCプロファイルは付加されません。ICCプロファイルについては、EOS 20Dソフトウェア使用説明書を参照してください。

MENU 現像パラメーターを選択する★

撮影画像を、鮮やかでくっきりした感じにしたり、逆に控えめにしたりすることができます。現像パラメーターには、あらかじめ設定されているパラメーター1、2と、自分で設定した内容で撮影できるセット1、2、3、白黒画像を撮影するときのモノクロがあります。簡単撮影ゾーンではパラメーター1に自動設定されます。

1 ［現像パラメーター］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［◘ 現像パラメーター］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 現像パラメーター設定画面になります。

2 〈SET〉を押す

3 パラメーターを選ぶ

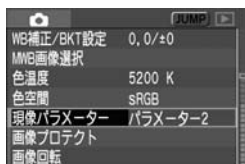
- 〈◎〉を回して希望する項目を選び、〈SET〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、メニューに戻ります。

現像パラメーターについて

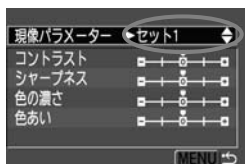
項目	内容
パラメーター1	鮮やかでくっきりした感じに仕上がります。簡単撮影ゾーンでは、すべてこの感じで撮影されます。
パラメーター2	パラメーター 1よりも、やや控えめで自然な感じに仕上がります。
セット1～3	［**コントラスト**］［**シャープネス**］［**色の濃さ**］［**色あい**］を任意に設定・登録することができます。(56)
モノクロ	白黒画像を撮影することができます。

- ［**パラメーター 1**］は、コントラスト／シャープネス／色の濃さを+1段に設定したものです。［**パラメーター2**］は、すべての項目を「**0**」に設定したものです。
- 応用撮影ゾーンでは、初期状態で［**パラメーター2**］に設定されています。

MENU 現像パラメーターを設定する★

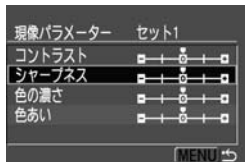
撮影した画像の現像処理の内容（パラメーター：[コントラスト][シャープネス][色の濃さ][色あい]／各5段階）をカメラで任意に設定して、3件まで登録・設定することができます。

1 [現像パラメーター] を選ぶ

- 〈◎〉を回して［📷 現像パラメーター］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 現像パラメーター設定画面になります。

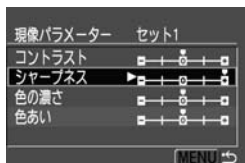
2 〈SET〉を押す

3 セット番号を選ぶ

- 〈◎〉を回して［セット1］～［セット3］のいずれかを選び、〈SET〉を押します。
- ［セット 1］～［セット 3］の初期状態は、すべてのパラメーターが［0］（標準）に設定されています。

4 項目を選ぶ

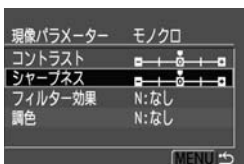
- 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。

項目	マイナス	プラス
コントラスト	明暗差・弱	明暗差・強
シャープネス	輪郭強調・控えめ	輪郭強調・強め
色の濃さ	薄め	濃いめ
色あい	肌色が赤め	肌色が黄色め

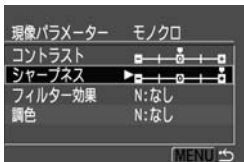
5 内容を設定する

- 〈◎〉を回して希望する効果を設定し、〈SET〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、メニューに戻ります。

白黒画像を撮影するとき

現像パラメーターをモノクロに設定して撮影すると、カメラが現像処理を行って、白黒画像をCFカードに記録します。

1 ［モノクロ］を選ぶ

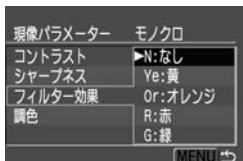
- 56ページの手順3で［**モノクロ**］を選び、〈SET〉を押します。

2 項目を選ぶ

- 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。
- ［**コントラスト**］［**シャープネス**］は、56ページ手順4の表の内容と同じです。
- ［**フィルター効果**］［**調色**］については、58ページを参照してください。

3 内容を設定する

- 〈◎〉を回して希望する効果を設定し、〈SET〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、メニューに戻ります。
- 撮影準備状態に戻ると、表示パネルに〈**B/W**〉が表示されます。

- 自然な感じの白黒画像にするためには、適切なホワイトバランスで撮影してください。
- ［**モノクロ**］に設定して撮影した JPEG 形式の白黒画像を、パソコンのソフトウェアなどを用いて、カラー画像にすることはできません。

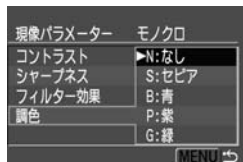
フィルター効果

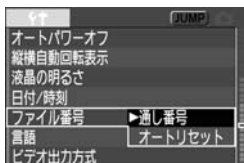
白黒フィルムで写真撮影を行うときのフィルターワークをデジタル画像で再現したものです。使用するフィルター色と同じ（近接した）色を明るくし、補色を暗くした白黒画像を撮影することができます。

フィルター	効果例
N：なし	フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。
Ye：黄	青空がより自然に再現され、白い雲がはっきりと浮かび上がります。
Or：オレンジ	青空が少し暗くなります。夕日の輝きがいっそう増します。
R：赤	青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。
G：緑	人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。

［**コントラスト**］をプラス側に設定して撮影すると、フィルター効果がより強調されます。

調色

調色を設定して撮影すると、白黒画像に設定した色を付けてCFカードに記録します。より印象的な画像を撮影したいときに有効です。

［**N：なし**］［**S：セピア**］［**B：青**］［**P：紫**］［**G：緑**］から選ぶことができます。

MENU ファイル番号の設定方式

ファイル番号は、フィルムカメラのフィルムコマ番号に相当するもので、[**通し番号**] と [**オートリセット**] の2種類があります。撮影した画像は、自動的に0001～9999までのファイル番号が付けられて、ひとつのフォルダに最大100画像ずつ保存されます（フォルダは自動的に作られます）。

1 [ファイル番号] を選ぶ

- 〈◎〉を回して [**ファイル番号**] を選び、〈SET〉を押します。

2 番号の設定方式を選ぶ

- 〈◎〉を回して [**通し番号**] または [**オートリセット**] を選び、〈SET〉を押します。

通し番号

CFカードを交換しても、最後に撮影した画像の続き番号が次の画像に付けられます。撮影した画像のファイル番号が重複しないため、画像をパソコンでまとめて管理するようなときに有効です。

CFカードを交換した場合

続きのファイル番号

オートリセット

CFカードを交換すると、ファイル番号が初期値（**XXX-0001**）に戻ります。撮影した画像のファイル番号が、**0001**から始まりますので、CFカード単位で分類したいときなどに有効です。

CFカードを交換した場合

ファイル番号リセット

フォルダ番号999が作成されると、液晶モニターに [**フォルダ番号がいっぱいです**] と表示されます。さらにファイル番号が9999になると、表示パネルとファインダー内に「**Err CF**」（CFエラー警告）表示されます。新しいCFカードに交換してください。

ファイル名は、JPEG画像、RAW画像ともに「IMG_ 」になります。拡張子は、JPEG画像が「 .JPG」、RAW画像が「 .CR2」になります。

INFO. カメラの設定内容を確認する

撮影準備状態で〈INFO.〉ボタンを押すと、現在カメラに設定されている内容が液晶モニターに表示されます。

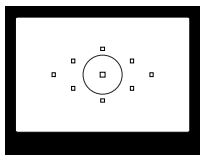
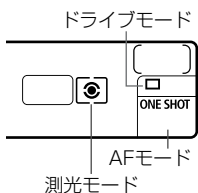
設定内容を表示する

- 〈INFO.〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターにカメラの設定内容が表示されます。
- もう一度〈INFO.〉ボタンを押すと、液晶モニターが消えます。

設定内容表示

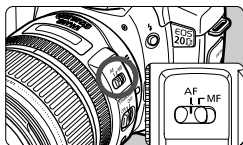
画像再生時の画像情報については、『撮影情報表示について』（102）を参照してください。

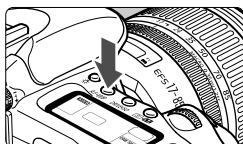
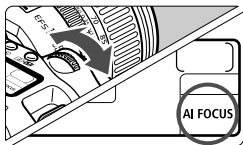
4

AF/測光/ドライブの設定

ファインダー内には、9つのAFフレームが配置されています。適切なAFフレームを選択することにより、構図優先のAF撮影を行うことができます。また、被写体の状況や撮影意図にあわせてオートフォーカスの作動特性を選択できます。

測光モードには、評価測光、部分測光、中央部重点平均測光があります。ドライブモードには、1枚撮影、連続撮影、セルフタイマーがあります。撮影状況や撮影意図にあわせて選択してください。

- ページタイトル右の ★ マークは、応用撮影ゾーン（**P**、**Tv**、**Av**、**M**、**A-DEP**）限定の機能であることを示しています。
- 簡単撮影ゾーンでは、AF モード、AF フレーム、測光モード、ドライブモードが自動設定されます。

AF AFモードの選択★

AFモードとはAFの作動特性のことをいいます。止まっている被写体の撮影に適している「ワンショットAF」、動いている被写体の撮影に適している「AIサーボAF」、被写体の状態に応じて、「ワンショットAF」から「AIサーボAF」へとカメラが作動特性を自動的に切り換える「AIフォーカスAF」の3種類があります。簡単撮影ゾーンでは、撮影モードごとに最適なAFモードが自動設定されます。

1 レンズのフォーカス モードスイッチを〈AF〉にする

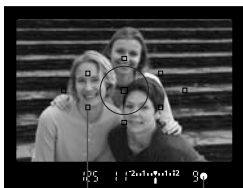
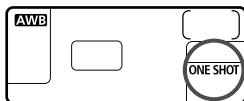
2 モードダイヤルを応用撮影ゾーンにする

3 〈AF•WB〉ボタンを押す（⏱6）

4 AFモードを選ぶ

● 表示パネルを見ながら〈⚙〉を回します。

ONE SHOT：ワンショットAF
AI FOCUS：AIフォーカスAF
AI SERVO：AIサーボAF

エクステンダー（別売）を併用したときに、開放絞り数値がF5.6を超えるレンズでは、AF撮影できません。詳しくは、エクステンダーの使用説明書を参照してください。

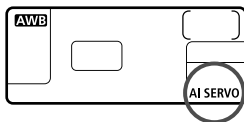
〈**AF**〉はAuto Focus（オートフォーカス）の略で自動ピント合わせのことです。〈**MF**〉はManual Focus（マニュアルフォーカス）の略で手動ピント合わせのことです。

止まっている被写体を撮るときはワンショットAF

AFフレーム　　合焦マーク

シャッターボタンを半押しするとAFが作動し、1回だけピントを合わせます

➡ 被写体にピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレームが一瞬赤く光ります。同時にファインダー内に合焦マーク〈●〉が表示されます。

➡ 評価測光ではピントが合うと、同時に露出値が決まります。そのままシャッターボタン半押しの状態を保つと、露出値が固定されたままになり、ピントを合わせたあとに構図を変えて撮影するフォーカスロック撮影（67）ができます。

ピントが合わないと合焦マーク〈●〉が点滅します。このときはシャッターボタンを全押ししても撮影はできません。構図を変えて再度ピント合わせを行うか、『AFの苦手な被写体（手動ピント合わせ）』（68）を参照してください。

動いている被写体を撮るときはAIサーボAF

シャッターボタン半押しの状態を保っている間、被写体にピントを合わせ続けます

● 撮影距離がたえず変わる（移動している）被写体の撮影に適しています。

➡ 動体予測機能*でカメラに向かってくる、または遠ざかる被写体にピントを合わせ続けます。

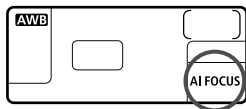
➡ 露出は撮影の瞬間に決まります。

撮影モードが応用撮影ゾーン（〈A-DEP〉を除く）のときは、ピントが合っても合焦音は鳴りません。また、ファインダー内の合焦マーク〈●〉も点灯しません。

*動体予測機能について

被写体がほぼ等速度でカメラに近づいてくる、または遠ざかっていくときに、シャッターが切れる直前に正しいピントが得られるよう、その被写体の位置を予測してピントを合わせ続ける機能です。

- AFフレーム自動選択のときは、初めに中央のAFフレームで被写体をとらえます。AF中に被写体が中央のAFフレームから外れても、他のAFフレームのいずれかで被写体をとらえていればピントを合わせ続けます。
- AFフレームを任意選択しているときは、選択したAFフレームで動体予測を行います。

AFモードを自動的に切り換えるAIフォーカスAF

AI フォーカスAF は、被写体の状態に応じて、「ワンショットAF」から「AI サーボAF」へとカメラが作動特性を自動的に切り換えます。
ワンショットAF で被写体にピントを合わせたあと、被写体が連続して移動を始めると、その移動をカメラが検知して自動的にAIサーボAFに切り換わり、被写体の動きに追従してピントを合わせ続けます。

AIフォーカス AFのサーボ状態でピントが合うと、合焦音が小さく鳴ります。ただし、ファインダー内の合焦マーク〈●〉は点灯しません。

⊡ AFフレームの選択★

AFフレームとはピントを合わせる枠のことです。AFフレームの選択方式には、「自動選択」と「任意選択」があります。
簡単撮影ゾーンと〈A-DEP〉では自動選択に設定されます。〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉の撮影モードでは、自動選択と任意選択を切り換えることができます。

自動選択

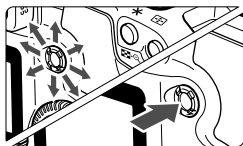
撮影状況に応じてカメラが自動的にAF フレームを選択してピントを合わせます。ファインダー内の**すべてのAFフレームを赤く点灯させます**。

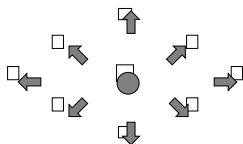
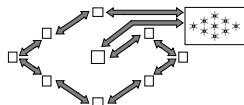
任意選択

9つのAFフレームから、任意の1点を手動で選択します。狙った被写体に確実にピントを合わせたいときや、より構図優先の迅速なAF撮影を行いたいときに便利な機能です。

マルチコントローラーによる選択

1 〈⊡〉ボタンを押す（⏱6）

➡ 現在選択されているAFフレームが、ファインダー内と表示パネルに表示されます。

2 AFフレームを選択する

- ファインダー内または表示パネルを見ながら、〈✥〉を操作します。
- 〈✥〉を倒した方向に対応したAFフレームが選択されます。
- 〈✥〉をまっすぐ押すと、中央の AF フレームが選択されます。
- 現在選択されているAF フレームと同じ方向に〈✥〉を操作すると、すべてのAFフレームが点灯して自動選択になります。

電子ダイヤルによる選択

- 〈〉ボタンを押したあと、〈〉または〈〉を回します。
- ダイヤルを回すと左図のように循環します。

- 表示パネルを見ながらAFフレームを選択するときは、次の図を参考にしてください。

  自動選択[-:::-]、中央[-]、右[-]、上[‾]
- EOS専用外部ストロボ使用時にAF補助光でピントが合わないときは、中央のAFフレームを選択してください。

内蔵ストロボによるAF補助光について

暗い場所などでシャッターボタンを半押しすると、内蔵ストロボが連続的に光ることがあります。これはAFでピントを合わせやすくするためです。

- 〈〉〈〉〈〉では、AF補助光は光りません。
- 内蔵ストロボによるAF補助光でピントが合う範囲は約4mまでです。
- 応用撮影ゾーンでは、〈〉ボタンを押してストロボを上げておくと、必要に応じてAF補助光が光ります。

使用レンズの明るさとAF測距について

EOS 20DのAFは、F2.8より明るいレンズを使用すると、より高精度なAFピント合わせを行うことができます。

F2.8より明るい大口径レンズ使用時

中央AFフレームでより高精度な十字測距（縦横線同時検出）を行うことができます。十字測距時の縦線検出は、横線検出の約2倍の敏感度で行われます。残る8つのAFフレームでは、横線検出、または縦線検出によるAF撮影になります。

F5.6より明るいレンズ使用時

中央AFフレームでは通常の十字測距、残る8つのAFフレームでは、横線検出、または縦線検出によるAF撮影になります。

画面の端の被写体にピントを合わせる

AFでピントを合わせたあと、ピントを固定したまま構図を変えて撮影する方法を「フォーカスロック撮影」といいます。フォーカスロック撮影は、AFモードがワンショットAFに設定されているときに有効です。

1 モードダイヤルを応用撮影ゾーンにする

2 任意のAFフレームを選択する

3 ピントを合わせる

- AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。

4 シャッターボタンを半押ししたまま構図を変える

5 撮影する

AFモードがAIサーボAF（AIフォーカスAFのサーボ状態を含む）のときは、フォーカスロック撮影できません。

簡単撮影ゾーンでもフォーカスロック撮影ができます（〈 〉を除く）。そのときは手順3から行います。

AFの苦手な被写体（手動ピント合わせ）

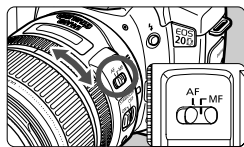
次のような特殊な被写体に対してはピント合わせができない（合焦マーク〈●〉が点滅する）ことがあります。

ピントが合いにくい被写体

(a) コントラスト（明暗差）が極端に低い被写体
　例：青空、単色の平面など
(b) 非常に暗い場所にある被写体
(c) 極端な逆光状態にあり、かつ光の反射が強い被写体
　例：反射光の強い車のボディ
(d) 被写体が遠いところと近いところに共存する状態
　例：おりの中の動物
(e) 繰り返し模様の被写体
　例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど

これらの場合は次のいずれかの方法でピントを合わせます。

(1) 被写体とほぼ同じ距離にあるものでフォーカスロックし、構図を決めなおして撮影する。
(2) レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして手動ピント合わせを行う。

手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス）

フォーカスリング

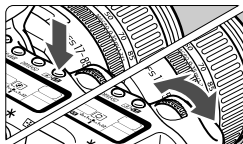
1 レンズのフォーカス モードスイッチを〈MF〉にする

2 ピントを合わせる

● ファインダー内の被写体がはっきり見えるまで、レンズのフォーカスリングを回します。

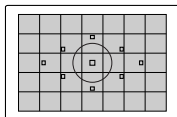
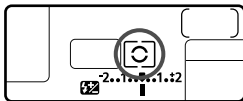
シャッターボタンを半押ししながら手動ピント合わせをすると、ファインダー内にピントが合ったAFフレームと合焦マーク〈●〉が点灯します。

測光モードの選択★

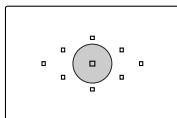
測光方式には、評価測光、部分測光、中央部重点平均測光の3つの方式があります。簡単撮影ゾーンでは評価測光に自動設定されます。

1 〈・〉ボタンを押す（6）

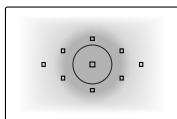
2 測光モードを選ぶ

● 表示パネルを見ながら〈〉を回します。

：評価測光
：部分測光
：中央部重点平均測光

評価測光

このカメラの標準測光方式で、逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。ファインダー内に占める被写体の位置、明るさ、背景、順光、逆光など複雑な光の要素をカメラが判断し、主被写体を常に適正な露出にします。

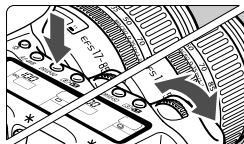
● 手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）時は、常に中央AFフレーム基準の評価測光になります。
● 主被写体が極端な逆光下にあったり、強いスポットライトを浴びているような、主被写体と背景に極端な明暗差があるときは、部分測光〈〉をおすすめします。

部分測光

逆光などで被写体の周辺に強い光がある場合の撮影に有効です。ファインダー中央部の約9%の範囲を測光します。測光範囲はほぼ左図の範囲となります。

中央部重点平均測光

ファインダー中央部に重点を置いて画面全体を平均的に測光します。

ドライブモードの選択

ドライブモードには1枚撮影と連続撮影があります。簡単撮影ゾーンでは、撮影モードごとに最適なドライブモードが自動設定されます。

1 〈DRIVE•ISO〉ボタンを押す（6）

2 ドライブモードを選ぶ

● 表示パネルを見ながら〈〉を回します。

□：**1枚撮影**
シャッターボタンを全押しすると、1枚だけ撮影します。

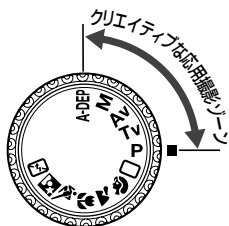
連続撮影（最高約5コマ／秒）
シャッターボタンを全押しすると、押している間、連続して撮影します。

セルフタイマー撮影（42）

連続撮影可能枚数

● 撮影した画像は、一度カメラの内部メモリーに保存してから、順次CFカードに記録するため、連続撮影で内部メモリーがいっぱいになると、表示パネルとファインダー内に「**buSY**」が表示され、一時的に撮影ができなくなります。CFカードへの記録経過にともない、次の撮影ができるようになりますので、シャッターボタンを半押しして、ファインダー内右下に表示される連続撮影可能枚数で、そのとき撮影できる枚数を確認してください。
● ファインダー内と表示パネルに「**FuLL CF**」が表示されたときは、必ずアクセスランプの点滅が消えてから、CFカードを交換してください。
● バッテリーの残量が少なくなると、連続撮影速度が若干低下します。

5

撮影目的にあわせた応用撮影

応用撮影ゾーンでは、シャッター速度や絞り数値を選択したり、露出を自分の好みに変えるなど、カメラの設定を思いどおりに変えることで、さまざまな撮影ができます。

- ページタイトル右の ★ マークは、応用撮影ゾーン（**P**、**Tv**、**Av**、**M**、**A-DEP**）限定の機能であることを示しています。
- シャッターボタンを半押ししたあとで指を離しても、タイマーの働きにより、表示パネルとファインダー内に露出値が約4秒間（⏱4）表示されます。
- 応用撮影ゾーンで設定できる機能は、『撮影機能の組み合わせ一覧』（146）を参照してください。

あらかじめ〈◎〉スイッチを〈／〉の位置にしてください。

P プログラムAE撮影

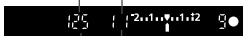
〈□〉（全自動）と同じように気軽に撮影できます。被写体の明るさに応じてカメラがシャッター速度と絞り数値を自動設定します。これをプログラムAEといいます。

＊〈**P**〉は、Program（プログラム）の略です。

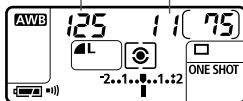
＊ **AE**は、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。

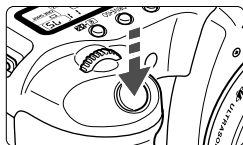
1 モードダイヤルを〈P〉にする

2 ピントを合わせる

● ファインダーをのぞいてAFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。

3 表示を確認する

➡ シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と表示パネルに表示されます。

● シャッター速度と絞り数値が点滅していなければ、適正露出です。

4 撮影する

● 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

- シャッター速度の「**30"**」と小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。ISO感度を上げるか、ストロボを使用してください。
- シャッター速度の「**8000**」と大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。ISO感度を下げるか、減光用のNDフィルター（別売）を使用してください。

〈P〉と〈□〉（全自動）の違い

- 自動的に決まるシャッター速度と絞り数値の組み合わせはともに同じです。
- 〈**P**〉では次の機能の選択・設定または使用が可能ですが、〈□〉ではできません。

撮影機能関係

- AFモード選択
- AFフレーム任意選択
- ドライブモード選択
- 測光モード選択
- プログラムシフト
- 露出補正
- AEB
- 〈✱〉ボタンによるAEロック
- 被写界深度確認
- カメラ設定初期化
- カスタム機能（C.Fn）
- カスタム機能一括解除
- 撮像素子の清掃

ストロボ関係（内蔵ストロボ）

- 常時発光/発光禁止
- FEロック
- ストロボ調光補正

ストロボ関係（EXスピードライト）

- マニュアル/マルチ発光
- ハイスピードシンクロ（FP発光）
- FEロック
- 光量比制御
- ストロボ調光補正
- FEB
- 後幕シンクロ
- モデリング発光

記録画像関係

- RAW、RAW＋JPEG選択
- ISO感度設定
- ホワイトバランス選択
- マニュアルWB画像選択
- ホワイトバランス補正
- WBブラケティング設定
- 色温度指定
- 色空間選択
- 現像パラメーター設定

プログラムシフトについて

- プログラムAEは、自動的に設定されたシャッター速度と絞り数値の組み合わせ（プログラム）を、同じ露出のままで自由に変えることができます。これをプログラムシフトといいます。
- プログラムシフトはシャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッター速度、または絞り数値が表示されるまで〈⚙〉を回します。
- プログラムシフトは撮影すると自動的に解除されます。
- ストロボを使用するとプログラムシフトはできません。

Tv シャッター速度を決めて撮る

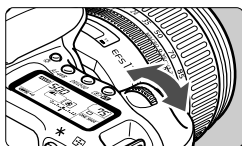
シャッター速度を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。これをシャッター優先AEといいます。シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができ、シャッター速度を遅くすると流動感を表現できます。

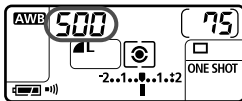
＊〈**Tv**〉は、Time value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。

速いシャッター速度

遅いシャッター速度

---

1 モードダイヤルを〈Tv〉にする

2 シャッター速度を設定する

- 表示パネルを見ながら〈 〉を回します。
- 1/3段ステップで設定できます。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。

➡ 絞り数値が自動的に決まります。

4 表示を確認して撮影する

- 絞り数値が点滅していなければ適正露出です。

● 小さな絞り数値が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。絞り数値の点滅が止まるまで〈　〉を回してシャッター速度を遅くするか、ISO感度を上げます。

● 大きな絞り数値が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。絞り数値の点滅が止まるまで〈　〉を回してシャッター速度を速くするか、ISO感度を下げます。

シャッター速度の表示

「**8000**」から「**4**」までは分数の分母を表しています。例えば、「**125**」は1/125秒を表しています。また、「**0"6**」は0.6秒を、「**15"**」は15秒を表しています。

8000　6400　5000　4000　3200　2500　2000　1600　1250
1000　800　640　500　400　320　250　200　160　125　100
80　60　50　40　30　25　20　15　13　10　8　6　5　4　0"3
0"4　0"5　0"6　0"8　1"　1"3　1"6　2"　2"5　3"2　4"　5"
6"　8"　10"　13"　15"　20"　25"　30"

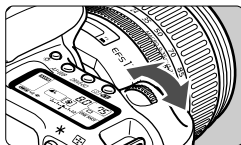
Av 絞り数値を決めて撮る

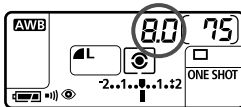
絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出に必要なシャッター速度を自動的に設定します。これを絞り優先AEといいます。絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）ほどピントの合っている範囲が前後に広くなります。逆に絞り数値を小さくする（絞りを開く）とピントの合う範囲が狭くなります。

＊〈**Av**〉は、Aperture value（アパチャーバリュー）の略で開口量のことです。

小さい絞り数値

大きい絞り数値

1 モードダイヤルを〈**Av**〉にする

2 絞り数値を設定する

- 表示パネルを見ながら〈 〉を回します。
- 1/3段ステップで設定できます。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ シャッター速度が自動的に決まります。

4 表示を確認して撮影する

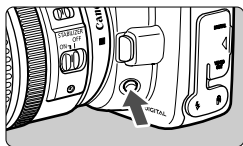
- シャッター速度が点滅していなければ適正露出です。

- シャッター速度の「**30"**」が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。シャッター速度の点滅が止まるまで〈 〉を回して絞り数値を小さく（絞りを開いて）するか、ISO感度を上げます。
- シャッター速度の「**8000**」が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。シャッター速度の点滅が止まるまで〈 〉を回して絞り数値を大きく（絞りを閉じて）するか、ISO感度を下げます

絞り数値の表示

数字が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される数値は使用するレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは「**00**」を表示します。

1.0	1.1	1.2	1.4	1.6	1.8	2.0	2.2	2.5	2.8	3.2	3.5	4.0
4.5	5.0	5.6	6.3	7.1	8.0	9.0	10	11	13	14	16	18
20	22	25	29	32	36	40	45	51	57	64	72	81
91												

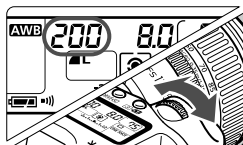
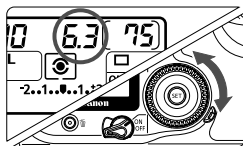
ピントの合っている範囲を確認する★

絞り込みボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値まで絞り込み、被写界深度（ピントの合っている範囲）をファインダーで確認できます。

- 〈A-DEP〉では、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、半押ししたまま絞り込みボタンを押してください。
- 絞り込みボタンを押すと、露出が固定された（AEロック）状態になります。

M 自分で露出を決めて撮る

カメラまかせではなく、自分でシャッター速度や絞り数値を決めて撮影をするときに設定します。露出はファインダー内の露出レベル表示を参考にしたり、単独露出計を利用して自分で任意に決めます。これをマニュアル露出といいます。

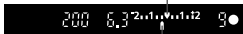
＊〈**M**〉は、Manual （マニュアル）の略です。

1 モードダイヤルを〈M〉にする

2 シャッター速度を設定する

- 表示パネルを見ながら〈⚙〉を回します。

3 絞り数値を設定する

- 〈⚙〉スイッチを〈／〉の位置にして、表示パネルを見ながら〈◎〉を回します。

標準露出指標

200　6.3　-2‥1‥▼‥1‥+2　9●

露出レベルマーク

4 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ファインダー内と表示パネルに露出値が表示されます。
- 露出レベルマーク〈▮〉で、標準露出からどのくらいずれているか確認することができます。

5 露出を決める

- 露出レベル表示を確認し、任意のシャッター速度、絞り数値を設定します。

：露出を決めるときの基準です。

：標準露出にするには、シャッター速度を遅くするか、絞り数値を小さくします。

：標準露出にするには、シャッター速度を速くするか、絞り数値を大きくします。

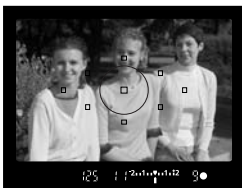
6 撮影する

露出レベルマーク〈〉が〈+2〉または〈-2〉の位置で点滅しているときは、露出が±2段を超えていることを示しています。

A-DEP 近くから遠くまでピントが合った画像を撮る

たくさんの人で記念写真を撮ったり風景写真を撮るとき、自動的に近くから遠くまでピントを合わせて鮮明な画像を撮ることができます。9つのAFフレームでとらえた被写体のうち、近いところから遠いところまで鮮明に写ります。

＊〈A-DEP〉は、Auto-Depth of field（オートデプスオブフィールド）の略で自動被写界深度のことです。

1 モードダイヤルを〈A-DEP〉にする

2 ピントを合わせる

- AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。（⏱4）
- 一瞬赤く光った AF フレームのすべてにピントが合います。
- シャッターボタンを半押ししたまま絞り込みボタンを押すと（77）、ピントの合う範囲を確認することができます。

3 撮影する

- 露出値が点滅していなければ適正露出です。

- レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉になっていると、〈A-DEP〉撮影できません。〈**P**〉と同じ撮影結果になります。
- シャッター速度の「**30"**」が点滅するときは、被写体が暗すぎます。ISO感度を上げてください。
- シャッター速度の「**8000**」が点滅するときは、被写体が明るすぎます。ISO感度を下げてください。

- 絞り数値が点滅するときは、露出は合っていますが、希望したピントの深さが得られません。レンズを広角にするか、被写体から離れてやりなおしてください。
- シャッター速度や絞り数値を自由に変更することはできません。遅いシャッター速度が設定されることがありますので、三脚の使用をおすすめします。
- ストロボを使用したときは、〈**P**〉のストロボ撮影と同じ結果になります。

自分の好みに露出を補正する★

カメラが決めた標準的な露出を意図的に変えることを露出補正といいます。露出を明るめ（プラス補正）にしたり、暗め（マイナス補正）にして撮影できます。補正できる範囲は、1/3段ステップで±2段です。

1 モードダイヤルを〈M〉以外の応用撮影ゾーンにする

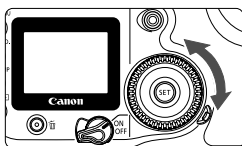
2 露出表示を確認する

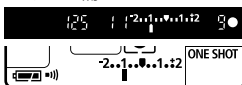
● シャッターボタンを半押しして、露出レベル表示を確認します。

3 補正量を設定する

● 〈〉スイッチを〈〉の位置にして、ファインダー内または表示パネルを見ながら〈〉を回します。

● 〈〉の操作はシャッターボタン半押し中か、半押し後（4）作動中に行います。

● 露出補正を解除するときは、補正量を〈〉の位置に戻します。

プラス補正

マイナス補正

4 撮影する

● 設定した補正量は〈〉スイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。

● シャッター速度1/125秒、絞り数値8.0が適正露出のとき、露出レベル表示で1段の補正をするということは、シャッター速度、絞り数値のいずれかを以下のように変更することと同じです。

	－1段 ← 0 → ＋1段
シャッター速度なら	250 ← 125 → 60
絞り数値なら	11 ← 8.0 → 5.6

● 不用意に〈〉が動いて補正量が変わらないように注意してください。〈〉スイッチを〈ON〉の位置にすると安全です。

MENU 露出を自動的に変えて撮る／AEB撮影★

1/3段ステップ±2段の範囲で、自動的にシャッター速度、または絞り数値を変えながら3枚の画像を撮影することができます。これをAEB（Auto Exposure Bracketing：オートエクスポージャーブラケティング）撮影といいます。

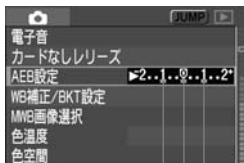
標準露出

マイナス補正

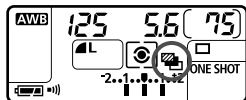
プラス補正

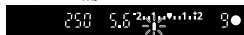
---

1 ［AEB設定］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［📷 AEB設定］を選び、〈SET〉を押します。

AEBレベル

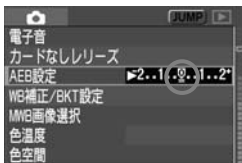
2 AEBレベルを設定する

- 〈◎〉を回してAEBレベルを設定し、〈SET〉を押します。
- ➡ 表示パネルに〈AEB〉とAEBレベルが表示されます。

標準露出

マイナス補正

プラス補正

3 撮影する

- ➡ 標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。
- ➡ 左図のように、撮影順に補正位置が表示されます。
- ➡ 設定しているドライブモード（70）に従って撮影されます。

AEB撮影の解除

- 手順1、2の操作でAEBレベルを〈2..1..0..1..2〉にします。
- 〈⏻〉スイッチ〈OFF〉、レンズ交換、ストロボ充電完了、バッテリー交換、CFカード交換で自動解除されます。

ストロボ撮影、およびバルブ撮影との併用はできません。

- ドライブモードが連続撮影（⧉）のときは、3枚撮影後に自動停止します。1枚撮影（□）のときは、シャッターボタンを3回押して撮影してください。
- セルフタイマーを併用したときは、自動的に3枚連続撮影されます。
- カスタム機能C.Fn-12-1（ミラーアップ撮影）を設定して AEB 撮影すると、ドライブモードを連続撮影しても1枚撮影になります。
- AEBと露出補正を組み合わせて使用することができます。

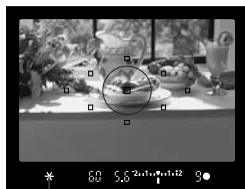
✱露出を固定して撮る／AEロック撮影★

選択したAFフレームで露出とピントを別々に決めることができます。最初に露出を決めたあとで構図を変える必要がある撮影に利用します。これをAEロック撮影といいます。逆光下での撮影などに有効です。

1 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ 露出値が表示されます。

2 〈✱〉ボタンを押す（⏱4）

- ➡ ファインダー内に〈✱〉が表示され、露出が固定（AEロック）されます。
- 〈✱〉ボタンを押し直すたびに、そのときの露出値をAEロックします。

AEロック表示

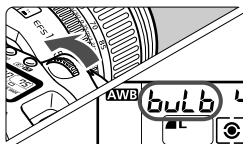
3 構図を決めて撮影する

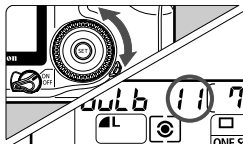
- 連続して AE ロック撮影をするときは、〈✱〉ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。

- ワンショットAF、AIフォーカスAF（AIサーボAF時を除く）のときは、シャッターボタンを半押ししてピントが合うと同時にAEロックされます。
- AFフレームの選択と測光方式の組み合わせにより、AEロックの効果は変わります。詳しくは『AEロックの効果』（147）を参照してください。

長時間露光（バルブ）撮影

シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。これをバルブ撮影といいます。夜景や花火、天体の撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。

1 モードダイヤルを〈M〉にする

2 シャッター速度を「buLb」にする

- 表示パネルを見ながら〈 〉を回して「**buLb**」を選びます。
- 「**30"**」の次が「**buLb**」です。

3 絞り数値を設定する

- 〈 〉スイッチを〈 〉の位置にして、表示パネルを見ながら〈 〉を回します。

露光経過時間

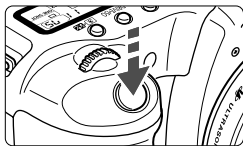
4 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 表示パネルに露光経過時間が表示されます。（1〜999秒まで表示）
- 露光はシャッターボタンを押している間だけ行われます。

長時間露光は撮影画像に含まれるノイズが多くなるため、多少ザラついた画像になります。

- 長時間露光の撮影では、撮影画像にノイズが含まれることがあります。カスタム機能C.Fn-02［**長秒時露光時のノイズ低減**］を［**1：する**］に設定すると（139）、ノイズを軽減することができます。
- バルブ撮影には、リモートスイッチ RS-80N3（別売）やタイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）の使用をおすすめします。

ミラーアップ撮影★

カスタム機能C.Fn-12［**ミラーアップ撮影**］を［**1: する**］に設定すると（142）、ミラーアップと露光を別々に行う、ミラーアップ撮影ができます。ミラーショックが気になる近接撮影や、望遠レンズを使用するときに活用してください。カスタム機能の設定は、メニューの［**カスタム機能(C.Fn)**］で行います。

1 シャッターボタンを全押しする

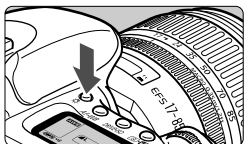
➡ ミラーが上がります。

2 再度シャッターボタンを全押しする

➡ 撮影が行われ、ミラーが下がります。

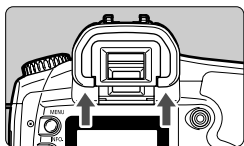
- 晴天の真夏の海岸やスキー場のように極端に明るいところでミラーアップ撮影を行うときは、ミラーアップ安定後すみやかに撮影してください。
- ミラーアップ撮影をするときは、レンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でシャッター幕が焼けて損傷する恐れがあります。
- バルブ撮影とセルフタイマーを併用してミラーアップ撮影するときは、シャッターボタンを全押しし続けてください（タイマー 2秒間＋バルブ撮影時間)。タイマー作動中の2秒のあいだに、シャッターボタンから指を離すと、シャッターが切れたような音がしますが、実際は撮影されていません。

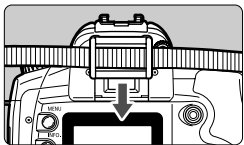
- ミラーアップ撮影は、ドライブモードの設定（1枚撮影/連続撮影）にかかわらず1枚撮影になります。
- セルフタイマーを設定してミラーアップ撮影すると、シャッターボタン全押しでミラーが上がり、2秒後に撮影されます。
- ミラーアップしてから30秒経過すると、ミラーが自動的に下がります。再度シャッターボタンを全押しするとミラーアップします。
- ミラーアップ撮影には、リモートスイッチ RS-80N3（別売）やタイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）の使用をおすすめします。

☼表示パネルの照明

表示パネルには照明機能が付いています。〈☼〉ボタンを押すたびに照明が点いたり（⏱6）消えたりします。暗い場所での撮影で、表示パネルが見にくいときに使用してください。表示パネルの照明は撮影終了後、自動的に消えます。

表示パネルが照明されている間に、撮影に関わる各種ボタン、モードダイヤルを操作すると、照明時間が延長されます。

アイピースカバーの使い方

セルフタイマーやリモートスイッチ（別売）を使うときなど、ファインダーから目を離して撮影すると、ファインダーから入った光によって露出が変わることがあります。そのときは、アイピースカバー（15）を使います。

1 アイカップを取り外す

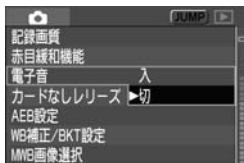
● アイカップの下側を押して取り外します。

2 アイピースカバーを取り付ける

● ファインダー接眼部の溝に沿って、アイピースカバーを取り付けます。

MENU 電子音を鳴らないようにする

すべての撮影モードで電子音を鳴らないようにすることができます。

1 ［電子音］を選ぶ

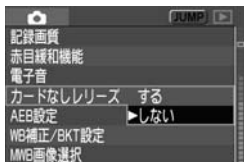
- 〈◎〉を回して［📷 **電子音**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［切］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**切**］を選び、〈SET〉を押します。

MENU CFカードの入れ忘れを防止する

CFカードが入っていないときに、撮影できないようにすることができます。すべての撮影モードで設定できます。

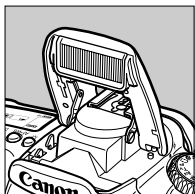
1 ［カードなしレリーズ］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［📷 **カードなしレリーズ**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［しない］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**しない**］を選び、〈SET〉を押します。

［**しない**］に設定して、CFカードを入れずにシャッターボタンを押すと、ファインダー内に「**no CF**」が表示されます。

6

ストロボを使った撮影

内蔵ストロボ、またはEOS 専用EXシリーズスピードライトを使用すると、E-TTL II自動調光（プリ発光・記憶式評価調光）により、ストロボなしの通常の撮影と同じ感覚で、自然で雰囲気のあるストロボ撮影を簡単に行うことができます。
簡単撮影ゾーン（〈〉〈〉〈〉を除く）では全自動で、応用撮影ゾーンでは必要なときにいつでもストロボ撮影ができます。

あらかじめ〈〉スイッチを〈〉の位置にしてください。

内蔵ストロボを使った撮影

E-TTL II 自動調光制御により、高精度で安定したストロボ撮影ができます。

簡単撮影ゾーンでの内蔵ストロボ撮影

暗いときや日中逆光時に、**内蔵ストロボが自動的に上がって発光**します。(〈〉〈〉〈〉を除く)

応用撮影ゾーンでの内蔵ストロボ撮影

明るさに関係なく**必要なときに〈〉ボタンを押して内蔵ストロボを上げるだけ**でストロボ撮影ができます。

P　：**カメラまかせのストロボ撮影を行いたいときに選択します。**シャッター速度（1/60～ 1/250 秒）と絞り数値は、〈□〉（全自動）と同様に自動的に決まります。

Tv　：**任意のシャッター速度（30秒～1/250秒）を設定したいときに選択します。**設定したシャッター速度に対し、カメラの測光で適正露出となる**絞り数値が自動設定されます。**

Av　：**任意の絞り数値を設定したいときに選択します。**設定した絞り数値に対し、カメラの測光で最適な**シャッター速度が自動設定（30秒～1/250秒）されます。**

夜景などを背景にした暗い場所では、主被写体も背景も適正露出となる、スローシンクロ撮影になります。主被写体はストロボ光で、背景は遅いシャッター速度による露光で適正露出になります。

- 自動スローシンクロ撮影では、シャッター速度が遅くなりますので、三脚を使用して撮影することをおすすめします。
- シャッター速度が遅くならないようにしたいときは、カスタム機能C.Fn-03［**Avモード時のストロボ同調速度**］を［**1：1/250秒固定**］に設定します。（139）

M　：**シャッター速度（バルブ、30秒～1/250秒）と絞り数値を任意に設定したいときに選択します。**主被写体はストロボ光で適正露出となります。背景の露出は、設定したシャッター速度と絞り数値によって変わります。

A-DEP：〈**P**〉と同じストロボ撮影結果になります。

内蔵ストロボの届く距離

EF-S17-85mm F4-5.6 IS USM使用時 ［m］

ISO感度	広角：17mm	望遠：85mm
100	約1～3.3	約1～2.3
200	約1～4.6	約1～3.3
400	約1～6.5	約1～4.6
800	約1～9.2	約1～6.5
1600	約1～13.0	約1～9.2
H：3200	約1～18.4	約1～13.0

EF-S18-55mm F3.5-5.6 USM使用時 ［m］

ISO感度	広角：18mm	望遠：55mm
100	約1～3.7	約1～2.3
200	約1～5.3	約1～3.3
400	約1～7.4	約1～4.6
800	約1～10.5	約1～6.6
1600	約1～14.9	約1～9.2
H：3200	約1～21.0	約1～13.1

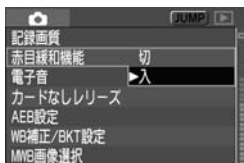
- 被写体との距離が1m以内で内蔵ストロボ撮影すると、レンズでストロボの光がさえぎられて、画面の一部が暗い写真になります。1m以上離れて撮影してください。
- レンズフードを付けたまま内蔵ストロボを使用すると、フードでストロボの光がさえぎられます。必ずフードを外してから撮影してください。
- 超望遠レンズ、大口径レンズを使用すると、内蔵ストロボの光がさえぎられることがあります。EXスピードライト（別売）の使用をおすすめします。
- 内蔵ストロボ照射角の広角側限界は、レンズ表記焦点距離 17mm までです。17mm未満の広角レンズを使用すると、撮影した画像の周囲が暗くなります。

- 内蔵ストロボを収納するときは、指で押し下げます。
- 〈**Tv**〉〈**M**〉で1/250秒より速いシャッター速度を設定しても、自動的に1/250秒に設定されます。
- AFでピントが合わせにくいときは、必要に応じてAF補助光が被写体に向けて自動投光されます（〈〉〈〉〈〉を除く）。(66)

赤目緩和機能を使う

夜や暗い室内などで人物をストロボ撮影したときに目が赤く写ることがあります。これを「赤目現象」といい、ストロボの光が目の網膜に反射して起こります。赤目緩和機能を使用すると、ストロボ撮影するときに目にやさしい赤目緩和ランプが点灯し、写る人の瞳孔を小さくして赤目現象を出にくくします。赤目緩和機能は〈 〉〈 〉〈 〉以外のすべての撮影モードで機能します。

1 ［赤目緩和機能］を選ぶ

- 〈 〉を回して［ 赤目緩和機能］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［入］を選ぶ

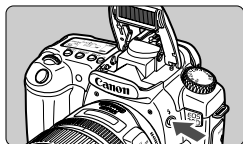
- 〈 〉を回して［入］を選び、〈SET〉を押します。

- シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に赤目緩和ランプ点灯表示が行われます。
- 写される人がランプを注視していないと効果がありませんので、写される人がランプを見るように声をかけてください。
- 効果的な赤目緩和撮影のためには、約1.5秒間の赤目緩和ランプ点灯表示が消えてからシャッターボタンを全押ししてください。
- 赤目緩和ランプ点灯中でも、シャッターボタンを全押しすると撮影できます。
- 赤目緩和効果の度合いには個人差があります。
- 室内を明るくしたり、写したい人に近づくとより効果的です。

125 5.6 9

赤目緩和ランプ点灯表示

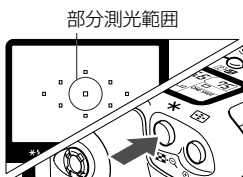
✱FEロック撮影★

FE（Flash Exposure：フラッシュエクスポージャー）ロック撮影は、被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影です。

1 〈ϟ〉の点灯を確認する

- 〈ϟ〉ボタンを押して内蔵ストロボを上げておきます。
- ファインダー内に〈ϟ〉が点灯していることを確認します。

2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。手順4まで半押ししたままにしておきます。

部分測光範囲

3 〈✱〉ボタンを押す

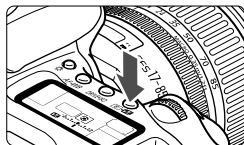
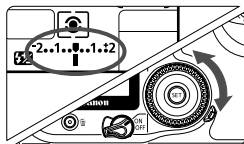
- ➡ ストロボがプリ発光し、必要な露光量を記憶します。（16）
- ➡ ファインダー内に一瞬「**FEL**」と表示され、〈✱〉が点灯します。
- 〈✱〉ボタンを押し直すたびにプリ発光し、必要な露光量を記憶します。

4 撮影する

- 構図を決めてシャッターボタンを全押しします。
- ➡ ストロボが発光し、撮影されます。

> 被写体までの距離が遠すぎて露出不足になるときは〈ϟ〉が点滅します。被写体に近づいて再度手順2〜4の操作をします。

ストロボ調光補正★

露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量をカメラで補正することができます。補正できる範囲は1/3段ステップ±2段です。

1 〈⊙・⚡±〉ボタンを押す（⏱6）

2 補正量を設定する

● 〈⊘〉スイッチを〈／〉の位置にして、表示パネルまたはファインダー内を見ながら、〈◎〉を回します。

標準露出指標

露出レベルマーク　-2..1..▼..1..±2

マイナス補正 ◄……► プラス補正

● ストロボ調光補正を解除するときは、補正量を〈▼〉の位置に戻します。

プラス補正

マイナス補正

-2..1..▼..1..±2

3 撮影する

● 設定した補正量は〈⊘〉スイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。
● EXスピードライト使用時も同じ操作で、カメラ側からストロボ調光補正ができます。

EOS専用外部ストロボを使った撮影

EXシリーズスピードライトでの撮影

EOS専用EXスピードライト（別売）を使用すると､ストロボなしの通常の撮影と同じ感覚で､次のストロボ撮影を簡単に行うことができます。操作方法については、EXスピードライトの使用説明書も参照してください。

●E-TTL II 自動調光

E-TTL II は、調光制御方式の改善とレンズ距離情報の活用により、従来の E-TTL（プリ発光・記憶式評価調光）以上の高精度ストロボ調光を実現した、新自動調光システムです。このカメラでは、どのEXスピードライトを使用しても、E-TTL II 自動調光撮影を行うことができます。

・ハイスピードシンクロ（FP発光）

ハイスピードシンクロを使用すると、1/250秒より速いシャッター速度でもストロボ撮影ができるようになります。

・FE（Flash Exposure）ロック

カメラの〈✱〉ボタンを押すと､被写体の任意の部分のストロボ露出を適正にする、FEロック撮影ができます。

・ストロボ調光補正

露出補正と同じ感覚で、ストロボ光の発光量の補正を行うことができます。補正できる範囲は、1/3段ステップ±3段です。

・FEB（Flash Exposure Bracketing）撮影

自動的にストロボの発光量を変えながら3枚の撮影を行うことができます（FEB対応ストロボのみ)。設定できる範囲は、1/3段ステップ±3段です。

・ワイヤレス多灯・E-TTL II 自動調光撮影

カメラに直接取り付けたときと同じ感覚で、上記すべての機能を活用したワイヤレス多灯・E-TTL II自動調光撮影ができます。接続コードが不要なため、自由で高度なライティング設定が可能です（ワイヤレス対応ストロボのみ)。

EZ/E/EG/ML/TLスピードライトについて

EZ/E/EG/ML/TLスピードライトを、TTLまたはA-TTL自動調光モードにして撮影すると発光しません。マニュアル発光機能を持つスピードライトは、マニュアル発光モードで撮影してください。

- 外部ストロボを使用するときは、内蔵ストロボを収納してから取り付けてください。
- EXスピードライト側でカスタム機能を設定して、発光モードがTTL自動調光になっているときは発光しません。

- AFでピントが合わせにくいときは、必要に応じてEOS専用外部ストロボ（AF補助光投光機能を持つ外部ストロボのみ）から、AF補助光が被写体に向けて自動投光されます（〈 〉〈 〉〈 〉を除く）。
- このカメラは、EX スピードライトの全機能が使用できる A タイプカメラに属しています。

汎用ストロボを使った撮影

同調シャッター速度について

小型の汎用ストロボは1/250秒以下、スタジオ用の大型ストロボは1/125秒以下のシャッター速度で同調します。あらかじめストロボが正しく同調するかどうか、確認してから使用してください。

シンクロ端子について

- シンクロ端子を利用して、シンクロコード付きのストロボを使用することができます。シンクロ接点には、コードの抜け落ちを防止するロックねじが付いています。
- このカメラのシンクロ端子には極性がありませんので、使用するシンクロコードの極性に関係なく、そのまま使用することができます。

- 他社製の特定のカメラ専用のストロボ、およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因となります。
- シンクロ端子に 250V 以上の電圧がかかるストロボを使用しないでください。
- 高圧ストロボをアクセサリーシューに取り付けて使用しないでください。発光しないことがあります。

アクセサリーシューとシンクロ端子にそれぞれストロボを接続して、同時に使用することができます。

7

撮影画像の再生

撮影した画像を見る方法や消去する方法、またテレビとの接続方法など、撮影画像の再生に関連する内容について説明します。

他の機器で撮影・記録された画像データについて

このカメラ以外で撮影された画像や、このカメラで撮影したあとにパソコンなどで画像データを加工したり、ファイル名を変更した画像は、正常に表示できないことがあります。

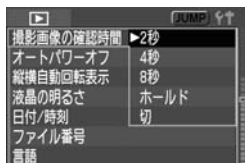
MENU 撮影直後の画像表示時間を設定する

撮影直後にカメラ背面の液晶モニターに表示される画像の表示時間を設定することができます。撮影画像を表示したままにするときは［**ホールド**］、撮影画像を表示しないときは［**切**］に設定します。

1 ［撮影画像の確認時間］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［▶ **撮影画像の確認時間**］を選び、〈SET〉を押します。

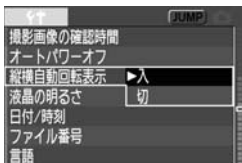
2 確認時間を設定する

- 〈◎〉を回して希望する確認時間を選び、〈SET〉を押します。

- 撮影直後の画像表示中に〈INFO.〉ボタンを押すと、表示形式を切り換えることができます。
- ［**ホールド**］に設定した場合、撮影画像はシャッターボタンを半押しするまで表示されます。ただし、オートパワーオフ設定時は、設定時間になると自動的に電源が切れます。
- 1枚撮影後の画像表示中に〈㎡〉ボタンを押して、［**OK**］を選ぶと、表示中の画像を消去することができます。
- 今までに撮影した画像を確認したいときは、『撮影した画像を再生する』（101）を参照してください。

MENU 縦横自動回転表示の設定

縦位置撮影した画像を再生するときに、画像の確認が行いやすいよう、画像を自動回転させて表示することができます。

1 ［縦横自動回転表示］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**ﾘT 縦横自動回転表示**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［入］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**入**］を選び、〈SET〉を押します。

3 縦位置で撮影する

- 撮影直後に液晶モニターに表示される画像は自動回転表示されません。

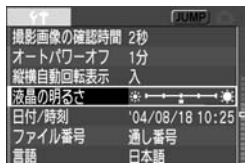
4 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 縦位置で撮影した画像が左図のように見やすい位置で表示されます。

- 自動回転表示が行われるのは、［**縦横自動回転表示**］を［**入**］に設定して撮影した画像のみです。［**切**］で撮影した画像は、設定を［**入**］にしても自動回転表示されません。
- カメラを上や下に向けて撮影すると、正しく自動回転表示されないことがあります。

カメラの縦横の向き（姿勢）を変えると、カメラの姿勢を検出するセンサーの機構により、小さな音がすることがありますが、故障ではありません。

MENU 液晶の明るさを調整する

液晶モニターが見やすいように、明るさを5段階に調整することができます。

1 [液晶の明るさ] を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**ﾟ液晶の明るさ**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 調整画面が表示されます。

2 明るさを調整する

- 画面左のグレーチャートを参考にして、〈◎〉を回して調整します。
- 〈SET〉を押すと、設定が終了しメニューに戻ります。

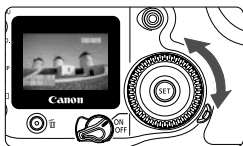
撮影した画像の露出を確認するときは、ヒストグラム（102）で確認することをおすすめします。

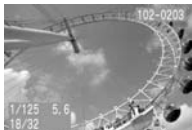
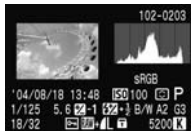
撮影した画像を再生する

撮影した画像を自由に選択して、1枚表示や撮影情報表示、インデックス表示、拡大ズーム表示などで見ることができます。

▶ 1枚表示

1 画像を再生する

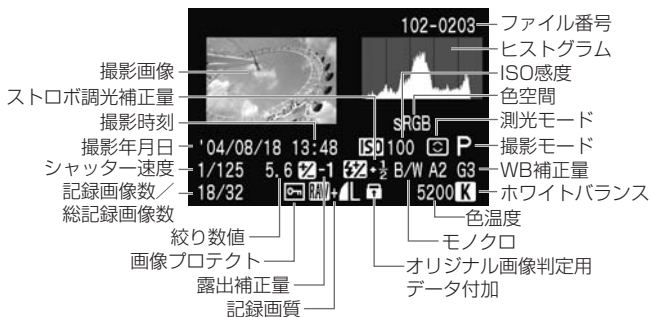
- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 最後に撮影した画像が液晶モニターに表示されます。

2 画像を選ぶ

- 〈◎〉を左に回すと、最後に撮影した画像から新しい順に画像が切り換わります。右に回すと、古い画像から順に新しい画像が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと、表示形式を切り換えることができます。

1枚表示
（簡易情報あり）

撮影情報表示

1枚表示
（撮影情報なし）

- 〈▶〉ボタンを押すと、液晶モニターが消え、再生が終了します。

- インデックス表示、拡大ズーム表示など、1枚表示以外の再生方法でも〈INFO.〉ボタンを押すと、簡易情報のあり／なしを切り換えることができます。
- 連続撮影後の CF カード書き込み中（アクセスランプ点滅中）に〈▶〉ボタンを押すと、その時点でCFカードへの書き込みが終了した最後の画像を表示します。〈◎〉を回すと、画像を選ぶことができます。CFカードへの書き込みが終了した画像が順次再生できるようになります。

撮影情報表示について

ヒストグラムについて

ヒストグラムは、横軸に明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、画像の輝度分布を表しています。

ヒストグラムでは、画面の中の「暗い成分」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るい成分」ほどグラフの右寄りに積み上げられて表示されます。

横軸の左端に積み上げられた成分は黒くつぶれ、右端に積み上げられた成分は白く飛びます（ハイライト）。そのほかの成分は階調が再現されます。

再生画像とそのヒストグラムを見ることで、露出レベルの傾向と全体の階調を確認することができます。

ヒストグラム例

暗い成分が多いとき

普通の明るさのとき

明るい成分が多いとき

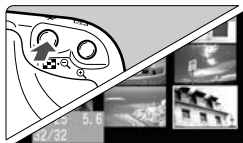
ハイライト警告表示について

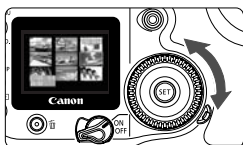
撮影情報表示にしたときに、露出オーバーで白飛びした部分を点滅表示します。階調を再現させたい部分が点滅しているときは、露出をマイナス補正して再撮影すると良い結果が得られます。

⊞インデックス表示

1画面に9枚の画像を同時に表示します。

1 画像を表示する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 最後に撮影された画像が液晶モニターに表示されます。

2 インデックス表示にする

- 〈⊞・Q〉ボタンを押します。
- ➡ 選択されている画像に緑色の枠がつきます。

3 画像を選ぶ

- 〈◎〉回すと、緑色の枠が移動します。

インデックス表示から別の表示形式に変えるには

- 〈▶〉ボタンを押すと1枚表示になります。
- 〈⊕〉ボタンを1回押すと1枚表示に、もう一度押すと拡大ズーム表示になります。

インデックス表示中に〈JUMP〉ボタンを押して〈◎〉を回すと、前または次の9枚目の画像へジャンプすることができます。（105）

🔍＋／🔍－ 拡大ズーム表示

撮影した画像を、約1.5倍～10倍に拡大して表示することができます

1 画像を表示する

- 拡大したい画像を1枚表示、または撮影情報表示で再生します。

2 画像を拡大する

- 〈🔍＋〉ボタンを押します。

➡ 初めに画面の中央が拡大表示されます。

- 〈🔍＋〉ボタンを押し続けると、最大の拡大率まで連続的に大きくなります。
- 〈▦・🔍－〉ボタンを押すと、縮小表示になります。押し続けると、手順1の状態まで連続的に小さくなります。

拡大表示位置

3 表示位置を移動する

- 〈✣〉を操作すると、表示位置が上下左右、斜めに移動します。
- 手順2、3を繰り返して希望する位置を拡大します。
- 拡大表示を終了するときは、〈▶〉ボタンを押します。

拡大ズーム表示中に〈⚙〉を回すと、拡大位置、拡大率を固定した状態で、表示画像を切り換えることができます。

JUMPジャンプ表示

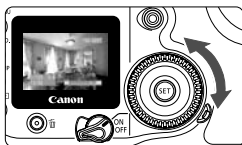
1枚表示、撮影情報表示、インデックス表示、拡大ズーム表示のときに、画像を飛ばして表示（ジャンプ）することができます。

1 画像を表示する

- 1枚表示、撮影情報表示、インデックス表示、拡大ズーム表示のいずれかで再生します。

ジャンプバー

2 ジャンプ表示にする

- 〈JUMP〉ボタンを押します。
- ➡ 画面の下にジャンプバーが表示されます。

3 前後の画像にジャンプする

- 〈 〉を回します。拡大ズーム表示のときは〈 〉を回します。
- 〈JUMP〉ボタンを押すとジャンプバーが消え、ジャンプが終了します。

1枚表示、撮影情報表示、拡大ズーム表示のジャンプ

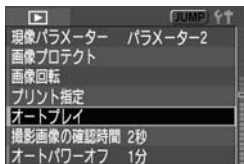
左に回すと前の10枚目、右に回すと次の10枚目の画像を表示します。拡大ズーム表示のときは、拡大位置、拡大率が固定された状態でジャンプします。

インデックス表示のジャンプ

左に回すと前の9枚目、右に回すと次の9枚目の画像を表示します。

［**画像プロテクト**］［**画像回転**］でジャンプ表示を行うこともできます。

MENU 撮影画像を自動再生する／オートプレイ

CFカードに記録されている画像を自動的に連続表示します。1画像の表示時間は約3秒です。

1 ［オートプレイ］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［▶ **オートプレイ**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ オートプレイ画面になります。

2 自動再生する

- ➡ ［**画像読み込み中・・・**］が数秒間表示されたあと、自動再生が始まります。
- 自動再生を一時停止したいときは、〈SET〉を押します。
- 一時停止中は画像の左上に［∥］が表示されます。もう一度〈SET〉を押すと、自動再生を再開します。

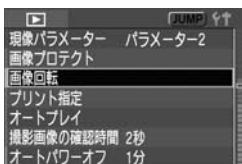
3 自動再生を終了する

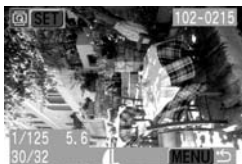
- 〈MENU〉ボタンを押すと、自動再生が終了しメニューに戻ります。

- 自動再生中は、オートパワーオフは機能しません。
- 撮影画像により、表示時間が異なる場合があります。

- 自動再生中に〈INFO.〉ボタンを押すと、画像の表示形式を切り換えることができます。
- 一時停止中に〈◎〉を回すと、表示画像を切り換えることができます。

MENU 撮影画像を回転して表示する

撮影画像を時計方向に90°、270°回転することができます。この機能で画像の向きをあらかじめ正しくセットしておくと、再生のときに正しい向きで表示することができます。

1 ［画像回転］を選ぶ

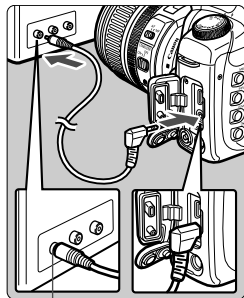
- 〈◎〉を回して［▶ **画像回転**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画像回転画面になります。

2 画像を回転する

- 〈◎〉を回して回転したい画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 〈SET〉を押すたびに、時計方向に回転します。
- ほかに回転したい画像があるときは、手順2を繰り返します。

- 〈MENU〉ボタンを押すと、画像回転が終了しメニューに戻ります。

- メニュー機能の［**¥† 縦横自動回転表示**］を［入］（99）に設定して撮影すると、この機能で画像を回転する必要がなくなります。
- 手順1のあとで画像の表示形式を撮影情報表示、拡大ズーム表示、インデックス表示にしたあとで、画像を回転することもできます。

撮影した画像をテレビで見る

付属のビデオケーブルを使用すると、撮影した画像をテレビなどで見ることができます。接続するときは、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。

ビデオ入力端子

1 カメラをテレビに接続する

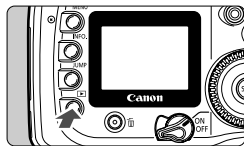
- カメラの端子カバーを開けます。
- カメラの〈VIDEO OUT〉ビデオ出力端子と、テレビのビデオ入力端子を付属のビデオケーブルで接続します。
- ケーブルのプラグは、根元までしっかりと差し込んでください。

2 テレビの 電源を入れ、テレビ の入力切り換えをビデオ入力にする

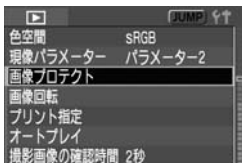
3 〈電源〉スイッチを〈ON〉または〈／￣〉の位置にする

4 〈▶〉ボタンを押す

➡ 画像がテレビに表示されます（液晶モニターには何も表示されません）。

- 見終わったら、〈電源〉スイッチを〈OFF〉にして、テレビの電源を切ってから、ビデオケーブルを取り外します。

- テレビ方式と異なるビデオ出力方式を設定すると、画像が正しく表示されません。そのときは、メニュー機能の［**ビデオ出力方式**］で方式を切り換えてください。
- 使用するテレビ（モニター）によっては、画面表示がケラレることがあります。

MENU 撮影画像を保護する

大切な画像を間違って消さないように、プロテクトをかける（保護する）ことができます。

1 ［画像プロテクト］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［▶ **画像プロテクト**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プロテクト画面になります。

プロテクト表示

2 プロテクトをかける

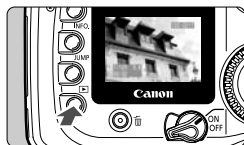
- 〈◎〉を回してプロテクトをかける画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プロテクトが設定されると、画面の下に〈⊶〉が表示されます。
- もう一度〈SET〉を押すと、プロテクトが解除され〈⊶〉が消えます。
- ほかにプロテクトをかけたい画像があるときは、手順2を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、画像プロテクトが終了しメニューに戻ります。

- プロテクトをかけた画像は、カメラの消去機能で消去できません。画像を消去するときは、プロテクトを解除してください。
- 必要な画像にプロテクトをかけて全画像消去（111）を行うと、プロテクトをかけた画像以外はすべて消去されます。必要な画像以外を一度にまとめて消去するときに便利です。
- 手順1のあとで画像の表示形式を撮影情報表示、拡大ズーム表示、インデックス表示にしたあとで、画像にプロテクトをかけることもできます。

撮影画像を消去する

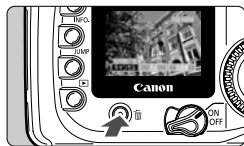
画像を消去する方法には、1枚ずつ消去する方法とCF カードに記録されているすべての画像を消去する方法があります。なお、プロテクトをかけた画像は、消去されません。

消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようプロテクトをかけてください。

1枚消去

1 画像を表示する

- 〈▶〉ボタンを押します。

2 消去する画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して消去 する画像を選びます。

3 消去画面にする

- 〈🗑〉ボタンを押します。
- ➡ 画面の下に消去メニューが表示されます。

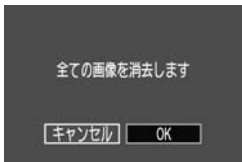
4 消去する

- 〈◎〉を回して［**消去**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ アクセスランプが点滅して画像が消去されます。
- ほかに消去したい画像があるときは、手順2〜4を繰り返します。

全画像消去

1 画像を表示する
- 〈▶〉ボタンを押します。

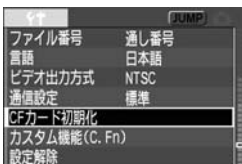
2 消去画面にする
- 〈🗑〉ボタンを押します。
- ➡ 画面の下に消去メニューが表示されます。

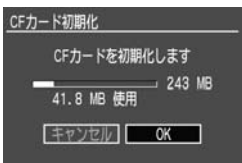
3 ［全画像...］を選ぶ
- 〈◎〉を回して［**全画像...**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 確認画面が表示されます。

4 消去する
- 〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プロテクトをかけていないすべての画像が消去されます。
- 消去中に〈SET〉を押すと消去作業が中止されます。

連続撮影後のCFカード書き込み中（アクセスランプ点滅中）に〈▶〉ボタンを押したあと、〈🗑〉ボタンを押すと、表示中の画像または全画像を消去することができます。［**全画像...**］を選び〈SET〉を押すと、連続撮影した画像（未現像処理画像を含む）とCFカードに記録されているすべての画像が消去されます。

MENU CFカードを初期化する

このカメラで使用できるようにCFカードを初期化（フォーマット）します。

CFカードを初期化すると、CFカード上の記録内容はすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、CFカード内の記録内容を十分に確認してから行ってください。必要な記録内容は、初期化する前に必ずパソコンへ保存してください。

1 [CFカード初期化］を選ぶ

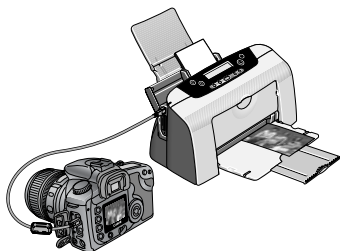
- 〈◎〉を回して［ CFカード初期化］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 確認画面が表示されます。

2 初期化する

- 〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ CFカードが初期化されます。
- ➡ 初期化が完了するとメニューに戻ります。

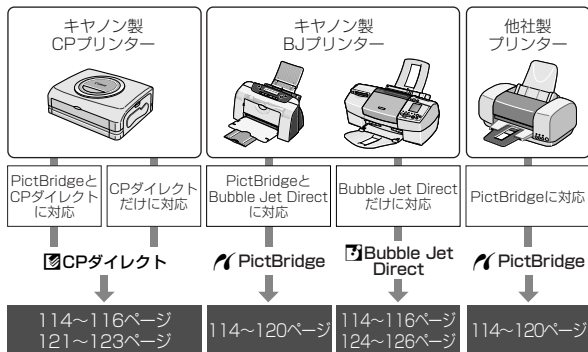
- キヤノン製以外のCFカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したCFカードを使用すると、正しく動作しない場合があります。そのときは、このカメラで初期化してください。初期化することで、使用できる場合があります。
- 初期化の画面で表示されるCFカードの総容量は、CFカードに書かれている容量よりも少なくなることがあります。

「Err CF」が表示されたときは

表示パネルに「**Err CF**」(CFエラー警告）が表示されたときは、CFカードに何らかの障害が発生して、記録／読み出しができない状態になっています。別のCFカードに交換してください。

カードリーダー (市販品) を使用して、パソコンでCF カードの内容が読み取れる場合は、CFカード内の撮影データをすべてパソコンに保存してください。すべての撮影データがパソコンに保存されたことを確認したら、CF カードを初期化してください。正常な状態に戻る場合があります。

8

カメラダイレクトプリント

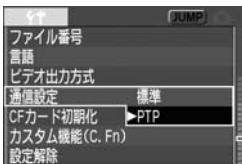
カメラに直接プリンターをつないで、CFカードに記録されている画像をプリントすることができます。
ダイレクトプリント標準規格の「〈PictBridge〉PictBridge（ピクトブリッジ）」対応プリンターと、キヤノン独自規格の「〈CPダイレクト〉CPダイレクト」、「〈Bubble Jet Direct〉Bubble Jet Direct（バブルジェットダイレクト）」対応プリンターで印刷する方法について説明します。

プリントの準備をする

ダイレクトプリントの操作は、カメラの液晶モニターに表示される操作画面を見ながら、すべてカメラ側で行います。

カメラの設定

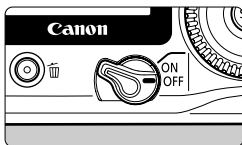
メニュー機能の［**𝐘𝐓 通信設定**］を［**PTP**］に設定します。

1 ［通信設定］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**𝐘𝐓 通信設定**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［PTP］を選ぶ

- 〈◎〉を押して［**PTP**］を選び、〈SET〉を押します。

> カメラをパソコンに接続するときは、［**通信設定**］を［**標準**］にしてください。［**PTP**］ではパソコンとの通信ができないことがあります。

カメラとプリンターの接続

1 カメラの〈⊜〉スイッチを〈OFF〉にする

2 プリンターの準備をする

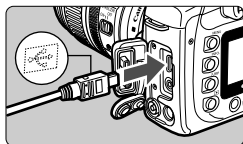
- 詳しくは使用するプリンターの使用説明書を参照してください。

> - RAW形式の画像は、ダイレクトプリントできません。
> - ダイレクトプリント中は、ケーブルを取り外さないでください。

3 カメラとプリンターを接続する

- 次の表（プリンターとケーブルについて）を参照して、使用するケーブルを選んでください。

プリンターとケーブルについて

接続するプリンター		使用するケーブル
	PictBridgeだけに対応	**カメラに付属のケーブル** 両方のプラグに〈•⟷〉マークが付いています
	PictBridgeと CPダイレクトに対応	
	PictBridgeと Bubble Jet Directに対応	
	CPダイレクトだけに対応	**プリンターに付属のケーブル** 片方のプラグだけに〈•⟷〉マークが付いています
	Bubble Jet Directだけに対応	

- カメラ側を接続するときはプラグの〈•⟷〉が、カメラの前面に向くようにして、プラグをカメラの〈**DIGITAL**〉デジタル端子に差し込みます。
- プリンター側の接続方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

4 プリンターの電源を入れる

5 カメラの〈〉スイッチを〈ON〉または〈〉にする

➡ プリンターの機種によっては、電子音が「ピピッ」と鳴ることがあります。

PictBridge

CPダイレクト

Bubble Jet Direct

6 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 画像が表示され、画面左上にプリンターと接続されていることを示すマーク〈、、〉が表示されます。
- 表示されるマークによって、操作方法が異なります。表示されるマークに応じたページを参照してください。

マーク	ダイレクトプリントの種類	参照ページ
	PictBridge	117〜120
	CPダイレクト	121〜123
	Bubble Jet Direct	124〜126

- カメラの電源にバッテリーを使用するときは、フル充電してから使用してください。なお、プリントする際はバッテリーの残量に注意してください。
- 手順5で電子音が「ピーピーピー」と長く鳴ったときは、PictBridge対応プリンターに問題が発生しています。どのような問題が発生しているかは、次の操作で確認できます。
  〈▶〉ボタンを押して画像を再生し、次の操作を行ってください。
  1.〈SET〉を押す
  2.プリント設定画面で［**プリント**］を選ぶ
  液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。『**エラーメッセージについて**』（120）を参照して問題を解決してください。
- ケーブルを取り外すときは、カメラとプリンターの電源を切ってから、必ずプラグの側面を持って引いてください。
- カメラとプリンターの接続には、専用のインターフェースケーブル以外は使用しないでください。

ダイレクトプリントを行うときは、カメラの電源に AC アダプターキット ACK-E2（別売）の使用をおすすめします。

〈✓〉PictBridgeでプリント

使用するプリンターによって設定できる内容が異なります。また、設定そのものができないことがあります。詳しくは、使用するプリンターの使用説明書を参照してください。

プリンター接続表示

1 プリントする画像を選ぶ

- 液晶モニターの左上に〈✓〉が表示されていることを確認します。
- 〈◎〉を回してプリントする画像を選びます。

2 〈SET〉を押す

➡ プリント設定画面になります。

プリント設定画面

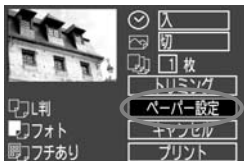
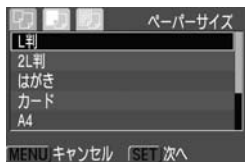
- 日付を入れてプリントするかどうかを設定します
- プリント効果を設定します
- 何枚プリントするかを設定します
- プリント範囲を設定します
- 用紙のサイズ、タイプとレイアウトを設定します
- 手順1の画面に戻ります
- プリントを開始します

設定されている用紙のサイズ、タイプ、レイアウトが表示されます

*** 使用するプリンターの機種によっては、日付やトリミングなど、一部の設定項目が選択できないことがあります。**

3 ［ペーパー設定］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**ペーパー設定**］を選び、〈SET〉を押します。

➡ ペーパー設定画面になります。

ペーパーサイズの設定

- 〈◎〉を回してプリンターにセットされているペーパー（用紙）のサイズを選び、〈SET〉を押します。
- ➡ ペーパータイプの設定画面になります

ペーパータイプの設定

- 〈◎〉を回してプリンターにセットされているペーパー（用紙）のタイプを選び、〈SET〉を押します。
- ➡ レイアウトの設定画面になります

ペーパー（用紙）タイプについて

キヤノン製プリンターで、キヤノン純正用紙を使うときは、次のように設定してください。

フォト	スーパーフォトペーパー
高級フォト	プロフォトペーパー
標準設定	スーパーフォトペーパー

他社製のプリンターをお使いのときは、プリンターの使用説明書を参照してください。

レイアウトの設定

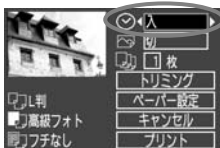
- 〈◎〉を回して希望する印刷レイアウトを選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プリント設定画面に戻ります。

レイアウトについて

フチあり	用紙のまわりに余白をつけてプリントします。
フチなし	余白なしで用紙いっぱいにプリントします。 「フチなし」印刷できないプリンターでは、「フチあり」でプリントされます。
＊＊面配置	用紙1枚に同じ画像を小さく、8/2/4/9/16/20画面プリントします。
標準設定	キヤノン製プリンターでは、「フチなし」でプリントされます。

4 その他の項目を設定する

- 必要に応じて〈⊙〉日付プリント、〈〉プリント効果、〈〉プリント枚数を設定します。

⊙日付プリント

プリント効果

プリント枚数

- 〈〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。
- 続けて〈〉を回して内容を選び、〈SET〉を押します。
- BJプリンターの機種によっては、〈〉プリント効果で、［VIVID］（緑や青空を鮮やかに印刷）、［NR］（ノイズリダクション）、［VIVID+NR］、または［入］が選択できます。
- トリミングについては、127 ページを参照してください。

5 プリントする

- 〈◎〉を回して［**プリント**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プリントが開始されます。
- プリントが終了すると、手順1の状態に戻ります。
- プリントを中止するときは、[**中止**] が表示されている間に〈SET〉を押し、〈◎〉を回して [**OK**] を選び〈SET〉を押します。

- プリントする画像のファイルサイズや記録画質によっては、[**プリント**] を選んでから実際にプリントが始まるまで、しばらく時間がかかります。
- プリント効果などの選択肢にある［**標準設定**］は、プリンターメーカーが独自に設定するプリント内容のことです。[**標準設定**］の内容については、プリンターの使用説明書を参照してください。

プリンターエラー発生時の操作について

プリンターに関するエラー（インク切れ、用紙切れなど）を解決したあと、［**続行**］を選んでもプリントが再開されないときは、プリンター側を操作してプリントを再開してください。プリントの再開方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

エラーメッセージについて

プリント中に問題が発生したときは、カメラの液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。〈SET〉を押してプリントを中止し、問題を解決してから再度プリントしてください。プリンターの問題解決方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

ペーパーエラー

プリンターのペーパー（用紙）が正しくセットされているかどうか確認してください。

インクエラー

プリンターのインク残量や、廃インクタンクの状態を確認してください。

ハードウェアエラー

ペーパー（用紙）、インク以外の問題がプリンターに発生していないか確認してください。

ファイルエラー

PictBridge でプリントできない画像をプリントしようとしました。別のカメラで撮影した画像や、パソコンに取り込んで加工した画像は、プリントできないことがあります。

◪CPダイレクトでプリント

プリンター接続表示

1 プリントする画像を選ぶ

- 液晶モニターの左上に〈◪〉が表示されていることを確認します。
- 〈◎〉を回してプリントする画像を選びます。

2 〈SET〉を押す

➡ プリント設定画面になります。

プリント設定画面

プリント範囲枠：画面がカットされるときに表示されます

何枚プリントするかを設定します

プリント範囲を設定します

プリントスタイル（様式）を設定します

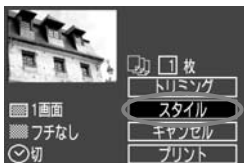
手順1の画面に戻ります

プリントを開始します

設定されているプリントスタイルが表示されます。〈⊙〉は日付のマークです

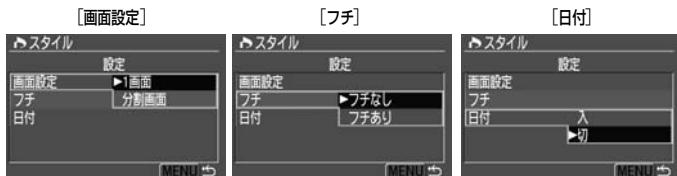
3 ［スタイル］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**スタイル**］を選び、〈SET〉を押します。

➡ スタイル設定画面になります。

4 項目を設定する

● ［**画面設定**］［**フチ**］［**日付**］の設定状態を確認し、必要に応じて設定します。

［**画面設定**］

［**日付**］

● 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。
● 続けて〈◎〉を回して内容を選び、〈SET〉を押します。
● ［**画面設定**］は、カードサイズのペーパー（用紙）使用時に選択できるようになります。［**分割画面**］を選ぶと、用紙1枚に同じ画像を小さく8画面プリントします。
● ［**フチ**］［**日付**］は、設定状態を確認し、必要に応じて設定します。
● 設定が終わったら、〈MENU〉ボタンを押してプリント設定画面に戻ります。

5 プリント枚数を設定する

● 必要に応じて設定します。
● 〈◎〉を回して［**枚**］を選び、〈SET〉を押します。
● 続けて〈◎〉を回してプリント枚数を設定し、〈SET〉を押します。
● 1〜99枚まで設定できます。

6 トリミングの設定をする

- 必要に応じて設定します。
- トリミングについては、127 ページを参照してください。

7 プリントする

- 〈〉を回して［**プリント**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プリントが開始されます。
- プリントが終了すると、手順1の状態に戻ります。
- プリントを中止するときは、［**中止**］が表示されている間に〈SET〉を押し、〈〉を回して［**OK**］を選び〈SET〉を押します。

- 日付の背景が明るいときや、背景がフチのときは、日付が薄く印刷されることがあります。
- ［**分割画面**］を選ぶと、［**フチ**］［**日付**］の設定はできません。［**フチなし**］［**日付**］は［**切**］でプリントされます。また、画像の上下左右がカットされてプリントされます。

- ［**日付**］を［**入**］にすると、画像に記録されている日付情報を入れてプリントします。日付は用紙の右下に印刷されます。
- プリント中に［**中止**］を選んだ場合、プリント枚数が1枚のときはプリントを中止できません。2枚以上のときは次のプリントから中止されます。
- プリント中に問題が発生したときは、カメラの液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。［**中止**］または（問題を解決したあとで）［**再開**］を選びます。［**再開**］が表示されないときは、［**中止**］を選びます。

🖨Bubble Jet Directでプリント

プリンター接続表示

1 プリントする画像を選ぶ

- 液晶モニターの左上に〈🖨〉が表示されていることを確認します。
- 〈◎〉を回してプリントする画像を選びます。

2 〈SET〉を押す

➡ プリント設定画面になります。

プリント設定画面

プリント範囲枠：画面がカットされるときに表示されます

何枚プリントするかを設定します
プリント範囲を設定します
プリントスタイル（様式）を設定します
手順1の画面に戻ります
プリントを開始します

設定されているプリントスタイルが表示されます。〈⊙〉は日付のマークです

3 ［スタイル］を選ぶ

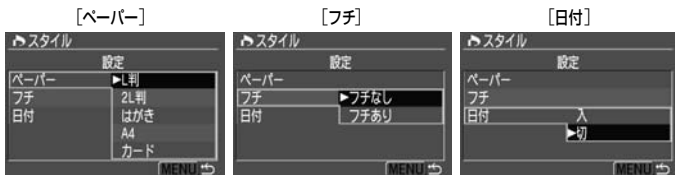
- 〈◎〉を回して［**スタイル**］を選び、〈SET〉を押します。

➡ スタイル設定画面になります。

4 項目を設定する

［ペーパー］

［フチ］

［日付］

- 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。
- 続けて〈◎〉を回して内容を選び、〈SET〉を押します。
- ［**ペーパー**］は、プリンターにセットされているペーパー（用紙）のサイズを選びます。
- ［**フチ**］［**日付**］は、設定状態を確認し、必要に応じて設定します。
- 設定が終わったら、〈MENU〉ボタンを押してプリント設定画面に戻ります。

5 プリント枚数を設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈◎〉を回して［**枚**］を選び、〈SET〉を押します。
- 続けて〈◎〉を回してプリント枚数を設定し、〈SET〉を押します。
- 1～99枚まで設定できます。

6 トリミングの設定をする

- 必要に応じて設定します。
- トリミングについては、127 ページを参照してください。

7 プリントする

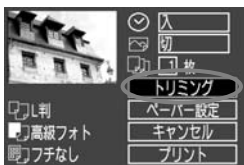
- 〈◎〉を回して［**プリント**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プリントが開始されます。
- プリントが終了すると、手順1の状態に戻ります。
- プリントを中止するときは、[**中止**］が表示されている間に〈SET〉を押し、〈◎〉を回して［**OK**］を選び〈SET〉を押します。

［**フチあり**］にすると、プリンターの機種によっては、日付がフチにかかることがあります。

- ［**日付**］を［**入**］にすると、画像に記録されている日付情報を入れてプリントします。日付は用紙の右下に印刷されます。
- プリント中に［**中止**］を選ぶと、プリントが中止され、プリント中のペーパー（用紙）が排紙されます。
- プリント中に問題が発生したときは、カメラの液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。［**中止**］または［**続行**］を選びます。［**続行**］を選んでもプリントが再開されないときは、問題を解決すると自動的にプリントを再開します。
- 操作パネルがある BJ プリンターを使用しているときは、エラー発生時にエラー番号が表示されます。エラー番号に対応した対処方法については、BJプリンターの使用説明書を参照してください。

トリミング（プリント範囲）の設定

画面を部分的に拡大したプリントや、構図を変えたような感じでプリントすることができます。

トリミングの設定は、プリントする直前に行ってください。トリミングを行ったあとでプリント設定の内容を変更すると、トリミングの再設定が必要になることがあります。

1 ［トリミング］を選ぶ

● 〈◎〉を回して［**トリミング**］を選び、〈SET〉を押します。

➡ トリミング画面になります。

2 トリミングする

● トリミング枠の内側がプリントされる範囲です。

● 操作案内表示は、トリミング操作中消えます。操作をやめて約5秒経過すると再表示します。

枠の大きさを変える

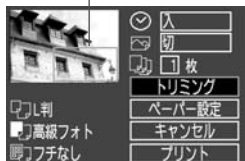
● 〈⊕〉、〈▣·⊖〉ボタンを押すと、トリミング枠の大きさが変わります。枠を小さくするほど拡大してプリントされます。

枠を移動する

● 〈✣〉を操作するとトリミング枠が上下左右、斜めに移動します。好みの構図になるように枠を移動します。

枠を回転する

● 〈INFO.〉ボタンを押すと、押すたびにトリミング枠が縦長、横長に変わります。横位置で撮影した画像を、縦位置で撮影したようにプリントすることもできます。

プリント範囲

3 設定を終了する

- 〈SET〉を押します。
- ➡ プリント設定画面に戻ります。
- ➡ 画面左上でプリント範囲を確認することができます。

- プリンターの機種によっては、トリミング枠のとおりにプリントされないことがあります。
- トリミング枠を小さくするほどプリントの画質が粗くなります。プリントの画質が粗くなるときに、トリミング枠が赤く表示されます。
- トリミングは、カメラの液晶モニターを見ながら行ってください。画像をテレビに表示しながらトリミングすると、トリミング枠が正しく表示されないことがあります。

トリミング枠の形状は、ペーパー設定、用紙サイズ / 画面設定、フチの設定で変わります。

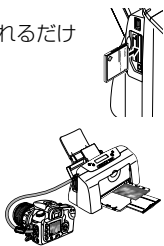
9

撮影画像のプリント指定／DPOF

CFカードに記録されている画像の中から、プリントしたい画像や枚数などを、あらかじめカメラで指定することができます。この機能をプリント指定機能（DPOF）といいます。DPOF対応のプリンターなどでプリントするときや、写真店にプリントを注文するときに便利な機能です。

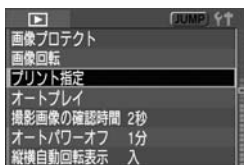
DPOF（ディーポフ）について

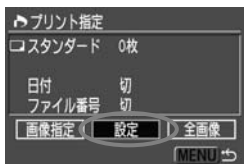
DPOF（Digital Print Order Format）は、デジタルカメラで撮影した画像の中から、プリントしたい画像や枚数などのプリント指定情報を、CFカードに記録するための規格です。DPOF対応のデジタルカメラでプリント指定すると、次のようなことができます。

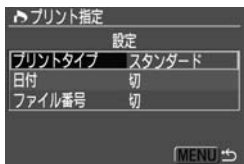
- DPOF 対応のプリンターに CF カードを入れるだけで、指定したとおりにプリントできます。
- ダイレクトプリント対応のプリンターから直接、指定したとおりにプリントできます。
- 写真店にプリントを注文する際、注文用紙にプリントしたい画像の指定や枚数などの記入が不要になります。

MENU 撮影画像をプリント指定する

プリント内容の設定

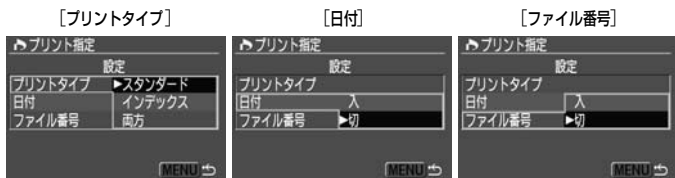
プリントタイプや日付、ファイル番号の入／切といったプリント内容の設定を行います。この設定は、プリント指定したすべての画像に対して、一律に適用されます（1画像ごとに別々の設定はできません）。

<table>
<tr><td rowspan="3">プリントタイプ</td><td></td><td>スタンダード</td><td>用紙1枚に1画像をプリントします。</td></tr>
<tr><td></td><td>インデックス</td><td>用紙1枚に縮小画像を複数プリントします。</td></tr>
<tr><td></td><td>両方</td><td>スタンダードとインデックスの両方をプリントします。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">日付</td><td colspan="2">入</td><td rowspan="2">［入］にすると、撮影画像に記録されている日付情報を入れてプリントします。</td></tr>
<tr><td colspan="2">切</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ファイル番号</td><td colspan="2">入</td><td rowspan="2">［入］にすると、ファイル番号を付けてプリントします。</td></tr>
<tr><td colspan="2">切</td></tr>
</table>

1 ［プリント指定］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［▶ プリント指定］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プリント指定画面になります。

2 ［設定］を選ぶ

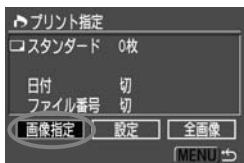
- 〈◎〉を回して［設定］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プリント設定画面になります。

3 項目を設定する

- ［プリントタイプ］［日付］［ファイル番号］の内容を設定します。
- 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。
- 続けて〈◎〉を回して内容を選び、〈SET〉を押します。

［プリントタイプ］　［日付］　［ファイル番号］

4 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ プリント指定画面に戻ります。
- 次にプリント指定画面の［**画像指定**］［**全画像**］で、プリントする画像を指定します。

- RAW形式の画像はプリント指定できません。
- ［**日付**］［**ファイル番号**］を［**入**］にしても、プリントタイプの設定や、プリンターの機種によっては、プリントされないことがあります。
- ［**インデックス**］では、［**日付**］と［**ファイル番号**］を同時に［**入**］にできません。
- プリントするときは、プリント指定を行った CF カードを使用してください。画像データだけをCFカードから抜き出してプリントすると、指定した内容でプリントできません。
- DPOF 対応プリンターの機種や、写真店の機器によっては、指定内容が反映されないことがあります。プリンターの場合は、プリンターの使用説明書を参照してください。写真店の場合は、事前にお店に確認してください。
- ほかのカメラで撮影した画像を、このカメラに入れてプリント指定しないでください。〈▲〉が表示され、プリント指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。また、画像のファイル形式によっては、プリント指定できないことがあります。

1画像ずつ指定

1 ［画像指定］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**画像指定**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画像指定画面になります。

2 プリント指定する画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して画像を選びます。
- 〈▦・Q〉を押すと、3画像表示になります。〈⊕〉を押すと、元の表示に戻ります。

3画像表示

3 プリントを指定する

- ［**プリントタイプ**］（130）の設定 状態によって、指定の内容が変わります。

［スタンダード］［両方］の場合

- 画像ごとにスタンダードタイプのプリント枚数を設定できます。
- 〈SET〉を押したあと、〈◎〉を回してプリント枚数を選び、〈SET〉を押します。

［インデックス］の場合

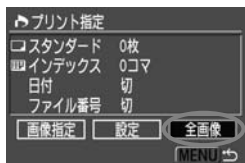
- インデックスプリントに加える（〈✓〉表示）／加えない（〈✓〉なし）を設定します。
- 〈SET〉を押すと〈✓〉がつき、もう一度〈SET〉を押すと〈✓〉が消えます。

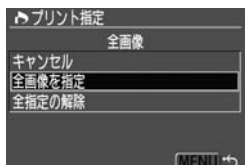
- ほかに指定したい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。
- 合計998画像まで指定できます。

4 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ プリント指定画面に戻ります。
- もう一度〈MENU〉ボタンを押すと、指定した内容がCFカードに保存され、メニューに戻ります。

全画像指定

CFカードに記録されている全画像のプリント指定と解除ができます。スタンダードタイプのプリント枚数は、すべて1画像1枚になります。
「1画像ずつ指定」の操作をしたあとで「全画像指定」の操作を行うと、全画像指定の設定に変わりますので、注意してください。

1 ［全画像］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**全画像**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 全画像指定画面になります。

2 ［全画像を指定］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**全画像を指定**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ すべての画像が1枚ずつプリント指定され、プリント指定画面に戻ります。
- ［**全指定の解除**］を選ぶと、すでにプリント指定されていた画像の指定がすべて解除されます。
- ［**キャンセル**］を選ぶと、プリント指定画面に戻ります。

3 設定を終了する

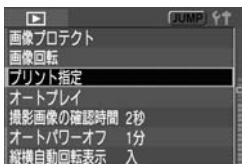
- プリント指定画面で〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ 指定した内容が CF カードに保存され、メニューに戻ります。

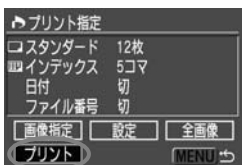
- 全画像指定をしても、RAW形式の画像はプリント指定されません。
- PictBridgeでプリントするときは、一度にプリント指定する画像の数を、500画像以下にしてください。それ以上指定すると、すべての画像をプリントできないことがあります。

MENU プリント指定画像のダイレクトプリント

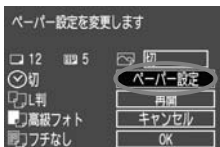
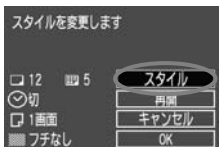
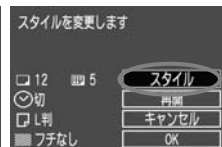
DPOFでプリント指定した画像を、ダイレクトプリント対応のプリンターで簡単にプリントすることができます。

1 プリントの準備をする

- 114, 115ページを参照してください。『カメラの設定』と『カメラとプリンターの接続』の手順5まで行います。

2 ［プリント指定］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［▶ **プリント指定**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プリント指定画面になります。

3 ［プリント］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**プリント**］を選び、〈SET〉を押します。
- ［**プリント**］は、カメラとプリンターを接続して、プリントできる状態になっていないと表示されません。
- ➡ プリント設定画面になります。

4 プリント内容を設定する

PictBridge　CPダイレクト　Bubble Jet Direct

PictBridge

- ［**ペーパー設定**］と〈⊠〉プリント効果を設定します。（117）

CPダイレクト／ Bubble Jet Direct

● ［スタイル］を設定します。（121／124）

5 プリントする

● 〈〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押します。

➡ プリントが開始されます。

● プリントを中止するときは、［中止］が表示されている間に〈SET〉を押し、〈〉を回して［OK］を選び〈SET〉を押します。

● PictBridge、Bubble Jet Directでプリントするときは、必ずペーパー（用紙）サイズの設定を行ってください。

● PictBridgeでは、ファイル番号のプリントはできません。

● ［フチあり］にすると、プリンターの機種によっては、日付がフチにかかることがあります。

● 日付の背景が明るいときや、背景がフチのときは、プリンターの機種によっては、日付が薄く印刷されることがあります。

● CPダイレクトで［プリントタイプ］が［インデックス］のとき、用紙1枚にプリントされる画像数は以下のとおりです。
 ・クレジットカードサイズ: 20画像
 ・Lサイズ: 42画像
 ・ポストカードサイズ: 63画像
 Bubble Jet Directでプリントしたときの画像数については、BJプリンターの使用説明書を参照してください。

● プリントを中止したあとに、残りの画像をプリントするときは、［再開］を選びます。ただし次のときは、プリントの再開はできません。
 ・再開する前にプリント指定を変更した場合
 ・再開する前にプリント指定した画像を削除した場合
 ・CPダイレクトでインデックス設定時、再開する前にペーパーカセットを変更した場合
 ・PictBridgeでインデックス設定時、再開する前にペーパー設定を変更した場合
 ・プリントを中断したときに、CFカードの空き容量が少なかった場合

● プリント中に問題が発生したときは、PictBridge：120ページ、CPダイレクト：123ページ、Bubble Jet Direct：126ページを参照してください。

10

カメラを
カスタマイズする

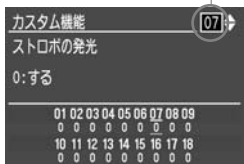
さまざまな撮影スタイルに応じて、カメラの機能を細かく変更することができます。これをカスタム機能といいます。

● カスタム機能は応用撮影ゾーンで設定、機能します。

MENU カスタム機能の設定方法★

1 ［カスタム機能（C.Fn）］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［¥† カスタム機能（C.Fn）］を選び、〈SET〉を押します。

➡ カスタム機能設定画面になります。

2 カスタム機能番号を選ぶ

- 〈◎〉を回して希望する機能番号を選び、〈SET〉を押します。

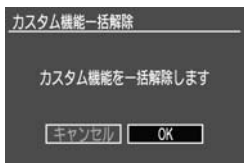
設定内容

3 設定を変更する

- 〈◎〉を回して希望する設定内容（番号）を選び、〈SET〉を押します。
- 手順2、3を繰り返して、その他のカスタム機能を設定します。
- 画面下でカスタム機能の設定状態を確認することができます。

4 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと、メニューに戻ります。

カスタム機能の設定をすべて解除するときは★

手順1で［¥† 設定解除］を選び、［カスタム機能一括解除］を選ぶと、一括解除の確認画面が表示されます。

- 〈◎〉を回して［OK］を選び〈SET〉を押すと、カスタム機能がすべて解除されます。

MENU カスタム機能で変更できる内容★

C.Fn-01　撮影時のセットボタン機能

撮影準備状態における、〈SET〉の機能の割り当てを変更することができます。C.Fn-01-1,2は〈SET〉を押したあと、表示パネルを見ながら、〈◎〉で直接設定することができます。

0：通常（なし）

1：記録画質選択

記録画質を直接選択できるようになります。

2：現像パラメーター選択

現像パラメーターを直接選択できるようになります。「**PA-P1,P2**」はパラメーター1,2、「**PA-1**～**PA-3**」はセット1～3、「**PA- B/W**」はモノクロを表しています。

3：メニュー表示

〈MENU〉ボタンと同じになります。

4：画像の再生

〈▶〉ボタンと同じになります。

C.Fn-02　長秒時露光時のノイズ低減

0：しない

1：する

1秒以上の長秒時露光やバルブ撮影を行ったときにノイズを軽減します。撮影後は露光時間と同じ低減処理時間が必要となります。処理中は「**buSY**」が表示され撮影できません。

C.Fn-03　Avモード時のストロボ同調速度

0：自動

1：1/250秒固定

絞り優先AE（Av）モードでのストロボ撮影で、シャッター速度を1/250秒に固定します。（夜景などを背景にした暗い場所で撮影すると、被写体の背景が暗くなります。）

C.Fn-04　シャッターボタン/AEロックボタン

0：AF/AEロック

1：AEロック/AF

ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。〈✱〉ボタンでAF作動、シャッターボタン半押しでAEロック（露出を固定）することができます。

2：AF/AFロック（AEロックなし）

AIサーボAF中にカメラと主被写体の間を障害物が横切るとき、障害物にピントが合わないよう、〈✱〉ボタンでAFの作動を一時停止することができます。露出は撮影の瞬間に決まります。

3：AE/AF（AEロックなし）

移動／停止を繰り返す被写体の撮影などに有効です。AIサーボAFを設定しておくと、〈✱〉ボタンでAIサーボAFの作動／停止を繰り返すことができます。露出は撮影の瞬間に決まります。ピントと露出を常に最適な状態にして、シャッターチャンスを待つことができます。

C.Fn-04とC.Fn-17-0,1,2（144）は、共にAF作動／停止とAEロックの機能を持っていますが、この2つを併用して二重操作を行った場合、あとから行う操作で有効になるのは、AFスタート後のAFストップ操作だけです。他の二重操作では、あとから行った操作は有効になりません。

C.Fn-05　AF補助光の投光

カメラのAF補助光、EOS専用外部ストロボのAF補助光の投光を行うかどうかを設定することができます。

0：する

1：しない

AF補助光を投光しません。

2：外部ストロボ使用時のみ投光する

EOS専用外部ストロボ使用時は、必要に応じてAF補助光を投光します。内蔵ストロボ使用時は投光しません。

C.Fn-06　露出設定ステップ

0：1/3段

1：1/2段

シャッター速度と絞り数値、および露出補正、AEBなどの設定ステップを1/2段ステップにすることができます。

C.Fn-07　ストロボの発光

内蔵ストロボ、外部ストロボ、シンクロ端子を利用した汎用ストロボの発光を行うかどうかを設定することができます。

0：する

1：しない

ストロボを発光しません。

C.Fn-08　ISO感度拡張

0：しない

1：する

ISO感度を設定するときに、ISO3200相当「**H**」が選択できるようになります。

C.Fn-09　ブラケティング順序/自動解除

シャッター速度、または絞り数値を自動的に変化させるAEBの撮影順序と、ホワイトバランスブラケティング（WB-BKT）撮影時のファイル保存順序を変更することができます。

「自動解除する」を選択すると、以下の条件でブラケティングが解除されます。

AEB：〈◎〉スイッチ〈OFF〉、レンズ交換、ストロボ充電完了、バッテリー交換、CFカード交換

WB-BKT：〈◎〉スイッチ〈OFF〉、バッテリー交換、CFカード交換

0：0 → － → ＋ /する

1：0 → － → ＋ /しない

最初の1枚を標準露出（または基準WB）にしたブラケティング撮影を、何回も繰り返すときに有効です。

2：－ → 0 → ＋ /する

マイナス（ブルー寄りまたはマゼンタ寄り）補正から順にブラケティング撮影することができます。

3：－ → 0 → ＋ /しない

マイナス（ブルー寄りまたはマゼンタ寄り）補正からのブラケティング撮影を、何回も繰り返すときに有効です。

AEB	WBブラケティング	
	B/A方向設定時	M/G方向設定時
0 ：標準露出	0 ：基準ホワイトバランス	0 ：基準ホワイトバランス
－：マイナス補正	－：ブルー寄りに補正	－：マゼンタ寄りに補正
＋：プラス補正	＋：アンバー寄りに補正	＋：グリーン寄りに補正

C.Fn-10　スーパーインポーズの表示

0：する

1：しない

ピントが合ったときにファインダー内のAFフレームの赤色点灯表示を行いません。点灯がわずらわしいときに設定します。
ただし、AFフレーム選択時は点灯します。

C.Fn-11　メニューの表示位置

〈MENU〉ボタンを押したときの、メニュー項目の表示位置を設定することができます。

0：直前のメニュー（電源切で先頭）

前回設定したメニュー項目を表示します。
ただし、〈◎〉スイッチ〈OFF〉、バッテリーパック交換、CFカード交換で、一番初めのメニュー項目［**記録画質**］を表示します。

1：直前のメニュー

前回設定したメニュー項目を表示します。

2：メニューの先頭

常に一番初めのメニュー項目［**記録画質**］を表示します。

C.Fn-12　ミラーアップ撮影

0：しない

1：する

近接撮影や望遠撮影で、ミラー作動によるカメラブレを防止するのに有効です。ミラーアップ撮影については、86ページを参照してください。

C.Fn-13　AFフレーム選択方法

0：通常

〈⊞〉ボタンを押したあと、〈✣〉でAFフレームを選びます。

1：マルチコントローラーダイレクト

最初に〈⊞〉ボタンを押さずに、〈✣〉で直接AFフレームを選ぶことができます。〈⊞〉ボタンを押すと自動選択になります。

2：サブ電子ダイレクト

最初に〈⊞〉ボタンを押さずに、〈◎〉で直接AFフレームを選ぶことができます。〈⊞〉ボタンを押しながら〈⚙〉を回すと、露出補正を行うことができます。

C.Fn-14　E-TTL II 調光方式

0： 評価調光

暗い場所から日中シンクロまでのストロボ撮影を、全自動で行うことができます。

1： 平均調光

測光領域全体で平均的に調光します。自動補正は行ないませんので、状況に応じてストロボ調光補正を行ってください。また、FEロック時も状況に応じて調光補正を行ってください。

C.Fn-15　ストロボのシンクロタイミング

0： 先幕シンクロ

1： 後幕シンクロ

遅いシャッター速度を設定したときに、光源の軌跡を写し込むことができます。シャッターが閉じる直前にストロボが発光します。同調（シンクロ）タイミング切り換え機能がないEXスピードライトで、後幕シンクロができるようになります。切り換え機能を持つEXスピードライトでは、ストロボ側の設定が優先されます。

後幕シンクロに設定したときは、シャッターボタンを全押しした直後に、調光制御のためにストロボがプリ発光します。そのあと、シャッターが切れる直前に本発光しますので注意してください。

C.Fn-16　セイフティシフトの設定

0： しない

1： する

シャッター優先AE（Tv）、絞り優先AE（Av）撮影時に機能します。被写体の明るさが急に変化して、設定したシャッター速度、絞り数値が不適切になっても、設定値を自動的に変更して適正露出にします。

C.Fn-17 レンズ・AFストップボタンの機能

0： AFストップ

1： AFスタート

押している間だけ AFが作動します。押している間は、カメラ側操作による AFの作動は行いません。

2： AEロック(タイマー中)

測光タイマー作動中に押すとAEロックします。ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。

3： AFフレーム 任意→自動 自動→中央

AFフレーム任意選択時に押すと、押している間だけAFフレーム自動選択になります。任意選択から自動選択へ瞬時に切り換わるので、AI サーボAF作動中に、任意選択したAFフレームで追従できなくなったときに有効です。AFフレーム自動選択時に押すと、押している間だけ中央AFフレームが選択されます。

4： ONE SHOT ⇔ AI SERVO

ワンショットAF設定時に押すと、押している間だけAIサーボAFになり、AI サーボ AF設定時に押すと、押している間だけワンショットAFになります。移動･停止を繰り返す被写体で、ワンショットAF、AIサーボAFを交互に切り換えたいときに有効です。

5： 手ブレ補正機能作動

レンズの手ブレ補正機能のスイッチをONにしておくと、押している間だけ手ブレ補正機能が作動します。

 AFストップボタンは、大型の超望遠レンズに装備されています。

C.Fn-18 オリジナル画像判定用データの付加

0： しない

1： する

撮影画像に、その画像がオリジナルであるか否かを判定するためのデータが自動的に付加されます。判定用データが付加された画像を撮影情報表示（102）で再生すると、〈🔒〉マークが表示されます。オリジナル画像の判定には、オリジナルデータ確認キットDVK-E2（別売）が必要です。

11

資料

カメラを快適に使っていただくために、この『資料』を設けました。撮影の参考になるカメラの機能情報、システムアクセサリーの紹介などを行います。

撮影機能の組み合わせ一覧

●：自動設定　○：選択可能

モードダイヤル		簡単撮影ゾーン							応用撮影ゾーン				
		全自動	ポートレート	風景	クローズアップ	スポーツ	夜景ポートレート	ストロボ発光禁止	P	Tv	Av	M	A-DEP
記録画質	JPEG	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	RAW								○	○	○	○	○
	RAW + JPEG								○	○	○	○	○
ISO感度	自動設定	●	●	●	●	●	●	●					
	手動設定								○	○	○	○	○
ホワイトバランス	オートWB	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
	プリセットWB、MWB、色温度指定、WB補正、WBブラケティング								○	○	○	○	○
現像パラメーター		●（パラメーター1）							○	○	○	○	○
AF	ワンショット		●	●	●		●		○	○	○	○	●
	AIサーボ					●			○	○	○	○	–
	AIフォーカス	●						●	○	○	○	○	–
	AFフレーム選択 自動	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	●
	AFフレーム選択 任意								○	○	○	○	
測光方式	評価測光	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
	部分測光								○	○	○	○	○
	中央部重点平均測光								○	○	○	○	○
露出	プログラムシフト								○				
	露出補正								○	○	○		○
	AEB								○	○	○	○	○
	AEロック								○	○	○		○
	被写界深度確認								○	○	○	○	○
ドライブ	1枚撮影	●		●	●		●	●	○	○	○	○	○
	連続撮影		●			●			○	○	○	○	○
内蔵ストロボ	自動発光	●	●		●		●						
	手動発光								○	○	○	○	○
	発光禁止			●		●		●					
	赤目緩和	○	○		○		○		○	○	○	○	○
	FEロック								○	○	○	○	○
	ストロボ調光補正								○	○	○	○	○
カスタム機能/一括解除									○	○	○	○	○
カメラ設定初期化									○	○	○	○	○
画像素子の清掃									○	○	○	○	○

AFモードとドライブモードの関係

ドライブモード	ワンショットAF	AIサーボAF	AIフォーカスAF
1枚撮影	ピント合わせが終わるまでは撮影できません。ピントが合うと同時にピントを固定します。評価測光の場合は、露出を固定します。（撮影前に露出を記憶）	被写体の動きに合わせてピント合わせを続けます。露出は撮影する瞬間に決まります。	被写体の状態によってワンショットAFからAI サーボAFに自動的に切り換わります。
連続撮影	上と同じ条件で連続撮影となります。（1秒間に最高約5コマ）連続撮影中にピント合わせは行われません。	上と同じ条件で連続撮影となります。（1秒間に最高約5コマ）連続撮影中もピント合わせが行われます。	

AEロックの効果

（撮影モードが応用撮影ゾーンのとき）

AFフレームの選択 / 測光方式	自動選択	任意選択
評価測光*	ピントを合わせたAFフレームを中心にした露出値でAEロック	選択されているAFフレームを中心にした露出値でAEロック
部分測光	中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロック	
中央部重点平均測光		

* レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉のときは、中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックします。

撮影画角について

撮影画面は、35mm判カメラの撮影画面より小さいため、装着したレンズの有効撮影画角は、「表記焦点距離×約1.6倍」相当になります。

撮影画面
（22.5×15.0mm）

35mm判フィルム撮影画面
（36×24mm）

故障かな？とお考えになる前に

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。

電源

バッテリーが充電できない

● **専用のバッテリーを使用していますか？**

➡ バッテリーパックBP-511A、BP-514、BP-511、BP-512を使用してください。

● **バッテリーチャージャーに正しくセットしましたか？**

➡ バッテリーパックを正しくセットしてください。（16）

〈〉スイッチを〈ON〉、〈〉の位置にしてもカメラが作動しない

● **バッテリーが消耗していませんか？**

➡ バッテリーパックを充電してください。（16）

● **バッテリーを正しく入れましたか？**

➡ バッテリーパックを正しく入れてください。（18）

● **バッテリー室ふたが開いていませんか？**

➡ バッテリー室ふたをしっかりと閉めてください。（18）

● **CFカードスロットカバーが開いていませんか？**

➡ CFカードスロットカバーをしっかり閉めてください。（22）

〈〉スイッチを〈OFF〉にしてもアクセスランプが点滅する

● **撮影後、すぐに〈〉スイッチを〈OFF〉にしても、CFカードへの画像記録を行うため、数秒間はアクセスランプが点灯／点滅します。**

➡ CFカードへの画像記録が終了すれば、アクセスランプは消え、自動的に電源が切れます。

バッテリーの消耗が早い

● **バッテリーが十分に充電されていますか？**

➡ バッテリーパックを十分に充電してください。（16）

● **バッテリーの寿命ではありませんか？**

➡ 新しいバッテリーパックをお買い求めください。

電源が勝手に切れる

- オートパワーオフ機能が働いていませんか？

➡ シャッターボタンを半押ししてください。オートパワーオフ機能が働かないようにするときは、メニュー機能の［**ƒ オートパワーオフ**］を［**切**］にしてください。

表示パネルに〈□〉のみが点滅している

- バッテリーの残量が極端に少なくなっています。

➡ バッテリーパックを充電してください。（16）

撮影

撮影・記録ができない

- CFカードが正しくセットされていますか？

➡ CFカードを正しく入れてください。（22）

- CFカードがいっぱいになっていませんか？

➡ 新しいCFカードに入れ換えるか、不要な画像を消去してください。（22、110）

- バッテリーが消耗していませんか？

➡ バッテリーパックを充電してください。（16）

- ピントは合っていますか？（ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅していませんか？）

➡ もう一度シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせなおしてください。それでもピントが合わないときは、手動でピントを合わせてください。（24、68）

液晶モニターの表示・画像が不鮮明になる

- ゴミやほこりがついていませんか？

➡ 眼鏡ふきややわらかい布などでふいてください。

- 液晶が消耗していませんか？

➡ 別紙のお客様相談センターにご相談ください。

画像がボケて写っている

● レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉になっていませんか？
➡ レンズのフォーカスモードスイッチを〈**AF**〉にしてください。（21）
● シャッターボタンを押すときに手ブレを起こしていませんか？
➡ 手ブレを起こさないように、シャッターボタンを静かに押してください。（24、36）

CFカードが使えない

● 表示パネルに［**Err ＊＊**］が表示されていませんか？
➡［**Err CF**］のときは、112ページを参照してください。
➡［**Err 02**］のときは、151ページを参照してください。
● キヤノン製以外のCFカードを使用していませんか？
➡ キヤノン製CFカードの使用をおすすめします。（153）

撮影画像の確認・操作

画像を消去できない

● 画像にプロテクトをかけていませんか？
➡ プロテクトを解除してください。（109）

撮影年月日／時刻が正しく表示されない

● 日付/時刻が正しく設定されていますか？
➡ 日付/時刻を正しく設定してください。（32）

テレビに画像が表示されない

● ビデオケーブルのプラグを根元まで差し込んでいますか？
➡ ビデオケーブルのプラグを、根元までしっかりと差し込んでください。（108）
● ビデオ出力方式（NTSC/PAL）が正しく設定されていますか？
➡ 接続する機器と同じビデオ出力方式に設定ください。（29）

エラーコード表示

カメラに異常が発生すると、表示パネルに「**Err xx**」が表示されます。エラーコードに応じて、以下の対応を行ってください。
頻繁にこのエラーコードが表示されるときは、故障ですので「**xx**」の数値を控えて別紙の修理サービスご相談窓口にご相談ください。
また、撮影直後にこのエラーコードが表示されたときは、撮影されていない場合がありますので、〈▶〉ボタンを押して画像を確認してください。

エラーコード	対 応
Err 01	カメラとレンズの通信不良です。 レンズの接点を清掃してください。（7）
Err 02	CFカードに問題があります。次のいずれかの対応を行ってください。CFカードの抜き差しを行う。CFカードを初期化する。別のCFカードに交換する。
Err 04	CFカードの容量がいっぱいです。不要な画像を消去するか、十分な空き容量のあるCFカードに交換してください。
Err 05	内蔵ストロボの自動ポップアップを阻害しました。 〈⚡〉スイッチ〈OFF〉→〈ON〉を行ってください。
Err 99	上記以外の異常が発生しました。 バッテリーを抜き差しを行ってください。 他社製のレンズを使用すると、カメラやレンズが正常に作動できず、このエラーが発生することがあります。

主なアクセサリー（別売）

バッテリーパック BP-511A

大容量のリチウムイオン二次電池パックです。

ACアダプターキット ACK-E2

家庭用電源キット（ACアダプター、DCカプラー、電源コード）です。AC100～240Vに対応しています。

コンパクトパワーアダプター CA-PS400

BP-511A用の急速充電器です。1パックの充電所用時間は約110分、一度に2パックの取り付けができます。また、DCカプラーDR-400（別売）を接続することもできます。AC100～240Vに対応しています。

バッテリーグリップ BG-E2

BP-511Aを2個、または単3形電池を6本装填可能なバッテリーグリップです。縦位置用シャッターボタン、電子ダイヤル、AEロック/FEロックボタン、AFフレーム選択ボタンを装備しています。

セミハードケース EH17-L

カメラを保護するための専用ケースです。
カメラにEF-S17-85mm F4-5.6 IS USM（別売）を付けたまま収納することができます。

クリップオンタイプストロボ

アクセサリーシューに取り付けて使用するストロボとして、EXシリーズスピードライトがあります。ストロボなしの通常の撮影と同じ感覚で、E-TTL II 自動調光撮影を行うことができます。

マクロストロボ

近接撮影用ストロボとして、EXシリーズマクロストロボ（2種類）があります。片側発光から、光量比制御まで、高度なライティングをE-TTL II 自動調光で簡単に行うことができます。

リモートスイッチ RS-80N3

超望遠撮影、マクロ撮影、長時間露光（バルブ）撮影などにおける、カメラブレ防止に有効なリモートスイッチです。コード長は約80cm。スイッチはシャッターボタン半押し、全押しと同じ機能、およびレリーズロック機能を備えています。カメラへの接続プラグはワンタッチロック式です。

タイマーリモートコントローラー TC-80N3

①セルフタイマー ②インターバルタイマー ③長時間露光タイマー ④撮影回数設定機能を内蔵した、コード長約80cmのリモートスイッチです。時間は、1秒から99時間59分59秒まで1秒単位で設定できます。カメラへの接続プラグはワンタッチロック式です。

視度補正レンズ E

内蔵の視度調整機能との組み合わせで、さらに調整範囲が広がる視度補正レンズEが10種類（－4dpt～＋3dpt）用意されています。

CFカード

撮影した画像を記録するためのメモリーカードです。CFカードは、キヤノン製CFカードの使用をおすすめします。

PCカードアダプター

CFカードをパソコンのPCカードスロットや、カードリーダーへ差し込むためのアダプターです。

システムマップ

アイピースエクステンダー
EP-EX15
ラバーフレームEb
視度補正レンズE
アイカップEb
アングルファインダーC
セミハードケース
EH17-L
ST-E2
220EX
420EX
580EX
マクロリングライト
MR-14EX
マクロツインライト
MT-24EX
付属品
* レンズ付きキットには
EF-S18-55mmレンズが付属
ワイドストラップ
EW-100DGR
バッテリーチャージャー
CG-580
バッテリーパック
BP-511A
日付/時計機能用
CR2016リチウム電池
バッテリーパック
BP-514
バッテリーパック
BP-511A
ACアダプター
AC-E2
DCカプラー
DR-400
ACアダプターキット
ACK-E2
バッテリーマガジン
BGM-E2
バッテリーグリップ
BG-E2
コンパクト
パワーアダプター
CA-PS400

CFカード
CFカードリーダー
PCカードアダプター
パソコン
PCカードスロット
USBポート
(2.0/1.1)
Windows XP
(Home Edition / Professional)
Windows 2000 Professional
Windows ME
Windows 98 Second Edition
Mac OS X 10.1~10.3
Mac OS 9.0~9.2
· EOS DIGITAL Solution Disk
· Digital Photo Professional Disk
· Adobe Photoshop Elements Disk
オリジナルデータ
確認キット DVK-E2
(Ver.2.1)
インターフェースケーブル
IFC-400PCU
PictBridge対応プリンター
Bubble Jet Direct対応プリンター
ビデオケーブル
VC-100
CPプリンター
EF-Sレンズ
タイマーリモート
コントローラー
TC-80N3
テレビ/ビデオ
EFレンズ
ワイヤレス
コントローラー
LC-4
リモートスイッチ
RS-80N3

主な仕様

■型式

型式......ストロボ内蔵、デジタル一眼レフレックスAF・AEカメラ
記録媒体......CFカード（タイプI、II準拠）
* マイクロドライブ、2GB以上のCFカード使用可
撮像画面サイズ......22.5×15.0mm
使用レンズ......キヤノンEFレンズ群（EF-Sレンズを含む）
(有効撮影画角は、表記焦点距離の約1.6倍に相当)
レンズマウント......キヤノンEFマウント

■撮像素子

形式......高感度・高解像度大型単板CMOSセンサー
画素数......カメラ部有効画素：約820万画素
総画素：約850万画素
アスペクト比......3：2
カラーフィルター方式......RGB原色フィルター
ローパスフィルター......固定式、撮像素子前面に配置

■記録形式

記録フォーマット形式......DCF 2.0：JPEG、およびRAW
記録画像形式......JPEG、RAW（12bit）
RAW＋JPEG同時記録...可能
ファイルサイズ......(1)Large/Fine　：約3.6MB（3504×2336画素）
(2)Large/Normal　：約1.8MB（3504×2336画素）
(3)Middle/Fine　：約2.2MB（2544×1696画素）
(4)Middle/Normal：約1.1MB（2544×1696画素）
(5)Small/Fine　：約1.2MB（1728×1152画素）
(6)Small/Normal　：約0.6MB（1728×1152画素）
(7)RAW　：約8.7MB（3504×2336画素）
* ファイルサイズは、被写体条件、ISO感度、現像パラメーターなどにより異なる
ファイル番号......通し番号、オートリセット
色空間......sRGB、Adobe RGB
現像パラメーター......パラメーター1、2、セット1～3（任意設定した現像パラメーターを3件登録可能）、モノクロ
インターフェース......USB 2.0 Hi-Speed（標準／PTP選択可能）
ビデオ出力（NTSC／PAL選択可能）

■ホワイトバランス

種類......オート、太陽光、日陰、くもり、白熱電球、白色蛍光灯、ストロボ、マニュアル、色温度指定
オートホワイトバランス...撮像素子を用いたオートホワイトバランス

色温度補正.........................ホワイトバランス補正：1段ステップ±9段
ホワイトバランスブラケティング：1段ステップ±3段
* ブルー／アンバー方向、マゼンタ／グリーン方向に補正可能
色温度情報通信..................対応

■ファインダー

方式....................................ペンタプリズム使用、アイレベル式
視野率...............................上下／左右とも95%
倍率....................................0.9倍（50mmレンズ・∞・－1dpt）
アイポイント....................20mm
視度調整範囲.....................－3.0～＋1.0dpt
フォーカシングスクリーン...固定式、プレシジョンマット
ミラー................................クイックリターン式全面ハーフミラー
（透過：反射=40：60、ミラー切れ：600mm F4までなし）
ファインダー情報.............AF情報（AFフレーム、合焦マーク）、露出情報（シャッター速度、絞り数値、AEロック、露出レベル表示、部分測光範囲、露出警告）、ストロボ情報（充電完了、赤目緩和ランプ点灯、ハイスピードシンクロ、FEロック、調光補正）、ホワイトバランス補正、連続撮影可能枚数、CFカード情報
被写界深度確認..................絞り込みボタンによる

■オートフォーカス

方式....................................CMOSセンサーによるTTL-CT-SIR方式
（TTL二次結像位相差検出方式）
測距点................................9点
測距輝度範囲.....................EV－0.5～18（常温・ISO100相当）
フォーカスモード.............ワンショットAF、AIサーボAF、AIフォーカスAF、手動（MF）
AFフレーム選択................自動選択、任意選択
AFフレーム選択表示........ファインダー内スーパーインポーズと表示パネルによる
AF補助光...........................内蔵ストロボ間欠発光方式
有効距離：中央部 約4m／周辺部 約3.5m

■露出制御

測光方式............................35分割TTL開放測光
・評価測光（すべてのAFフレームに対応）
・部分測光（中央部・ファインダー画面の約9%）
・中央部重点平均測光
測光範囲............................EV1～20（常温・50mm F1.4使用・ISO100相当）

露出制御方式 .... プログラムAE（全自動、ポートレート、風景、クローズアップ、スポーツ、夜景ポートレート、ストロボ発光禁止、プログラム）、シャッター優先AE、絞り優先 AE、自動深度優先AE、マニュアル露出、E-TTL II自動調光
ISO 感度............................ 簡単撮影ゾーン：自動設定（ISO100～400 相当）
応用撮影ゾーン：ISO100、200、400、800、1600、およびISO3200相当の感度拡張が可能
露出補正............................ 手動 ：1/3、1/2段ステップ±２段（AEB 併用可能）
AEB ：1/3、1/2段ステップ±２段
AEロック........................... 自動：ワンショットAF・評価測光時、合焦と同時に AE ロック
手動：AE ロックボタン押しによる（すべての測光方式で可能）

■シャッター

形式..................................... 電子制御式、フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度 .... 1/8000～ 30秒（1/3、1/2 段ステップ）、バルブ
X=1/250秒
レリーズ方式 .... ソフトタッチ電磁レリーズ
セルフタイマー 10秒後撮影
リモコン............................ N3タイプ端子リモコン対応

■内蔵ストロボ

形式..................................... リトラクタブル式、オートポップアップストロボ
調光方式............................ E-TTL II自動調光
ガイドナンバー .... 13（ISO100 相当・m）
充電時間............................ 約3秒
充電完了表示 .... ファインダー内ストロボ充電完了マーク点灯
照射角................................ レンズ表記焦点距離 17mm 相当の画角に対応
FEロック .... 可能
ストロボ調光補正 .... 1/3、1/2段ステップ±２段

■外部ストロボ

EOS 専用ストロボ .... EXシリーズスピードライト使用時、E-TTL II自動調光
シンクロ端子 .... あり
画面サイズ対応ズーム ...... 対応

■ドライブ関係

ドライブモード .... 1枚撮影、連続撮影、セルフタイマー（10 秒）
連続撮影速度 .... 最高約5 コマ/秒
連続撮影可能枚数 .... JPEG*（Large/Fine）：約20 枚、RAW ：約6 枚
* 被写体条件、ISO感度、現像パラメーター、CF カードなどにより異なる

■液晶モニター

形式....................................TFT 式カラー液晶モニター
画面サイズ.........................1.8型
画素数................................約11.8万画素
視野率................................約100%
輝度調整.............................5 段階に調整可能
表示言語.............................12 言語

■再生機能

画像表示形式.....................1 枚、撮影情報、9枚インデックス、拡大ズーム（約1.5 倍〜10 倍）、オートプレイ、および画像回転、ジャンプ
ハイライト表示..................撮影情報表示のとき、画像情報のないハイライト部分を点滅表示

■記録画像のプロテクト／消去

プロテクト.........................1 枚単位でプロテクト、解除
消去....................................1 枚、またはCF カード内全画像の単位で消去（プロテクト画像を除く）

■ダイレクトプリント機能

対応プリンター..................CP ダイレクト、Bubble Jet Direct、およびPictBridge 対応プリンター
プリント対応画像..............JPEG 画像（DPOF指定画像のプリントも可能）

■カスタマイズ機能

カスタム機能.....................18 種50項目

■電源

使用電池.............................バッテリーパックBP-511A、BP-514、BP-511、BP-512、1 個使用
* DCカプラー使用により、AC 駆動可能
* バッテリーグリップBG-E2 装着時、単3形電池使用可能
撮影可能枚数.....................［枚］

温度	撮影条件	
	ストロボ撮影なし	50%ストロボ撮影
常温（＋20℃）	約1000	約700
低温（0℃）	約750	約550

* フル充電のバッテリーパックBP-511A使用時
バッテリーチェック..........自動
節電機能.............................あり、設定時間（1/2/4/8/15/30 分）経過で電源切

日付/時計機能用電池....... CR2016リチウム電池、1個使用

■大きさ・質量

大きさ................................ 144（幅）×105.5（高さ）×71.5（奥行）mm
質量....................................685g（本体のみ）

■動作環境

使用可能温度 ....0℃～＋40℃
使用可能湿度 85%以下

■バッテリーチャージャー CG-580

充電可能バッテリー.......... バッテリーパックBP-511A、BP-514、BP-511、BP-512
充電時間............................ BP-511A、BP-514：約100分
BP-511、BP-512　：約90分
定格入力............................ AC100～240V
定格出力............................ DC8.4V
使用可能温度 ....0℃～＋40℃
使用可能湿度 85%以下
大きさ................................ 91（幅）×67（高さ）×31（奥行）mm
質量.................................... 115g

- 記載データはすべて当社試験基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

索　引

英数字

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

わ

Canon

キヤノン株式会社
キヤノン販売株式会社　〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

お客様相談窓口

製品の取り扱い方法、修理サービスについては、機種名をご確認のうえ、お買い上げの販売店、または別紙の各相談窓口にお問い合わせください。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、製造打ち切り後7年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店、または別紙の修理サービスご相談窓口にお問い合わせください。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノンカメラサイトのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

キヤノン株式会社／キヤノン販売株式会社
canon.jp/eos-d

この使用説明書は、2004年8月に作成したものです。それ以降に発売されたアクセサリー、レンズとの組み合わせにつきましては、別紙のお客様相談センターにお問い合わせください。

リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

CT1 - 5168 - 000

PRINTED IN JAPAN
0000Ni0.0